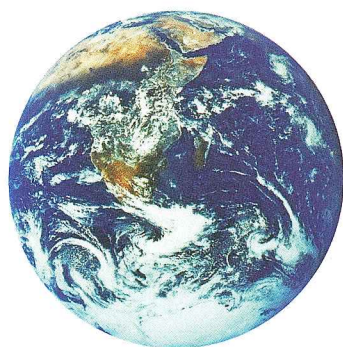


Ritsumeikan Asia Pacific University

立命館アジア太平洋大学



2006 大学案内





# 海をわたった少年たちのように…

戦国時代に大分から海をわたり、世界へ旅立った少年たちがいた。

「天正遣欧使節団」。

彼らに託された使命は、西欧文明を広く学ぶこと。

小さな島国を飛び出し、大海原をわたり、2年半の船旅を経て

求め続けたのは、さらなる知。

怖れを知らない熱いエネルギーと、未知の世界に挑む勇氣。

若い憧れが文明を拓き、経済を動かし、時代を創って来た。

時代を超え、若者たちは、今を生き、次代をめざす。

開学から7年目を迎える、ここ立命館アジア太平洋大学 (APU) で。

きっと、ここに在る、未来と自分を求めて。



## Declaration on the Occasion of the Opening of Ritsumeikan Asia Pacific University

Since the beginning of human history, human beings have attempted to create their own distinctive cultures and develop civilizations in the various regions of the world. They have also had to overcome many constraints and obstacles in order to achieve their goal of living in conditions of freedom, peace and humanity.

The twentieth century was an era of rapid progress and unprecedented advance in the political, economical and cultural fields, as human activity increasingly took place on a global scale. Through the experience of the two World Wars, the United Nations and other international organizations were formed to enhance cooperation in order to maintain peace and to promote international understanding.

Given that the 21st century will see the emergence of a global society, we firmly believe that coexistence between mankind and nature, as well as between diverse cultures, will be indispensable for the peaceful and sustainable development of the Asia Pacific region. This is why we are now establishing a university here, to nurture the young talent and to create a new academic discipline which will help shape the region's future.

April 1, 2000 therefore marked the birth of the Ritsumeikan Asia Pacific University (APU), based on a vision of freedom, peace and humanity, international mutual understanding, and the future shape of the Asia Pacific region. The establishment of the University at Jumonjibaru, in Beppu City, has been made possible through the cooperation of the people of Beppu and Oita Prefecture, together with many others both within and outside Japan.

Our hope is that it will be a place where the young future leaders from countries and regions throughout the world will come to study together, live together, and understand each other's cultures and ways of life, in pursuit of goals which are common to all mankind.

The Ritsumeikan Asia Pacific University is hereby declared open.

## 立命館アジア太平洋大学開学宣言

人類は有史以来、地球上のさまざまな地域において自らの文化を築き、文明の進化を求めて多様な営みを繰り広げてきた。人類はまた、さまざまな制約と障壁を超えて、自由と平和とヒューマンイズムの実現を求め、望ましい社会のあり方を追求してきた。

20世紀は政治・経済・文化のすべての領域においてかつてない進歩と飛躍の時代であり、人間の諸活動は地球規模で展開されるに至った。また、二度にわたる世界大戦の経験を通して、国際連合をはじめとする国際協力のための機関が設置され、平和維持と国際理解に向けての取り組みが大きく前進した。

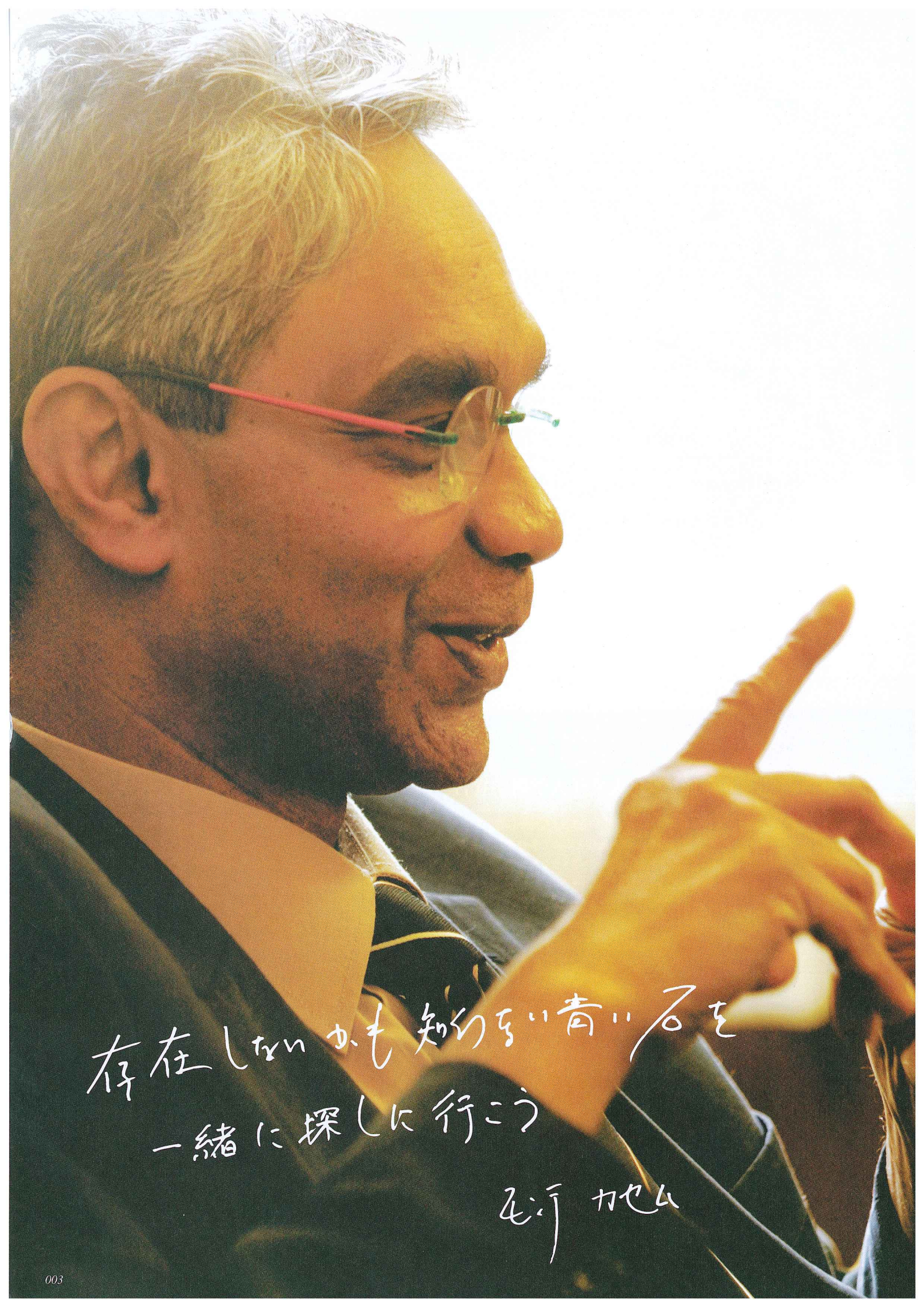
我々は、21世紀の来るべき地球社会を展望する時、アジア太平洋地域の平和的で持続可能な発展と、人

間と自然、多様な文化の共生が不可欠であると認識する。この認識に立ち、我々は、いまここにアジア太平洋の未来創造に貢献する有為の人材の養成と新たな学問の創造のために立命館アジア太平洋大学を設立する。

立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマンイズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、2000年4月1日、大分県と別府市、さらに国内外の広範な人々の協力を得て、別府市十文字原に誕生した。世界各国・地域から未来を担う若者が集い、ともに学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として、立命館アジア太平洋大学の開学をここに宣言する。

2000年4月1日





存在しないかも知れない「青」を  
一緒に探しに行こう

北村 けん



## 自分のなかにひらめきが現れたとき、 それを選択する力を学生にはもってほしい。 それは人間として進化する力だからね。

『本から学べ、人から学べ、  
そして誠実に勝負に出て行け』

これは、スリランカで私が小・中・高と通っていた伝統ある学校の校歌の一節です。

思えば、私には昔からこうなりたという強い野心はなかった。数多くの方々の助言や支えによってでき上がってきた人生だと思います。私は、まっすぐに引かれた道を歩いてきたわけではなかったんです。ただ、自分のなかにひらめきが現れたとき、素直にそれに従ってきた。そのひらめきを選択する力を、私はこの学校で学んだのだと思います。

まっすぐに引かれた道でなければ、不安に感じるかもしれない。どこへ行くかもわからない。だからこそ面白いんですよ。学問で知識を得て、人と出会って教養を高め、現場に出て経験を積む。するとまた、新たなひらめきが現れてくるのです。国連にいたとき、私は現場に出かけ、現地の人たちの声からさまざまな教えとひらめきをもらいました。

APUから、留学やインターンシップ

で毎年150人以上の学生が海外に出ています。もっと教学のなかに根づかせて、アクティブ・ラーニング・システムをとり入れようとしています。現地の人と出会い、環境に入り込むフィールドワークで経験を身につけながら、自分の潜在能力を引き出すよう期待しています。現場に出ると、人間は複



数のことを同時にやるためにできている社交性の動物だと知ることができます。自分ができないことを他人にやってもらい、集団として生き延びてきた動物なのだと。友人と学問と経験。それが生きていく力になるのです。今は生き延びるたくましさや、勇ましさ求められる時代です。APUでは学問はもちろん、文芸活動もスポーツも盛んで、すべての条件が整っているフィールドです。若者には、

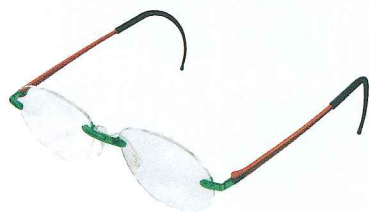
この素晴らしい環境を最大限に活用してほしいと思います。

またAPUがある九州の別府という土地は、住みやすいだけでなく、不思議なことに、私にとっては「帰って来た」という感覚を抱かせる所です。それが景色なのか、風土なのか、人々なのかはわからない。けれどもこの地には日本が引き継いできたいいものが残っている気がします。国際学生の諸君が九州の別府から日本に入るのにはラッキーなことだと思います。まず、この地を体験して、さらに日本のいろんな顔を見てほしいですね。

最後に、APUをめざす学生に、ギリシャの作家の言葉を贈りたい。

『存在しないかもしれない青い石を探しに行こう』

実は、この言葉は私から妻へのプロポーズの言葉なのですが、学問でも同じだと思います。存在するかどうかわからない未知の世界を探究していくことこそ、学ぶことの楽しさなのです。

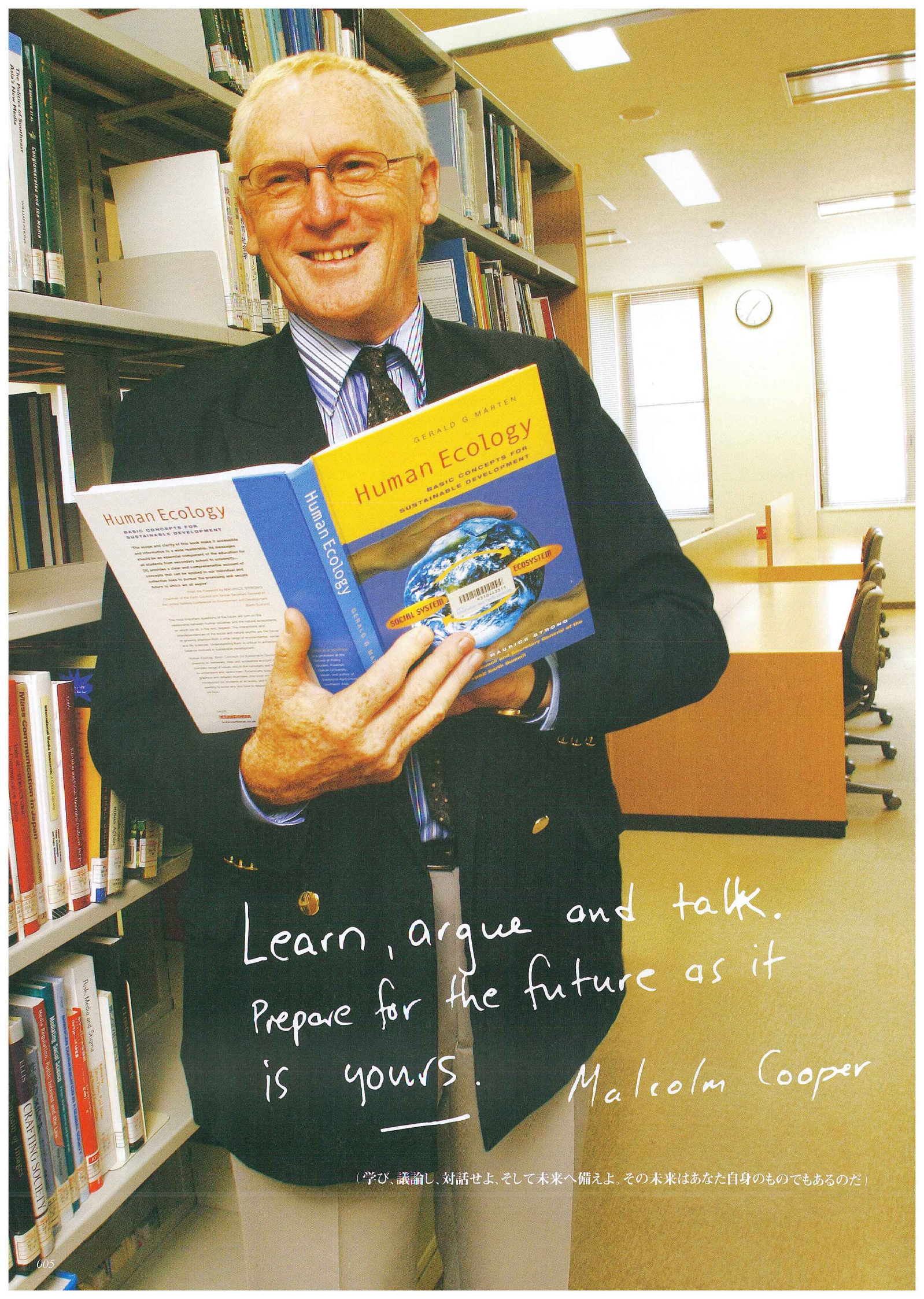


### Monte CASSIM

立命館アジア太平洋大学長。立命館副総長。1947年生まれ、スリランカ出身。東京大学大学院工学系研究科修士・博士課程修了後、国連地域開発センター 主任研究員を経て、1994年立命館大学国際関係学部教授に就任。2004年より現職。学生時代はラグビー、オートバイが趣味であり、現在は豊かな自然に囲まれたAPUと野菜作りを愛する行動派の学長である。







Learn, argue and talk.  
Prepare for the future as it  
is yours. Malcolm Cooper

(学び、議論し、対話せよ、そして未来へ備えよ。その未来はあなた自身のものでもあるのだ)

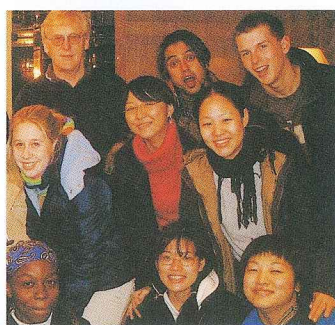


# 学生たちは教室から飛び出し、 私とともに旅をし、食事をし、調査をするんだ。 観光学・環境学を追究した彼らは、やがて未来を変えていくだろう。

観光学と環境学。私は40年前からずっと、都市設計家として、またその研究者として、携わっています。水資源と環境保護の専門家としてオーストラリアで地域開発の仕事をしていた頃、私を強く魅了したのが環境に優しい観光学、あるいはエコ・ツーリズム、そして環境を壊さずにリゾート施設を開発する手法だったのです。

私の授業は教室に黙って座り、私の話を聞くだけではありません。あるテーマについて学生たちに語らせ、議論をさせるのが好きなんです。日本人はシャイだから、こんな積極的な授業を好まない学生もいる。だから、なるべく全員が参加しやすい授業法を取り入れています。例えばスモールクラスの観光文化の授業では、ホテルやリゾート施設を建設するという仮説で、ロールプレイングをやってもらう。ある学生は投資会社になり、ある学生は政府関係者を演じる。この過程で彼らはそれぞれの役割と内容を理解していくのです。学生たちの演技は実に素晴らしい。自信のある学

生はシャイな学生の態度を変えていきながら、授業が終わる頃には、すべての学生があらゆる役割を演じて平等に仕事を成し遂げられるのです。



私の授業ではフィールドワークを大切にしています。まず教室の外に出てリサーチをしてもらう。そこでリサーチの手法、見知らぬ人との会話の仕方を覚えるのです。湯布院、長崎、沖縄など、さまざまな地域でこうしたフィールドトリップをおこなっています。学生たちは私とともに旅をし、食事をし、そして調査をする。彼らはどんどん自信を深め、積極的になっていきます。このようにして、学生が

自分の視点を持ち、自分の言葉で議論し、プレゼンテーションができるような能力を私は育てたいのです。

APUは最近、ATLAS(The Association for Tourism and Leisure Education)と新しい協定を結びました。APUの学生たちは彼らに雇用され、調査をするのです。学生たちにとって、こういった機会は素晴らしい現場の経験になると思います。そして、彼らの研究は世界で役に立つのです。就職活動では胸を張ってこう言える、「私は世界の舞台で本物の仕事をしました!」とね。

ツーリズム(観光)は今や、世界でも巨大な産業です。これは産業であると同時に地域を経済的に発展させるものでもあります。彼らが追究していく観光学、環境学の世界は、やがて未来を、世界を変えていくでしょう。私が伝える知識や情報が、その輝かしい未来への布石となることを祈ります。



## COOPER, Malcolm J.M.

立命館アジア太平洋大学副学長。アジア太平洋学部教授。ニュージーランド出身。1974年英国The University of Birminghamにて博士号(都市地域学)取得。アジア太平洋地域において、観光と開発を専門とするコンサルタント、教員として活躍。オーストラリアのWide Bay Water Corporationディレクター、University of Southern Queensland学部長を経て2005年より現職。





道のない大地の上で”

道を拓く創造者でありたい。

若林 泰弘



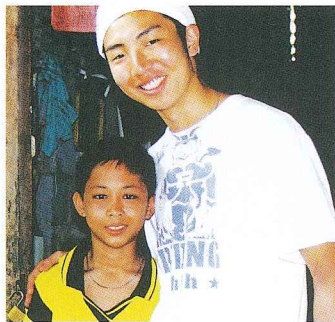


## APUに入って変わったのは、 アジアのなかの一員として外を見るようになった。 アジアの問題は、僕自身の問題なんだってね。

高校のとき、研修旅行で初めてタイを訪れたのですが、日本から飛行機でわずか6、7時間の距離で、スラムや物乞いが存在している現状を見たとき、すごくショックを受けました。最初にはかわいそうだと思ったけれど、そんなことを思う間に動けばいいんだということに気がつきました。その点、APUはアジアの国際学生も多くてネットワークが広がるから、支援活動もしやすいだろうと思ったのです。

僕は高校のときに寮生活をしていて、そこで自立とは何かということを学びました。人に頼らず、自分で考え、自分で行動すること。自分自身としては、どこに行っても同じで、大学に何かを求めるとか、環境に何かを頼るということは絶対にしない。やるのは自分だと。そんな精神で『PRENGO (プレング)』を立ち上げたのです。『プレング』とは、「プレ・NGO」のこと。「NGO」って正義感に満ちているような感じがありませんか。「プレ」というのは、「前」や「先んじて」という意味があるので、その枠を超えようと思って名づけたら語呂がよくて、いい名前になりました。現在、メンバーはタイ人を含めて60名。『プレング』の

コンセプトは、基本的にタイの子供たちの識字率を向上させること、教育に触れさせるということなのですが、僕らが行ったラヨーン県バンチャン市の小学校「マハッドスクール」の校長に今、何が必要かと聞いたら、「食料」だと言われたのです。貧困のために給食費を払えず給食を食べられない



い子供が半数以上もいる。教育以前にまず、食べること、生きることが先決なのです。そこで里親プロジェクトを立ち上げました。他にも、子供たちがエイズについて正しく理解できるように紙芝居を作ったり、一村一品をはじめとするさまざまな地域開発運動について研究したり、タイの日系企業において労働環境調査のための視察をおこなったりしています。

これらの支援活動を通じて強く感じるのは、ちょっと照れくさいですが、「愛」なんです。子どもたちに足りないもの。それは食べ物であったり、教育を受けられる環境であったりもします。けれど、片時も里親の側を離れない子どもたちを見て、何より愛情に飢えていると感じるんです。

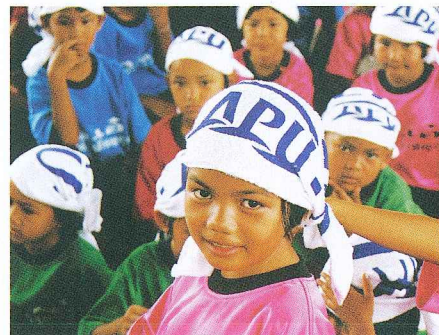
この大学に入って一番変わったのは、タイという国を単体で見なくなったこと、アジアのなかの一員として見始めたことですね。タイで起こることも、アジアのどこかの国の問題も、すべて自分自身の問題として考えるようになった。高校までは自分のことしか考えなかったのが、考えの幅が広がったんです。とりあえず出されたものは残さないで食べるし、生きるってなんだろう?と思う。『プレング』の活動、これは僕にとってライフワークだと思っています。この活動は継続する、そのことに意味があるのです。社会人となり企業に就職しても、同じように続けていくつもりです。



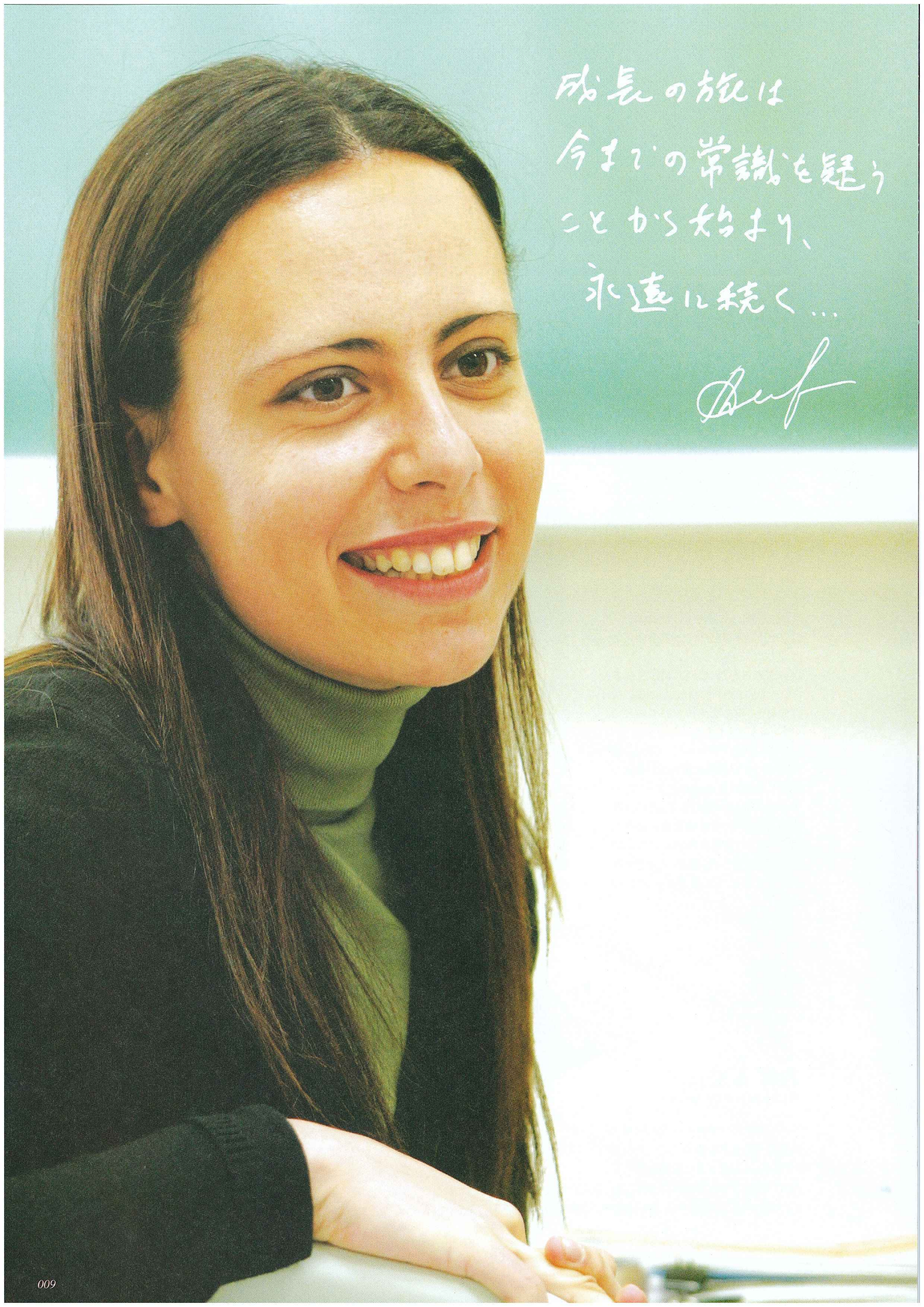
### 若林 泰宏さん

WAKABAYASHI Yasuhiro

アジア太平洋マネジメント学部3回生。  
山梨県・駿台甲府高校出身。高校時代から国際協力に関心をもち、タイを中心にさまざまな活動始める。  
APUでは、アジア社会のために役に立ちたいと『PRENGO』を設立。  
タイの教育・生活環境の改善を目的とし、さまざまな活動をおこなっている。







成長の旅は  
今までの常識を疑う  
ことから始まり、  
永遠に続く...

Beuf



ロシアにいとみんな同じで安心してしまう。  
ここはいろんな価値観をもった人たちが集う場所。  
それが面白く、自分を高めてくれるんです。

木や石がある伝統的な日本庭園。それが日本に生まれ、3歳まで育った私のなかにある日本のイメージです。ロシアに帰国してからも、いつか日本へ行くのが夢で、国立モスクワ言語大学では日本語と言語学を専攻し、東京の日本語学校でも学びました。その後、翻訳をする会社に就職したのですが、やはりもっと勉強したいとAPUへ。日本語も英語も使えて、他の国の人たちとも交流できる環境に魅かれたのです。

ロシアから東京、そして別府へ。機内で「もうすぐ大分空港」とアナウンスがあり、眼下には青くきれいな海が広がっていました。まるでリゾート地に来たよう。これから自分がここで学ぶのかと思うとわくわくしたのを覚えています。

学部生時代の所属はアジア太平洋マネジメント学部。APUは期待通り、個性的な大学でした。ここではいつも違った国、違った背景、違った考え方、見方をしている人たちと接することができます。授業でもカフェテリアで

もさまざまなテーマで常にディスカッションをしていました。日本にしながら、世界中の人たちと意見を交換できるんです。この刺激的で面白い環境は他にはないと思います。自分が人間として成長できる場所だと感じます。ロシアに帰り、同じ国の人た



ちと一緒にいるのはとても安心します。だけど、安心できるだけ、そこで満足し成長も止まってしまいそう。でも、ここでは違う。まだまだ自分自身に満足できない自分がいるのです。APUで学ぶうちに、入学前は思ってもいなかった法律に興味をもってきました。卒業論文も法律に関するものでした。大学院では、日本の司法改

革、アジアの国・地域における司法システムを勉強しています。日本はなぜ今、司法改革が必要なのか？それを社会的、文化的な面からも、経済的な面からも研究してみたいのです。そして今もっとも興味があるのは陪審員制度。ロシアも同じように取り入れ始めましたが、他の国々との比較論も面白いと思っています。

もっと深く勉強して日本を知り、将来、ロシアと日本の橋渡しの役に立てればと思います。そして、夢は大学の教授になることです。こんな夢をもち始めたこと、私がここにおいて勉強できる環境をつくってくれた両親に、とても感謝しています。遠くにいるからこそ両親の愛を感じるのです。両親は日本が素晴らしいといつも言っていました。私もそう思います。別府の自然、温泉、食べ物も大好きです。休みの日は、散歩をしながらベンチに座って、大好きなプーシキン詩集を読んだりして過ごします。ここにいると、毎日、新しい自分に会えるような気がするのです。



## DOBROVOLSKAIA Anna さん

アジア太平洋研究科博士前期課程アジア太平洋学専攻1回生。  
アジア太平洋マネジメント学部を2005年3月に卒業後、APU大学院に進学。  
ロシア連邦出身。在日ロシア連邦大使館に勤めていた父親の仕事の関係で3歳まで日本に在住。  
卒業時に学生のなかで一人、成績優秀かつ意欲的な進路を掲げている学生に贈られる安藤百福名誉博士栄誉賞を受賞。





# APUから世界へ。

学生と教員の約半数が外国籍で、授業は英語と日本語の二言語で開講される「インターナショナル・マルチカルチュラルキャンパス」APU。ここでしか得られない貴重な体験を通して、学生たちは日々成長し、世界をフィールドに飛び出していきます。

## APUだから実現できる、地球規模のネットワーク。

APUでは、世界のニュースは「どこかの出来事」ではなく、友人の身に実際に起こっていることです。さまざまな文化的背景をもつ国際学生と日常的に学び、触れあうことで世界が身近になっていくことを感じるはず。また学生時代は、卒業後も付き合っていける生涯の友人を見つけることも大切。世界中に広がる友人の輪、自分だけの国際ネットワークを築けるのもAPUならではの。

## 英語でコミュニケーション能力を磨く。コミュニケーションで英語を磨く。

社会で最も必要とされる英語力とは、世界中のさまざまな文化や価値観を超えて、英語で表現し、議論し、共感できるコミュニケーション能力を備えるということです。APUの多文化・多言語環境と日英二言語教育をはじめとする最先端の教育システムは、英語でのコミュニケーション能力を徹底的に向上させます。文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(GP)」(※P31参照)に採択されたことは、本学の教育力の証明といえます。

## 「就職に強い大学」として、社会から高く評価されています。

2004年度卒業の第二期生の就職内定率は98.2% (2005年3月31日現在)。多様な価値観のなかで身につけた、自ら考え、行動するAPU学生のコミュニケーション能力や積極性は、ビジネス界から圧倒的な支持を得ています。だからこそ、年間150を超える国内外トップ企業の人事担当者がキャンパスを訪れ、説明会や就職試験を実施しているのです。

※就職内定率とは、就職希望者に占める内定取得者の割合です。

## 世界が活動のフィールドになる。

教科書やメディアで知った世界への興味は、国際学生との出会いにより、無限大にも広がります。留学、インターン、フィールドワーク、ボランティアなど国内外での学習を支援する大学のシステム(グローバル・アクティブラーニング)と、世界中で経験を積んだ国際学生たちとともに、日本人学生もその活動の場を世界に広げ、成長していきます。これがAPUの提唱する「Student Mobilityの推進」です。

## 常識や価値観を打ち破ることから始まる成長。

多文化・多言語環境で学ぶことのメリット。それは、文化背景や価値観が極端に異なる学生同士が、共通の目的に向かって議論しあい、新しい価値観や考え方を産み出していくことにあります。自分自身の常識や価値観が必ずしも世界の常識であるとは限りません。国際学生との「なぜ」「どうして」という疑問から、無限の可能性と刺激に溢れた学びと成長が始まります。



## 012



グローバル化が急速に進んでいる今日、日本がいかに世界の平和と繁栄に貢献していくか、ということがとても大きな課題です。地球規模の問題である環境・飢餓・エイズ・地域紛争・経済開発など、取り組まねばならない問題は山積しています。こういった問題に対する経済大国日本への期待は並々ならぬものがある。にもかかわらず、日本はこうした期待に対して必ずしも積極的なメッセージを発してこなかったんですね。私はその根本の原因には日本人の性格や言語の障壁の問題があるのではないかと思います。しかしこれでは日本は世界の期待に応えられず、国家としての日本のプレゼンスが低くなりかねない。

ではどうしたらいいのかと考えると、やはり人材の育成、教育というものが重要だと私は思います。日本の社会は、大学を卒業するまでは国際社会と関わりのない純粋培養というかたちです。国内だけで一生懸命頑張れば、ある程度の夢が実現できる社会だった。しかしこれでは井の中の蛙の人間しか育たないのです。グローバル化が進展するなかで、このままではいけないと思います。学生時代から国際人としての教育を受け、国籍を超えたコミュニケーション能力を得ることが求められるようになるのではないかと。世界75カ国・地域から学生が集まるAPUはいわばミニ国連。日本が世界にメッセージを発し、貢献していくための、大きなパイオニア的存在であると思います。学生という一番重要な時期に、国籍も、人種も、宗教も、文化も、いろいろな違いを理解し、コミュニケーションをはかることができるというのは、非常に貴重なことです。

APUは日本の教育のパイオニア。  
保護者として、経済人として、  
大きな期待を寄せています。



### 工藤 高史さん

社団法人日本経済団体連合会 国際協力本部 本部長。  
2005年4月、ご子息がAPUに入学。  
「APU-Club・国内学生父母の会」会長も務める。

私の息子もAPUに在籍しているのですが、保護者としては、息子にも大学にもこれからの飛躍を期待しています。また経済人としては就職実績が非常に高いということに、企業や日本の社会がAPUにどれだけ大きな期待を寄せているかを感じます。今後APUの卒業生が、日本のみならず、アジアをはじめ世界で活躍の場を設けて、将来的には大きな人的ネットワークを地球規模で作っていくことを期待します。そして世界の平和と発展に貢献して欲しいと、心から願っています。

## CONTENTS

### 003 インタビュー

011 APUから世界へ。世界からAPUへ。

#### ■ 学部紹介

### 014 ディスカッション

019 「2006年、APUが進化する。」

021 クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム

023 アジア太平洋学部〈APS〉

027 アジア太平洋マネジメント学部〈APM〉

031 APUの教育システム

037 大学院

039 世界へはばたく先輩たち

### 041 APU Campus Life

042 Cafeteria

043 Express Yourself!

045 Club Activities

047 APU Campus Map

049 One Day @APU

051 The World is Your Neighbor!

053 Life in Oita

054 Beppu City

055 APUの教員一覧

057 アドバイザリー・コミッティ

059 APUの授業料・奨学金制度

061 入試ガイド2006

063 2006入試イベント情報

066 APU メイト

表紙PHOTO  
KAiKO (OCAMPO Fredric Andrews Palacio)  
アジア太平洋マネジメント学部2回生/フィリピン出身  
→P044



APU  
座談会

「おいしいそう」

では、終わらない。





# APSとAPM 「コーヒー」を巡る2つの視点。

## 「コーヒーを巡る問題は複雑なんだ」

**KANDUBODA** まず、みんな、どんなコーヒー飲んでる？ 僕は日本に来て4年間ジョージアだけだ。

**PARK** 僕はカフェラテが好きです。

**橋本** 私はネスカフェかな。缶コーヒーならジョージア。

**長山** この前さ、フェアトレードの東ティモールのコーヒーを買ったんだけど、すごくおいしかった。

**KANDUBODA** フェアトレードって聞いたことあるけど、どういう意味？

**網屋** フェアトレードっていうのはヨーロッパ、主にイギリスから始まった考え方で、今では南米やアジアにも広がっている。販売者と生産者を対等にして、生産者に正当な賃金をわたすということが基本。だからフェアトレード商品の価格は、比較的高く設定されているんだ。

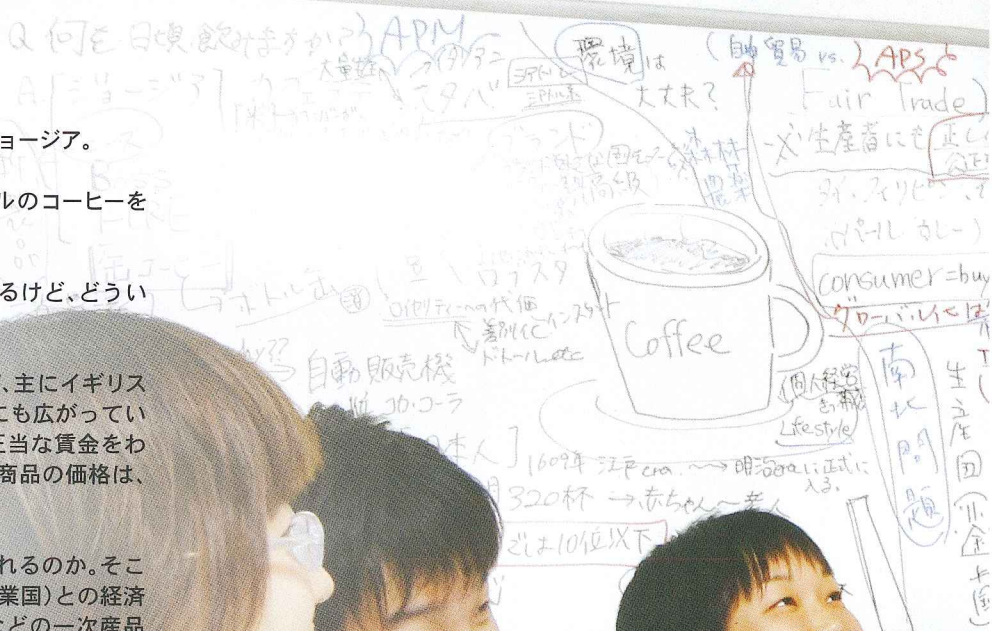
**牧田** そうだね。なぜフェアトレードが主張されるのか。そこには南北問題、つまり南(途上国)と北(先進工業国)との経済格差の問題がある。途上国の多くは、農作物などの一次産品の輸出依存が高いのが現状だ。コーヒー豆でいうと、豆を輸出するのは途上国で、それを輸入し、消費するのは先進工業国。豆の流通や取引価格は事実上、先進工業国の影響下にある。こうして豆の国際取引価格は低く抑えられ、そのしわ寄せが生産国の農家に行くことになる。大雑把に言えばこうなるが、ほかに複雑な問題が絡んでいる。

**長山** 例えば、どういう問題ですか？

**牧田** 例えば、コーヒー豆の収穫は天候に左右される。ひとたび不作になると、経済に占める農業の比重が高い国・地域であるほど影響は深刻だ。また、消費する側の需要にも左右される。輸入しすぎて在庫が過剰になって、輸入を減らすこともある。一次産品に頼るのが問題ならば、インスタントコーヒーやレギュラーコーヒーといった加工済みの「製品」をつくる産業を育成すればよいのだけれども、途上国のなかにはそうした産業が十分育っていないところも多い。「キリマンジャロ」といえばタンザニア。でも、タンザニアは「キリマンジャロ」というラベルを貼って豆を輸出しているわけではないんだ。

**橋本** え、それってどういうこと？

**牧田** 「キリマンジャロ」という表示をするのはレギュラーコーヒーなどの「製品」をつくる企業であって、しかも一種の「ブランド」として高い値がつくのはこの段階から。だからタンザニアの農家は、「キリマンジャロ」というブランドで必ずしも利益を得ているわけではないんだ。その意味で、製品をつくるための工場がどこにあるのかというのは、重要なことなんだ。現地に工場があって、そこで雇用が生まれたりすれば、農業だけに頼らずにすむかもしれないが…。





APUの2つの学部、APS（アジア太平洋学部）とAPM（アジア太平洋マネジメント学部）。

APSって具体的に何を学ぶの？ APMと、どう違うの？ 2つは交わることはないのだろうか？

そんな疑問に答えてくれたのは、APSとAPMの現役学生たち。

牧田正裕助教授を中心にして、ディスカッションが始まります。

テーマは、「コーヒー」。

その向こう側から、APS（社会と文化）、APM（マネジメントと国際ビジネス）の世界が見えてきます。

## APMの視点

### 「なぜ、コーヒーは飲まれるんだろう？ コーヒーとビジネスについて考えよう」

**牧田** では切り口を変えてみようか？ データで見ると日本では一人当たりの年間消費量は300杯くらいなんだけど、なぜ、コーヒーはこれだけ飲まれているんだろう？

**長山** う〜ん。なんでこれだけのコーヒーを飲むようになったのかな？

**網屋** 仕掛けたんでしょ、誰かが。ウエスタン・カルチャーとかいって。

**KANDUBODA** スリランカは日本と違ってコーヒーは飲まない。ほとんどお茶です。

**PARK** 韓国は飲むよ。自販機だってあるし。

**長山** 日本はいつから飲みだしたんだろ？

**牧田** 実際に飲みだしたのは明治時代だけど、「大衆化」したのは戦後のこと。嗜好品としてね。

**橋本** パン食とコーヒーは相性がいいよね。ご飯とコーヒーというのは合わない。洋食化が進んだことが、コーヒーの消費が増えた要因じゃないかと思う。

**PARK** 韓国もそう。韓国料理は麦茶を一緒に飲むことが多いけど、洋食のときコーヒーを飲む。

**橋本** カッコイイというイメージからかな？

**KANDUBODA** 仕事によっても違うかも。運転してる人とかコーヒー必要だし。

**橋本** アメリカに影響されたんじゃないかなあ？

**牧田** では、アメリカで何を思い出す？

**長山** ハンバーガー。

**PARK** アメリカンコーヒー。

**牧田** そうだね。ただし、アメリカンコーヒーというのは造語で、“weak coffee”というのが正しいいい方。1950年代にブラジルでのコーヒー豆の不作の影響で価格が急騰したときに、アメリカでは家庭だけでなく飲食店でも、一杯分のコーヒーの粉から何杯も抽出するようになった。これをきっかけに、薄い(=weak)コーヒーが定着したといわれている。ところで、みんな知っているように、スターバックスのコーヒーは濃くて香りが強い。あきらかにイタリアンだよね。これが“weak coffee”





**PARK Sang Oh**

アジア太平洋マネジメント学部3回生

韓国出身

マーケティングに関心がありAPMへ入学。  
別府温泉の資源をどう活かすかを思案中。



**長山 幸代** アジア太平洋学部3回生

福岡県・九州国際大学付属高校出身

ベトナム語の言語の授業が楽しい。

APU学生のコミュニケーションツールを作成中。



**KANDUBODA ARACHCHIGE Prabath Buddhika**

アジア太平洋学部4回生

スリランカ出身

異文化理解は大切だと思いAPSへ。  
将来は大学院に。

に慣らされてきたアメリカ人に新鮮に映って、大ブレイクすることになったんだ。

**網屋** アメリカンって聞くと何となくチープな感じがするけど、イタリアを含むヨーロッパのお茶とかコーヒーは高級感あるよね。

**牧田** アメリカはフォードシステムという、モノを安く大量に作って売る仕組みをつくりあげた。これを応用したのがスーパーマーケットのセルフサービス方式で、レストランに応用したのがマクドナルド。そういうなかでスターバックスは逆をついたんだね。APM的にいうなら差別化戦略。コーヒーの味、サービス、店の雰囲気といった点で他社との違いを強調し、競争優位に立とうという戦略だ。これがアメリカだけでなく、日本でもうまくいった。

**長山** 確かにスタバって高級感あるよね。

**網屋** 日本人ブランド好きだしね。

**牧田** ビジネスをする場合、単にモノやサービスを売るだけでなく、何を、どこで、どのようにして売るのがかをきちんと考えておく必要がある。付加価値、つまりプラス・アルファの価値をつけ加えることも大事。どうして高い値段を払ってまでスタバのコーヒーを飲むのか。それは他社との違いを消費者が実感しているから。それがブランドとなり、さらには顧客のロイヤリティとなる。とはいえ、スターバックスがヨーロッパで成功するかどうかは意見が分かれると思う。事実、フランスやドイツでの店舗数は少ないし、イタリアには1店舗もない。そこにはたぶん、何らかの出店戦略上の判断が絡んでいるのだと思う。

**長山** ヨーロッパって、コーヒーをゆっくり飲むってイメージあるよね。

**牧田** 君たち、喫茶店って行くかい？ ひと昔前には、頑固なマスターがいられている喫茶店があった。

**KANDUBODA** 昔、そんなのあったんですか？ 見かけないですね。

**牧田** 個人が経営している喫茶店って、1986年をピークに減少傾向にあるんだ。

**橋本** 世のなか忙しくなって、コーヒーを飲んでゆっくりしようとか、おしゃべりしようとか、ティータイムをつくる余裕がなくなったのかな？

**PARK** すぐできて、お持ち帰りできるようなものが多くなったよね。

**橋本** 喫茶店って、マスターとおしゃべりとか、コーヒー豆を挽く音とか、時間を楽しむところでしょ？ 価値観が変わったのかな？ 今は時間というよりも、雰囲気を楽しむところになっているような気がする。

**牧田** スタバの影響で、似たようなコーヒーショップが次々に登場して競争が激しくなっている。となると、缶コーヒーとかをつくっている会社も黙ってられないよね。変化を感じない？

**KANDUBODA** 通常の缶コーヒーだけでなく、新しいデザインのが増えてきたよね。

**長山** うん。コンビニにラテとか。カフェっぽいのが増えてきたよね。

**牧田** カプチーノのインスタントもここ10年くらいだね。コーヒーの楽しみ方が多様化してきたのかもしれない。このように、マネジメントという視点からコーヒーを分析することもできるんだよね。マーケティングや競争戦略、製品開発戦略を通じて企業は新しいライフスタイルを提案する。すると、消費者は「実はこういうのが欲しかったのよ」という気分になされる…。

#### APSの視点

### 「この状況をどう打開するか？ 国際的な協力関係の構築が問題解決の糸口となる。」

**牧田** もう一度、APS的に見てみよう。先ほど南北問題について話したけれども、途上国と先進国との間に何か問題が生じたとき、近年、NPOやNGOといった組織が新しいガバナンスの担い手として登場してきたのは興味深い動きだと思う。実際フェアトレードも、これらの組織が主な担い手だ。もちろん国際機関を通じた問題解決も重要で、コーヒーの場合にはICO(国際コーヒー機関)というのがある。これは、ICA(国際コーヒー協定)というルールを運用しながら、コーヒーの安定供給のため調整をおこなう機関だ。今、70か国加盟しているんだけど、実はアメリカは加盟していない。基本的に自由貿易に任せていればよいという理由からなんだけど…。

**網屋** 利益の追求という観点からすると、自由貿易によって勝ち組が現われて、どんどん儲けるというのは悪いことじゃないのかもしれない。どこにでも競争があって勝者と敗者が出るのは世の常だ。ただし、行き過ぎは問題じゃないかな。利益のためなら何でもOKというのはいけないと思う。

**牧田** 今、グローバル化が急速に進んでいるよね。つまり、人、モノ、カネ、情報が国や地域の境界を越えて地球上を自由に動きまわるといこと。その意味でグローバル化と自由貿易はフレンドリーな関係。国が輸出入をコントロールするのではなく、市場のメカニズムに委ねていこうという考え方が強くなってきている。各国で自由貿易協定が結ばれているのも、こうした状況を反映しているんだ。グローバル化が私たちの生活に何をもたらすのか、コーヒーのみならず大きなテーマになるね。

**網屋** 先進国側の利益が優先されることにならないよう、グローバル化のマイナス面をきちんと把握しておく必要がある。



**網屋 秀三** アジア太平洋マネジメント学部3年生

鹿児島県立川内高校出身  
人を動かすことに興味がある。  
将来の夢は会社を起業すること。

**橋本 早苗** アジア太平洋マネジメント学部3年生

神奈川県立麻生高校出身  
今興味があるのは、組織における人材の問題。

**橋本** でも、アジアのどこでもいいけど、土地があって、コーヒーやオレンジの畑があって、日本企業が進出して手助けをしたら、現地の雇用確保にも役立つし、おいしい作物ができれば、企業も利益がとれる。そんな考え方もあるよね。

**長山** 結局は自由貿易によって、何かしら不利益なことがどちらかに生じたんでしょ？

**網屋** そうだね。フェアトレードはそのひずみの反省から生まれたんだよね。

**牧田** ICOは、コーヒー豆をめぐる国際的な問題について定期的に話し合っているんだけど、最近のテーマは「持続可能なコーヒー経済」の構築について。環境への配慮、生産国に対する技術支援、生活水準や労働条件の向上、消費振興策など、広い範囲にわたって協力関係を築いていこうとしている。最近、NPOやNGOも参加する形で、コーヒーを通じた国際協力が拡大してきているんだ。環境問題、人権問題、南北問題など、問題は複雑に絡んでいる。今後、それらの解決に向けての国際協力はますます重要になってくると思う。

**「APSとAPM、それぞれの視点から  
問題の広がりを知り、核心に迫ろう」**

**長山** いつも思うのだけど、企業経営を考えている人は、その背景まできちんと学んでビジネスを始めてほしいな。APSで、ある国の文化や社会的背景を学び、それを踏まえて今度はAPMで、ビジネスとしてどう展開していくのかを考えることが大事だと思う。

**KANDUBODA** そうだね。ビジネスだけでなく、開発にしても援助にしても、何かを始めるときにはその場所の社会的なバックグラウンドを知っておかないと、うまくいかないと思う。

**長山** コーヒーを例にとるにしても、スタバのようにブランド化して、何かしら付加価値をつけないと売れない時代になってきているわけじゃない。そういう付加価値って、そこに至るまでのさまざまな現象や背景を見なければ出てこないんじゃないかな。

**網屋** APSとかAPMとかの枠組みにとらわれずに、双方の視点から問題の本質を見極めることが大事だね。

**長山** そう、そうしないと意味がないと思う。

**牧田** 確かに。今日のテーマは“コーヒー”だったけれど、文化や環境などの社会学を学ぶAPSの視点と、企業戦略などビジネスを学ぶAPMの視点は、常にクロスしていたよね。APSでこれから学んでいく人も、ビジネスやマネジメントについてぜひ関心をもってほしいな。経済のしくみや組織を理解することは、国際社会で起こるさまざまな問題にアプローチしていく上で、とても重要なことだよ。APSとAPM、双方の異なった視点から現象をとらえ、分析し、そしてそれを将来の夢の実現に活かせる力を、鍛えてほしいな。



**牧田 正裕**

アジア太平洋マネジメント学部助教授

担当科目:会計学、財務会計、国際会計  
研究テーマ:社会制度としての会計研究  
パワーあふれる授業は学生たちに人気。  
立命館大学経営学部卒業後、  
同大学院経営学研究科などを経て現職に。  
経営学博士

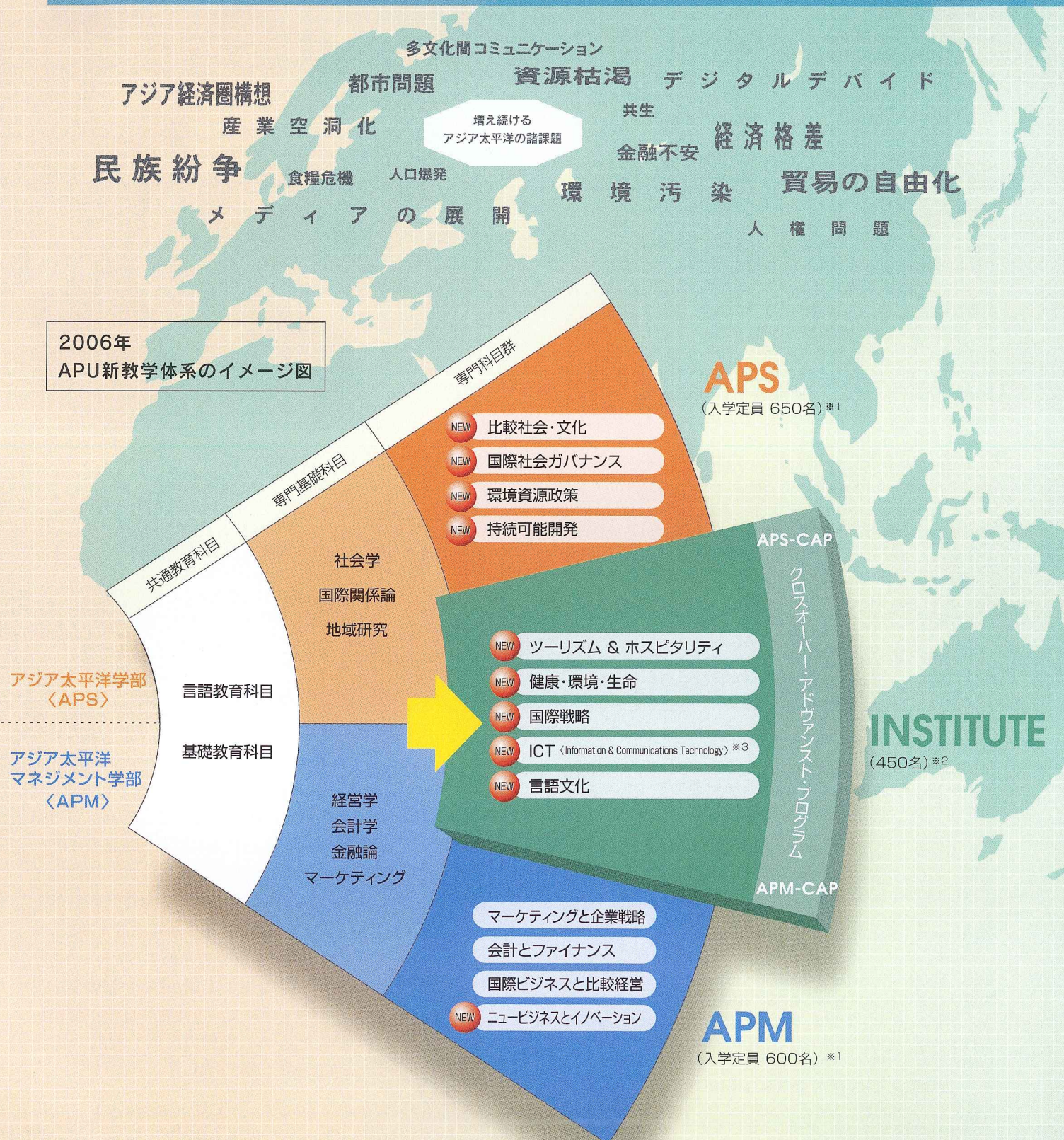
**座談会を終えて**

コーヒーひとつとってみても、それを見ていく視点や切り口は多様だということがわかります。コーヒー以外にも、例えば、インターネットをとりあげた場合にはどのようなになるでしょうか。APSでは「インターネットが社会に与える影響」というテーマ設定が可能ですし、APMでは、具体的なインターネット関連企業について経営戦略や企業買収といった問題と関連づけて検討することができます。もちろん双方に関係するテーマもあるでしょう。いずれにせよ、日頃から広い視野をもち、社会が解決を求めている問題や自分が解明したい問題を見つけ、問題の広がりや深さを追究していくことが大切だと思います。



# 2006年、APUが進化する。

社会の高度化、複雑化、グローバル化や技術革新が進展する  
21世紀のアジア太平洋地域。その急速な時代の流れに対応すべく、  
APUは、更に進化を続けます。



2006年  
APU新教学体系のイメージ図

**APS**  
(入学定員 650名)\*1

**INSTITUTE**  
(450名)\*2

**APM**  
(入学定員 600名)\*1

\*1 本学の2006年度学則定員はAPS 650名、APM 600名、合計1,250名の予定です(2005年5月末現在、収容定員の増加に係る学則変更を文部科学大臣に認可申請中)。

019 \*2 所属はAPS、APMのいずれかの学部となります。なお、募集人数は各学部の内数です。



アジア太平洋地域の未来を創造する国際的人材の養成と、  
「アジア太平洋学」の構築をめざし開学したAPU。  
近年アジア太平洋地域における諸課題は増大かつ複雑化の一途をたどっています。  
そこで、APUでは、これらの諸課題に対応するために、  
教育・研究組織の改革と「学問分野・領域」を拡充し、  
新しい教育・研究のしくみをつくります。  
2006年度より学部入学定員を現在の約1.5倍<sup>※1</sup>に拡大予定です。

## 進化 1

### インスティテュートを創設し、融合的教育プログラム、 「クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム (CAP)」を開設。

アジア太平洋地域で生起するさまざまな課題に対応するという、  
ニーズに応えるための教育・研究組織が「インスティテュート」です。  
インスティテュートでは、APSとAPMの2学部における  
それぞれの専門領域での学修を基礎としながらも、  
学部間・大学院と高度に連携をはかり、融合的教育プログラムを  
「観光」「環境」「国際関係」「情報」「言語」の5つの分野で提供します。

■ インスティテュート／クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム (APS-CAP) (APM-CAP)

ツーリズム&ホスピタリティ	健康・環境・生命	国際戦略	ICT <sup>※3</sup> (Information & Communications Technology)	言語文化
---------------	----------	------	--	------

## 進化 2

### アジア太平洋学部 (APS)、アジア太平洋マネジメント学部 (APM) の カリキュラムがリニューアル。

APS・APM両学部についても専門科目を強化し、カリキュラムを再編するとともに、学ぶ領域を拡充します。  
これにより21世紀の新しい課題に対応する教育のしくみとなります。  
入学定員も現行から約1.5倍に拡大します。<sup>※1</sup>

#### アジア太平洋学部 (APS)

これまでの社会学、国際関係論、地域研究という基本領域はそのままに、カリキュラムを再編・拡充。新しく「比較社会・文化」「国際社会ガバナンス」「環境資源政策」「持続可能開発」の4分野クラスター(科目群)に再編します。→P23

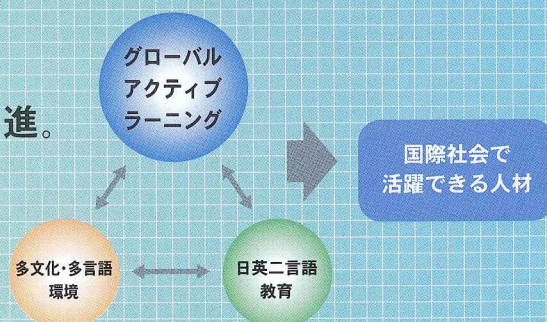
#### アジア太平洋マネジメント学部 (APM)

既存の3分野「マーケティングと企業戦略」「会計とファイナンス」「国際ビジネスと比較経営」に加えて、「ニュービジネスとイノベーション」分野を追加。これによって技術経営や製品開発戦略がより深く学べるようになります。→P27

## 進化 3

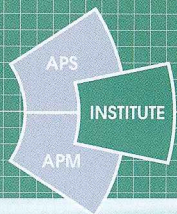
### 実践的学習や体験を重視した グローバル・アクティブ・ラーニングの推進。

教室内での講義型の学習では得られない  
「経験」や「交流」を重視した教育システムを導入。  
国内外でのフィールドワークやインターンシップ(就業体験)、  
海外留学など実践的・体験的学習を積極的に推進します。  
→P33



※3 「ICT」 (=Information & Communications Technology) プログラムについては、2006年度においては秋期 (9月) 入学においてのみ募集します。なお、「ICT」プログラムは、英語基準で募集の予定です。





# CROSSOVER ADVANCED PROGRAM

クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム

APS-CAP

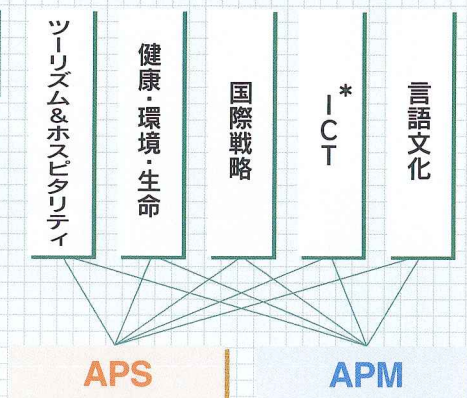
APM-CAP

## APS・APMの専門領域を融合・発展。 アジア太平洋地域の重要課題に挑む 5つのプログラムを展開し、学べる領域がさらに拡大。

学生は、アジア太平洋学部(APS)とアジア太平洋マネジメント学部(APM)のいずれかに所属しますが、専門領域については2つの学部の領域を横断(クロスオーバー)させ、大学院(修士・博士課程)への接続も視野に入れた教育課程「クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム」(CAP)で学びます。

### クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム 3つのポイント

- ・学部の枠にとらわれない学修・研究スタイルを実現。
- ・世界へと広がるフィールド、グローバル・アクティブ・ラーニング。
- ・大学院への接続も視野に入れたプログラム展開。



### 5つの専門プログラム

#### ツーリズム& ホスピタリティ

国際観光都市・別府だからこそ学べる「ツーリズム」と「ホスピタリティ」。

アジア太平洋地域の発展にとってツーリズム(観光)を通じた文化交流、地域・産業振興は重要なテーマです。このプログラムでは、ツーリズムの各領域について文化、社会、地域の視点から学ぶとともに、近年、観光ビジネスやサービス産業、さらには福祉・医療の世界で重視されているホスピタリティ(もてなし)のマネジメントについて理論と実践の両面から学びます。

#### 健康・環境・生命

地球上のすべての生命(いのち)のために、今、何をすべきか考えよう。

環境を生命の問題としてとらえ、私たちの健康や生態系の問題と結びつけて学ぶというのが基本コンセプトです。このプログラムでは、環境問題と健康・生命に関する諸問題をさまざまな角度から学ぶとともに、地域・国家・地球レベルで求められている自然生態系と人間生態系の保全とセキュリティの構築と実践にかかわる諸課題について解決の方向性を探ります。

#### 国際戦略

アジア太平洋の未来のために戦略マインドとリーダーシップを身につけよう。

アジア太平洋地域は大きな発展の可能性を秘めている一方で、民族、宗教、資源・エネルギーさらには安全保障問題など複雑な問題を抱えており、その解決には戦略的な思考力や決断力が要求されます。国際関係や国際政治経済の基礎を学んだ上で、国家・地域・組織レベルでの戦略的意思決定上の諸課題を検討し、国際関係のあるべき方向性を探究します。

#### ICT<sup>\*</sup> Information & Communications Technology

ソフト・テクノロジーを身につけ、情報化社会の技術教養型リーダーになろう。

近年、アジア太平洋地域では、社会科学系と情報・理工系の双方の知識とセンスをあわせもつ「技術教養型」の人材が求められています。このプログラムでは、こうした社会のニーズに応え、社会や文化、経済、企業経営に関する学修の上に、情報・コミュニケーション技術の知識とスキルを修得し、それらを実際に各分野で活用していくための実践力を身につけます。

#### 言語文化

多文化キャンパスを最大限に活かし、「ことばと異文化理解」のエキスパートになろう。

アジア太平洋地域には異なる文化的背景と言語をもつ人々が暮らしています。このプログラムでは、APS-APMの各領域に関する学修を進めると同時に、異文化理解の前提となる言語への理解を深め、多文化環境の各分野で必要とされる高いレベルの言語運用能力の修得をめざします。

<sup>\*</sup>「ICT」(=Information & Communications Technology)プログラムについては、2006年度においては秋期(9月)入学においてのみ募集します。なお、「ICT」プログラムは、英語基準で募集の予定です。

### 想定される進路

- ツーリズム&ホスピタリティ  
交通関連産業、ホテル業、スポーツビジネス、レジャー関連産業、地方公務員、観光関連コンサルタント
- 健康・環境・生命  
医療ビジネス、環境コンサルタント、環境関連産業
- 国際戦略  
政治家、外務公務員、ソーシャル・アントレプレナー
- ICT  
IT関連企業、ハイテク関連企業
- 言語文化  
国際機関、外務公務員、多国籍企業、マスコミ・通信、国際会議通訳



## ■ クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム(CAP)の履修単位(APS-CAP、APM-CAP)

1・2回生では、共通教育科目とAPS・APM各学部の専門基礎科目で基礎知識を身につけると同時に、CAP別の専門科目、演習科目を履修します。3・4回生では、各学部の専門教育科目と、各CAP科目を履修します。同時にアクティブ・ラーニング科目を組み合わせることで、さらに学習効果の向上をはかります。

分野	必要単位数	計
共通教育科目 <sup>①</sup>	40単位以上	124単位以上
クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム科目	30単位以上 <sup>②</sup>	
専門教育科目	62単位以上	
自由選択	22単位以上	

①共通教育科目には言語教育科目、基礎教育科目を含む。

②クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム履修学生のみが対象。62単位中30単位以上をCAP科目で履修。

### ■ CAP 主な専門科目(予定)

ツーリズム＆ ホスピタリティ	観光事業論 観光社会学 ホスピタリティ・マネジメント		ホスピタリティ・マーケティング 観光政策 サステナブル・ツーリズム	観光開発と計画 文化・遺産観光論	などから30単位以上
	各学部の設置科目				
健康・環境・生命	ヒューマン・エコロジー 自然資源管理・保護 産業・企業における環境管理システム		環境政策 環境ガバナンス エコインダストリー	環境影響評価	などから30単位以上
	各学部の設置科目				
国際戦略	国際政治論 国際法 国際経済論		アジア太平洋における国際戦略 戦略分析と意思決定 国際協力論		などから30単位以上
	各学部の設置科目				
ICT*  (Information & Communications Technology)	アジア太平洋情報論 情報技術論 映像処理		メディア論 技術経営 Eコマース		などから30単位以上
	各学部の設置科目				
言語文化	言語社会学 応用言語学 アジア太平洋の声		異文化間コミュニケーション アジア太平洋の英語 ネゴシエーション・ストラテジーズ	パブリック・スピーキング 通訳	などから30単位以上
	各学部の設置科目				
演習科目 アクティブ・ラーニング	新入生ワークショップ 調査研究入門 専門演習Ⅰ・Ⅱ		フィールドスタディ インターンシップ ボランティア	卒業研究 卒業論文	

※上記の科目は、現在検討中のものの一部です。科目名称および科目内容については、今後変更になる可能性があります。詳細は、決定次第ホームページなどに掲載予定です。  
http://www.apumate.net/

※ CAPの科目とあわせて、所属学部の科目も履修します。

※ 卒業までに、基礎教育科目または専門教育科目のうち、英語で開講される科目を20単位以上修得することが必要です(日本語基準の場合)。

※ クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム(CAP)については、別途一定の費用を徴収する予定です。詳しくは、10月下旬発行予定の「一般入試要項」または入学試験の合格者に送付する「入学手続要項」を参照してください。

### Q1 インスティテュートとは何ですか？

A インスティテュートは「研究機能をもった教育組織」です。ここでは、常に最先端の研究がおこなわれ、それがすぐに教育に反映されます。APUのインスティテュートは、学部の垣根を越えて、通常の学部・大学院という縦の軸をも越える画期的な教育・研究組織です。このインスティテュートが提供する学士課程プログラムが、クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム(CAP)です。

### Q2 クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラムについてわかりやすく説明してください。

A クロスオーバーとは、APSとAPMの分野の融合的な分野ということです。アドヴァンストとは、社会の変化にすぐに対応して、最先端の研究と教育をおこなうという意味です。CAPは、学部教育でありながら、一部、大学院レベルの高度な教育を提供します。学部間や学部と大学院間の枠を取り払ったプログラムということです。

### Q3 学部の学びとの違いは何ですか？

A APSでは社会学、APMでは経営学という学問分野を中心に学びます。一方、CAPでは、テーマに応じてこの2つの学問分野を融合させ、一部のプログラムでは、自然科学系の科目も含めた学修をおこないます。

### Q4 どのプログラムも面白そうですが、どうやってプログラムを選べばいいでしょう？

A 将来やりたいことが、少しでも思い描けるのであれば、そのビジョンから選ぶこともひとつの手です。たとえば、CAPはこんな人にとくにお勧めです。

- 地域振興の視点から観光をデザインしたい。
- サービス・ホスピタリティ産業、エンタテインメント産業で働きたい。
- 環境ビジネスで働きたい。
- 地域社会、国際社会でリーダーになりたい。
- 言語に強いビジネス・パーソンになりたい。

⇒ ツーリズム&ホスピタリティプログラム  
⇒ 健康・環境・生命プログラム  
⇒ 国際戦略プログラム  
⇒ 言語文化プログラム

### Q5 CAPの募集方法を教えてください。

A 一般入試/AO入試/特別入試の全ての方式でCAPの募集をおこないます。出願時に志望学部と併せてCAP履修を希望するかどうかを選択することができます。合否判定においてはまず、学部(APS・APM)として合格者を決定します。CAPについては、合格者のうちCAP希望者を対象に得点上位者より順にCAPとしての合格者を決定します。2006年4月入学の募集においては、「ICT\*」を除く4つのプログラムを一括して募集します。なお、各プログラムの履修開始は2回生からとなります。



## 構想力と実践力——

自由で平和な地球社会の実現をめざす次代のリーダーへ。

文化的、社会的に多様性を有しながらも、急速に相互依存性を高めているアジア太平洋地域。しかし、安全保障、民族・宗教、環境問題など、問題はますます複雑化し、深刻化しているのが現状です。どのようにして、この地域に秩序を形成し、持続可能な社会を築き上げていくのか。これら諸課題の解決策を探り、アジア太平洋地域が進むべき道を追求するのが、アジア太平洋学部(APS)です。APSでは、＜社会学・国際関係論・地域研究＞をベースに、「比較社会・文化」「国際社会ガバナンス」「環境資源政策」「持続可能開発」の4分野について学びます。同時に、フィールドワークなど、キャンパス外での多彩な学修プログラムをつうじて問題意識を育み、豊かな構想力と実践力を身につけます。

### ■ APSのポイント

#### 社会学・国際関係論・地域研究をベースとしたカリキュラム体系

APSの学生が共通して学ぶ領域は3つあります。その1つ目が社会学であり、これを通じて社会の動きを的確に捉える力を養います。2つ目は国際関係論であり、国家間関係または地域間関係といった関係性の視点から、現代の国際社会が抱える諸問題へアプローチします。3つ目が地域研究であり、アジア太平洋地域ではそれぞれの独自の特徴をもつ地域が多様に存在しているという独自性と多様性の視点を養います。

#### アジア太平洋地域の重要課題を4クラスターに編成

APSでは社会学・国際関係論・地域研究に関する基礎科目の上に、アジア太平洋地域の諸問題にアプローチする科目群(クラスター)として、「比較社会・文化」「国際社会ガバナンス」「環境資源政策」「持続可能開発」の4分野を構築。それぞれの分野に関連する諸課題の本質に迫りながら、その解決策を探究します。

### ■ 4つの専門分野(クラスター)

#### アジア太平洋地域の共生のために、社会・文化を見る目と異文化理解能力を身につける。

アジア太平洋地域における社会・文化・価値観について学び、この地域が抱える諸問題への理解を深めます。これを通じて世界全体を幅広く捉える視点と、地域をさまざまな角度から複眼的に見つめる視点とを養います。

#### 自由で平和な地球社会の構築に向けて、新しい国際秩序のあり方を考える。

国際社会ではグローバル化が進む一方で、地域では経済発展の不均衡や紛争の多発など、さまざまな問題が生じています。このような国家間または地域社会間の問題を整理し、国際社会におけるガバナンス(秩序の形成・維持)のあるべき姿を探究します。

比較社会・文化

国際社会ガバナンス

社会学  
国際関係論  
地域研究

環境資源政策

持続可能開発

#### 環境を資源として捉え、環境政策の現場で求められる政策立案・マネジメント力を身につける。

アジア太平洋地域の将来を考えていく上で、水や森林などの環境資源への理解は不可欠です。この地域が抱えている資源に関する諸問題をさまざまな角度から分析し、その有効活用の方策など、環境資源の利用・管理政策を追究します。

#### 持続可能な社会をめざして、国際開発協力のありべき方向性を探求する。

経済優先の開発が環境問題に代表されるさまざまな問題を引き起こしている中で、持続可能な開発の必要性が叫ばれています。経済発展と環境保全との調和という観点から、各国・地域の制度や法の現実を踏まえた持続可能な開発の方向性について考えていきます。

### ■ 想定される進路

これまでAPSの卒業生の多くは、多文化環境で培った国際感覚を活かして営利・非営利を問わず民間の企業・団体に就職しています。もちろん大学院進学という道もあり、APU大学院アジア太平洋研究科や国内外の大学院に進学し、国連職員や研究者、その他専門職業人をめざしている卒業生も多くいます。さらに公務員として、都市計画や地域の国際化に携わるというケースも考えられます。

- 国際機関
- NPO(非営利組織)
- NGO(非政府組織)
- 研究機関(民間・政府系)
- 教育関連産業
- 環境関連産業
- 地方公務員
- 国家公務員
- 外務公務員





## 国際協力プロジェクトなどの事業研究

ロジカルな調査方法や思考方法を鍛え、国際協力の枠組みと、環境・教育・ジェンダー・貧困などの開発課題、開発プロジェクトへの理解を深めます。身近な一例として「ゴミを減らす」。この目的を遂行するための手段は一つではありません。人や組織への、さまざまな方面からの異なるアプローチの方法が存在するのです。マクロでは政府への問題提起のしかたから、ミクロでは家庭でのゴミ対策への啓蒙のしかたまで、一つの目的をめぐる人間の活動の連鎖(つながり)を論理的なモデルとして捉え、目的達成へと導いていきます。

国際協力機構(JICA)に26年間勤務し、多くの国際協力事業の政策立案、事業計画・実施・評価に携わってきた自身の経験から、授業においても学生参加型のグループリサーチやフィールドワークを重視。国際協力の現場で役立つ、実践的な調査研究、その技法を修得します。



アジア太平洋学部  
三好 皓一 教授

### 3回生演習のテーマ(抜粋)

文化と観光／Culture and Tourism

The Asia Pacific and Europe in the Modern World

City Growth and City Problems in the Asia Pacific

Internet-based Information Systems

地域調査と映像制作

国際社会学—エスニシティと人の国際移動を中心に—

Japanese Landscapes

Ethnicity, Education, and Migration in Development

国際協力事業研究

Media Studies

アジア太平洋地域における観光(ツーリズム)と環境等の問題に関わる展望と対応策の研究

「ことば」とその周辺にある問題

Contemporary International Issues in Asia Pacific: In Search of a New Perspective

アジア太平洋地域における政治的、経済的な二国間ないし多国間関係をめぐる課題と今後の展望について

国際関係論、国際政治経済学の学問的理解と応用

Estimation of the Economic Loss Caused by Environmental Pollution in a Developing Country

※これは、2004年度実施テーマの一例です。

### 卒業論文のテーマ(抜粋)

The Media and the Rise of Democracy in South Africa

Resort Development in the Asia Pacific 'A look at Bali and Okinawa'

日本における低食糧自給率への警鐘と対策

コミュニティ・エコツーリズムにおける企業の役割と可能性

教育の視点からみたストリートチルドレンと国際協力—マニラのストリートチルドレンと教育機会—

Zainichi Koreans in Japan the Dilemma of Ethnic Consciousness

NPC運動の展開—地域開発の方法—

Sustainable Agriculture in Africa: the Role of Women

Sustainability of Non Governmental Organizations in Asia

日韓広告の比較から考える韓流の未来

開発におけるエンパワメント—バングラデシュの女性グループを事例として

「通貨と国際関係」ドル・ユーロ・人民元から見る日本・アジアの未来図

中国における反日感情

豊かな観光資源で観光立国—五感で旅する日本—

デジタルネットワーク時代における地域観光の情報化—観光スタイルのパラダイムシフト—

### <APSに関連する資格・検定試験>

APSでは、仲間同士で関心のある問題や領域について自主的に学んでいる学生が多くいます。例えば、旅行関係の自主ゼミでは旅行関係の資格取得に向けて学習活動をおこなっており、実際に総合旅行業務取扱管理者などを取得した学生もいます。APUでは、このような学生の自主活動に対してさまざまなサポートをおこなっています。

なおAPUキャリア・オフィスでは、エクステンション講座として、「Microsoft Office Specialist対策講座」や「初級システムアドミニストレータ試験受験対策講座」などを開講し、学生のキャリア・ディベロップメント活動を支援しています。

### 関連する資格・検定試験

TOEFL® TOEIC® システムアドミニストレータ

旅行業務取扱管理者(総合・国内)

通訳案内業

観光地理検定



# アジア太平洋学部カリキュラム(予定)

		1st STAGE   Grade 100	2nd STAGE   Grade 200	3rd STAGE   Grade 300	4th STAGE   Grade 400	必要単位数
言語教育科目	英語	英語入門 英語Ⅰ 英語Ⅱ	英語Ⅲ TESOL メディア英語 ビジネス英語	通訳(日英)		16 単位以上
	日本語	日本語初級Ⅰ 日本語初級Ⅱ 日本語初級Ⅲ 日本語中級	日本語上級Ⅰ 日本語上級Ⅱ	通訳(日英) 通訳(日中) 通訳(日韓) ビジネス日本語 日本語教授法 応用日本語		
	AP言語	中国語Ⅰ 韓国語Ⅰ マレー語・インドネシア語Ⅰ スペイン語Ⅰ タイ語Ⅰ ベトナム語Ⅰ	中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ マレー語・インドネシア語Ⅱ スペイン語Ⅱ タイ語Ⅱ ベトナム語Ⅱ 中国語Ⅲ 韓国語Ⅲ マレー語・インドネシア語Ⅲ スペイン語Ⅲ タイ語Ⅲ ベトナム語Ⅲ	中国語Ⅳ 韓国語Ⅳ マレー語・インドネシア語Ⅳ スペイン語Ⅳ タイ語Ⅳ ベトナム語Ⅳ 中国語Ⅴ		
共通教育科目	基礎教育科目	入門 統計学 社会科学のための数学 学修技法 特殊講義(基礎教育科目) 情報基礎数学				40 単位以上
	人間と社会	社会と法 現代社会の倫理 心理学 政治学入門 国際関係論入門 国際政治史 経済学入門 歴史学入門 現代の日本経済				
	自然認識の現在	現代の科学技術 生命科学 地球環境 ウェルネス 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 物理Ⅰ 物理Ⅱ				
	情報処理	情報科学入門 情報処理論Ⅰ 情報処理論Ⅱ				
	現代のAP地域	アジア太平洋と人権 アジア太平洋の伝統と社会 アジア太平洋の言語と文化 アジア太平洋の産業 アジア太平洋のCOMARS 現代の日本社会 日本の文学と文化				
専門教育科目	比較社会文化		文化人類学 ジェンダー論 異文化間コミュニケーション 社会調査法	アジア太平洋の政治・経済 エスニシティと国民国家 欧米社会とアジア太平洋 マイグレーション研究(人の国際移動)	など	62 単位以上
	国際社会ガバナンス	日本の社会 東アジアの社会 南アジアの社会 世界とアジア太平洋地域 社会理論 国際社会学	国際政治史 アジア太平洋の政治・経済 国際法 国際機構論	NGO・NPO論 平和学 マイグレーション研究 アジア太平洋地域システム論 アジア太平洋ガバナンス論	など	
	環境資源政策		資源・エネルギー論 環境社会学 開発経済論 環境政策 環境経済論	環境資源管理 アジア太平洋環境論 アジア太平洋の都市と農村 環境法	など	
	持続可能開発		開発経済論 開発社会学 国際協力論 プロジェクト・マネジメント	NGO・NPOと市民ネットワーク コミュニティ・ディベロップメント 環境政策 都市政策	など	
	演習科目 アクティブ・ラーニング科目	新入生ワークショップ	調査研究入門	リサーチプロジェクトⅠ・Ⅱ フィールドスタディ インターンシップ プロジェクト研究 ボランティア	卒業研究 卒業論文	

※上記のカリキュラムは、現在検討中のものの一部です。科目名称および科目内容については、今後変更になる可能性があります。詳細は、決定次第ホームページなどに掲載予定です。  
<http://www.apumate.net/>

※卒業までに、基礎教育科目または専門教育科目のうち、英語で開講される科目を20単位以上修得することが必要です(日本語基準の場合)。

## 1st STAGE

高年次へと学修を進めるうえで必要不可欠となる、高度な言語運用能力の修得をめざします。また、アジア太平洋の多様性を理解し、この地域をフィールドとして学ぶための幅広い分野の知識を身につけます。

## 2nd STAGE

言語学修のさらなる進展とともに、「社会学」などに関する専門科目の本格的な履修がはじまります。海外の大学や研究機関などへの長・短期留学がスタートするものもこの時期が多くなっています。

## 3rd STAGE

「社会学・国際関係論・地域研究」の専門基礎科目のほか、「比較社会文化」「国際社会ガバナンス」「環境資源政策」「持続可能開発」の各クラスター専門科目を中心に学びます。国内外でのフィールドワークや企業および自治体におけるインターンシップ(就業体験)など、実践的な学びが展開されます。

## 4th STAGE

各クラスター専門科目の各履修を通じてアジア太平洋地域についての専門的な知識をさらに深め、こうした知識と4年間の学修のなかで培った実践経験や技能を総合し、学生生活の集大成となる卒業研究を進めていきます。



## APS 主な専門科目(予定)

### 比較社会・文化

#### ●ジェンダー論

ジェンダーという言葉の意味は何か？ジェンダーと性との違いは何か？ジェンダー研究という分野は、多面的で多くの専門分野の視点をもちますが、この科目では社会科学、特に社会政策の分野からジェンダーを考えていきます。

#### ●エスニシティと国民国家

政治学および社会学の分野で「エスニシティ」はどのように考えられてきたのか。また、なぜこうした概念が重要であるのか。多様な理論とその成立の背景を学びます。さらに「ナショナリズム」についても理解を深めます。

### 持続可能開発

#### ●開発経済論

環境と経済に共通するシステムの理解および経済成長、経済制度の最適化、環境価値の経済的評価等を検討します。環境汚染制御の経済的手段についても考えます。

#### ●開発社会学

この科目では、主にアジア太平洋地域における開発とその社会背景について学びます。授業の前半では日本を含む各国の開発政策について学び、後半では応用編として諸事例をもとに開発と観光の複合的な関係について考えます。

### 国際社会ガバナンス

#### ●アジア太平洋ガバナンス論

アジア太平洋地域で、今、何が起きているのか？世界の出来事が瞬時にして報じられさまざまな情報が溢れるなか、この地域の枠組みとダイナミズムを理解し、表面的な事象に流されることなくその本質をつかむ能力を身につけます。

#### ●平和学

国家間の経済格差、環境問題、地域・民族紛争の激化など、国際社会を取り巻く状況はめまぐるしく変化しています。国際社会において平和を創造していく上で考慮すべきことがらを理解し、国際秩序、平和の維持と実現について考えます。

### 環境資源政策

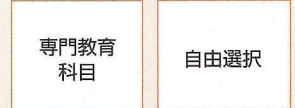
#### ●環境社会学

地球温暖化、リサイクル、ゴミ政策、公害など、現代社会の鏡である環境問題の基礎的な特徴と問題点を理解し、環境理論の様々な課題を分析、現代社会的・文化的な側面から環境について学んでいきます。

#### ●環境政策

環境政策の基本的概念について学ぶとともに、環境政策の課題、理論さらには政策立案の技法を修得します。学生参加型の授業を通して、政策形成の背景やプロセスについて考察できる環境政策オリエンテッド・マインドを養成します。

40単位以上



自由選択枠では、他学部（アジア太平洋マネジメント学部）開講の授業を履修することも可能です。



124単位

卒業必要単位  
(日本語基準の場合)

## 私の学び方 ※オレンジ色の文字は英語開講科目の受講



飯田 実果さん

アジア太平洋学部3回生  
愛知県・光ヶ丘女子高校出身

高校時代から貧困や女性などの社会問題に興味があり、APSを選択しました。1年次には主に言語の授業を集中して勉強。印象的なのは「メディア英語」と「マレー語・インドネシア語」。「メディア英語」はグループワークでテーマを決めストーリーを作成。パソコンを使って映像と音楽を組み合わせミュージックビデオを作るというユニークな授業です。授業外も一緒に活動するグループワークは大変ですが、さまざまな国籍の学生も含む

グループの制作活動は面白く、新たな発見があり、やりがいのあるものでした。「マレー語・インドネシア語」もインドネシア人の友人ができたことで興味をもったのですが、授業で習いながらネイティブの彼らと会話できることで語学の貴重さ、楽しさを学びました。

私は3年半での早期卒業をめざしており、将来は世界を舞台とし、社会問題などに関わる仕事に携わっていきたくと思います。

### 1st STAGE

英語Ⅰ(履修免除)  
英語Ⅱ(履修免除)  
英語Ⅲ  
メディア英語  
マレー語・インドネシア語Ⅰ  
社会と法  
ウェルネス  
アジア太平洋地域理解(社会)Ⅰ  
アジア太平洋地域理解(社会)Ⅱ  
学修技法  
情報科学入門  
アジア太平洋の伝統と社会  
アジア太平洋の産業  
現代の科学技術  
日本の文学と文化  
情報処理論Ⅰ  
特殊講義(アジア太平洋地域理解科目)  
社会学

### 2nd STAGE

日本語教授法  
マレー語・インドネシア語Ⅱ  
社会情報論  
調査・研究入門  
特殊講義(専門教育科目)  
社会変動論  
観光社会学  
都市社会学  
観光と地理・地誌  
観光文化論  
ホスピタリティ・マネジメント  
心理学  
情報社会学  
情報ネットワーク論

### 3rd STAGE

ジェンダー論  
特殊講義(専門教育科目)  
環境社会学  
アジア太平洋地域システム論  
開発社会学  
情報産業論  
平和学  
リサーチプロジェクトⅠ  
マス・コミュニケーション論  
インターンシップ



渡邊 賢太郎さん

アジア太平洋学部4回生  
大分県立別府鶴見丘高校出身

私自身が別府の出身であることから、別府の地域活性に興味があり、観光関連科目を多く履修しました。また、それ以外にも、分野を問わず魅力的な講義を積極的に履修。「特殊講義」で「能」について学び、国際人としての活躍に必要な自国の知識や教養を身につけました。

講義で学んだことを「まちづくり」などの課外活動で実践し、講義を深めるのはよい循環です。地域のNPOとも交流を深めておこなう「まちづくり」の活動で大切なのは、住民自身がその町(コミュニティ)に誇りをもつことです。人々との連携をさらに深め、私自身も新しい形で別府の魅力を発信していきたいです。

### 1st STAGE

英語Ⅰ(履修免除)  
英語Ⅱ  
英語Ⅲ  
韓国語Ⅰ  
社会と法  
現代の科学技術  
学修技法  
情報科学入門  
アジア太平洋地域理解(社会)Ⅰ  
アジア太平洋地域理解(社会)Ⅱ  
アジア太平洋の歴史と現代  
日本の文学と文化  
アジア太平洋の伝統と社会  
アジア太平洋の言語と文化  
社会学

### 2nd STAGE

ベトナム語Ⅰ  
情報処理論Ⅰ  
国際社会と平和  
ウェルネス  
社会調査法  
国際社会学  
調査・研究入門  
特殊講義(専門教育科目)  
アジア太平洋と人権  
アジア太平洋の政治・経済  
カルチュラル・スタディーズ  
アジア太平洋社会学入門  
経営学  
人的資源管理論

### 3rd STAGE

ベトナム語Ⅱ  
ベトナム語Ⅲ  
社会理論  
グローバル化と規範  
観光社会学  
国際関係入門  
アジア太平洋地域システム論  
観光文化論  
アジア太平洋情報論  
エコ・ツーリズム論  
現代映像論  
特殊講義(専門教育科目)  
異文化間コミュニケーション  
地域研究Ⅵ(北米)

### 4th STAGE

特殊講義(専門教育科目)  
エスニシティと国民国家  
開発社会学  
情報産業論  
ホスピタリティ・マネジメント  
地域研究Ⅰ(東北アジア)  
地域研究Ⅶ(中南米)  
エコ・ビジネス論



## 決断力と行動力——

戦略的な思考力と豊かな国際感覚を備えたビジネスリーダーへ。

スピーディーに、ダイナミックに発展を遂げるアジア太平洋地域。この地域のビジネス社会に新たな価値を創造するリーダーの育成がアジア太平洋マネジメント学部 (APM) の目標です。＜経営学＞を中心にマネジメントの基本概念を修得した上で、「マーケティングと企業戦略」「会計とファイナンス」「国際ビジネスと比較経営」「ニュービジネスとイノベーション」という4つの分野について体系的に学び、国際ビジネスの最前線で求められる論理的思考力と戦略的マインドを身につけます。さらにAPMでは、実際にビジネスの現場を体験するインターンシップを積極的に展開します。これにより知識だけでなく実践力も身につきます。

### ■ APMのポイント

#### コア科目を基礎に国際マネジメントの 各領域を体系的に学修できるカリキュラム

企業など組織のマネジメントでは、ヒト・モノ・カネといった資源をどう組み合わせるかが基本になります。そこでAPMでは、ヒトについては人的資源管理論、モノについては生産管理論やマーケティング論、カネについては金融論や会計学というように、これらの科目についてはすべての学生が履修できるコア科目として設置しています。これらの科目で基礎を身につけたうえで、国際マネジメントに関するより高度な内容の学修に進んでいきます。

#### 4つの専門分野を通じて 確かな知識・スキルを獲得する

コア科目の履修を終えると、4つの専門分野に関する学修が本格的に始まります。企画力を身につけたいならば「マーケティングと企業戦略」、計数的な分析力を身につけたい、または、金融について深く学びたいならば「会計とファイナンス」、国際ビジネスやそこの組織・人材の問題に関心があるならば「国際ビジネスと比較経営」、さらにベンチャー企業や技術に関心がある場合には「ニュービジネスとイノベーション」を選択するとよいでしょう。

### ■ 4つの専門分野

激動するマーケットの動きを  
的確にとらえ、戦略的に判断し、  
実行する力を身につける。

「こんな商品が欲しかった！」そこには考え抜かれたマーケティングの理論が使われています。世界各国・地域の企業の事例から優れたビジネス・モデルや戦略を探り、国際ビジネスの最前線で活躍するための、思考力と実践力を修得します。

マーケティングと企業戦略

ビジネスを数値的に評価し、  
経営活動を計画・コントロールできる  
力を身につける。

「ビジネスの言語」としての会計を概念とスキルの両面から学び、企業活動を数字から読み取り、経営管理に活かす力を身につけます。また、経済の血液循環としての金融のしくみや役割、企業における資金の調達・管理に関する諸問題について学びます。

会計とファイナンス

国際ビジネスと比較経営

Globalに考え、Localに行動し、  
多文化環境の中で  
マネジメントできる人材を育成。

国際ビジネスの現場では、グローバルな企業活動と各国・地域における「伝統・文化との調和」が求められています。企業経営における国際的多様性についての理解のうえに、国や地域の境界を超えた新しい組織モデルや経営スタイルを探究します。

ニュービジネスとイノベーション

常に変化を読み、豊かな感性と  
行動力をもって未来を切り拓く  
創造的破壊者になる。

「創造と革新」がテーマです。イノベーションは、時代をリードする新しい製品やビジネスを生み出し、社会発展の原動力ともなります。企業経営におけるイノベーションの諸相への理解を深め、その本質に迫りながら、ビジネスの未来像を構想します。

#### ■ 想定される進路

これまでの実績では、国内外の民間企業へ就職するケースがほとんどですが、マネジメントの知識はあらゆる組織で必要とされますので、公務員として省庁や自治体等の各分野で活躍することも考えられます。また、公認会計士や税理士など専門職業人への道や、ビジネス・スクールやアカウンティング・スクールなどの専門職大学院への進学も想定されます。

- 製造業（メーカー）
- 流通・サービス業
- 金融機関（銀行・証券会社等）
- IT関連企業
- 各種コンサルタント
- 公認会計士、税理士
- 証券アナリスト
- 公務員（国家・地方）
- 国税専門官





## Understanding International Trade Institutions and Practices

横山ゼミのテーマは「貿易取引の制度と慣習」。貿易取引はたくさんの制度や慣習からなり、複雑にからみあっています。このゼミでは、具体的な事例についてのディスカッションを通じて、ビジネスにおける制度や慣習の機能と構成について学修します。

マネジメントは、企業経営において少ない資源の効率的配分をどのように達成するかを研究する分野。そのため、経済的合理性だけを追求しがちです。しかし、人は必ずしも経済的合理性だけで行動するわけではありません。他の人がおこなってきた、あるいはおこなっている制度や慣習をそのまま踏襲する傾向があります。そのような意味で、制度や慣習という観点は、マネジメントの重要な一分野なのです。



アジア太平洋マネジメント学部  
横山 研治 教授

### 3回生演習のテーマ(抜粋)

戦略人材マネジメント論

アジアの企業と経営者/  
Asian Leading Companies and Entrepreneurs; Environment and Strategy

「経営資源としてのブランドー企業戦略における重要性」

Application of Micro Economic Theory to Management Issues

企業経営における組織的知識創造とマネジメント

Game Theory and Related Topics

ビジネス・アナリシス(企業分析)ー収益モデルと競争力を読むー

海外投資にかかわる諸事項の研究

Corporate Annual Financial Report, Its Preparation, Dissemination and Its Audit(GAAP and GAAS).

環インド洋地域経済発展と企業の役割

アジア太平洋のための技術経営/Management of Technology for Asia Pacific

国際ジョイントベンチャー/International Joint Venture

マーケティングの実践 / Practice of Marketing

Quantitative (econometric) Industry Analysis

Global Logistics

China's Economic Development

### 卒業論文のテーマ(抜粋)

ゼロエミッションへ向けた環境コミュニケーション

Why the Animation industry of Japan in a High Competitive Position in the World? -the Light and the Shade of ANIME Industry-

<Toray Saehan>"Contributing to the Community through Creative Management"

Challenges of FTA on East Asia (EAFTA): A Potential Role Model of How Developing Countries can Advance their Economies

Japanese Multinational Companies and Global Human Resource Management Practices

メインバンクシステムを中心とする間接金融におけるリレーションシップバンキングの意義と役割

Shaping the Organization for Uncertain Times

情報通信技術革新における就労形態の多様化

ブランド戦略:見えない資産の構築

Theoretical Analysis of Non-performing Loans in Lao SOCBs

中国市場における日系自動車メーカーのブランド戦略

Development of Advertising Industry in Taiwan

Ethics and Efficiency in the Stock Market from Islamic Perspective

Case Study: Opportunities for International Pharmaceutical Companies in People's Democratic Republic of China

経験価値マーケティングから考察するサービスマーケティング

※これは、2004年度実施テーマの一例です。

### <APMに関連する資格・検定試験>

APUキャリア・オフィスでは、エクステンション講座として、「日本商工会議所(日商)簿記検定試験3級・2級対策講座」などを開講し、学生のキャリア・ディベロップメントを支援しています。これを通じて日商簿記検定試験1級を取得し、公認会計士などの難関国家資格取得に向けて学習している学生もいます。



また、APMでは正課の科目のうち、「会計学Ⅰ」は学校法人大原学園からの講師派遣による講義として、「英文会計」は米国公認会計士試験講座で定評のある株式会社ANJOインターナショナルとの協力科目として開講されています。

### 関連する資格・検定試験

公認会計士 税理士 米国公認会計士  
日商簿記検定 国際会計検定(BATIC)  
証券アナリスト など



# アジア太平洋マネジメント学部カリキュラム(予定)

		1st STAGE   Grade 100	2nd STAGE   Grade 200	3rd STAGE   Grade 300	4th STAGE   Grade 400	必要単位数
言語教育科目	英語	英語入門 英語Ⅰ 英語Ⅱ	英語Ⅲ TESOL メディア英語 ビジネス英語	通訳(日英)		16 単位以上
	日本語	日本語初級Ⅰ 日本語初級Ⅱ 日本語初級Ⅲ 日本語中級	日本語上級Ⅰ 日本語上級Ⅱ	通訳(日英) 通訳(日中) 通訳(日韓) ビジネス日本語 日本語教授法 応用日本語		
	AP言語	中国語Ⅰ 韓国語Ⅰ マレー語・インドネシア語Ⅰ スペイン語Ⅰ タイ語Ⅰ ベトナム語Ⅰ	中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ マレー語・インドネシア語Ⅱ スペイン語Ⅱ タイ語Ⅱ ベトナム語Ⅱ 中国語Ⅲ 韓国語Ⅲ マレー語・インドネシア語Ⅲ スペイン語Ⅲ タイ語Ⅲ ベトナム語Ⅲ	中国語Ⅳ 韓国語Ⅳ マレー語・インドネシア語Ⅳ スペイン語Ⅳ タイ語Ⅳ ベトナム語Ⅳ 中国語Ⅴ		
基礎教育科目	入門	統計学 社会科学のための数学 学修技法 特殊講義(基礎教育科目) 情報基礎数学				40 単位以上
	人間と社会	社会と法 現代社会の倫理 心理学 政治学入門 国際関係論入門 国際政治史 経済学入門 歴史学入門 現代の日本経済				
	自然認識の 現在	現代の科学技術 生命科学 地球環境 ウェルネス 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 物理Ⅰ 物理Ⅱ				
	情報処理	情報科学入門 情報処理論Ⅰ 情報処理論Ⅱ				
	現代の AP地域	アジア太平洋と人権 アジア太平洋の伝統と社会 アジア太平洋の言語と文化 アジア太平洋の産業 アジア太平洋のCOMES 現代の日本社会 日本の文学と文化				
コア科目		経営学 会計学Ⅰ 会計学Ⅱ	金融論 マーケティング論 人的資源管理論 生産管理論			
専門教育科目	マーケティング と企業戦略		経営史 ミクロ経済学 国際貿易論 ベンチャービジネス ロジスティクス論 ビジネス・コミュニケーション 原価会計 ビジネス法入門	【国際マーケティング戦略】消費者行動 マーケティング・ リサーチ 国際取引 流通経営論 サプライチェーン・ マネジメント 管理会計 国際マーケティング論 【国際経営戦略】経営組織論 ビジネスエシックスとリー ダーシップ アントレプレナーシップ Eビジネス 国際マーケティング論 ビジネス交渉 ビジネス法務 戦略 【アカウンティング】財務会計Ⅰ 財務会計Ⅱ 管理会計 英文会計 コーポレート・ファイナンス 金融市場と金融機関 経営分析 【国際財務戦略】コーポレート・ファイナンス 金融市場と金融機関 経営分析 国際金融論 アジア金 融市場 財務会計Ⅰ 財務会計Ⅱ 【組織と人材】経営組織論 ビジネスエシックスとリー ダーシップ 管理会計 日本の生産システム 国際人 的資源管理論 国際比較経営 日本の経営論 【国際比較経営】国際比較経営論 日本の経営論 日中韓比較経営論 国際経済 日本の生産システム アジア太平洋経済研究Ⅰ～Ⅲ 【テクノロジー・マネジメント】Eビジネス 技術経営 開発生産システム論 管理会計 【ビジネス創造】Eビジネス アントレプレナーシップ コーポレート・ファイナンス 技術経営 開発生産 システム論 国際マーケティング ビジネス法務戦略 【フィールドスタディ インターンシップ ボランティア ケーススタディⅠ・Ⅱ	販売・プロモーション戦略 製品開発戦略論 経営戦略論 国際経営論 監査 上級会計 国際会計 アジア投資戦略 投資・証券分析 国際経営論 国際経営論 アジア太平洋企業研究Ⅰ～Ⅲ 製品開発戦略論 経営戦略論 製品開発戦略論 経営戦略論	62 単位以上
	会計 とファイナンス		ミクロ経済学 マクロ経済学 原価会計 経営情報システム 商法Ⅰ 商法Ⅱ			
	国際ビジネス と比較経営		経営史 労使関係 国際貿易論 ロジスティクス論 アジア太平洋の日本企業 ミクロ経済学 マクロ経済学 ビジネス法入門			
	ニュービジネス とイノベーション		ベンチャービジネス 経営史 経営情報システム ビジネス・コミュニケーション ミクロ経済学 ロジスティクス論 商法Ⅰ 商法Ⅱ			
	演習科目 アクティブ・ ラーニング科目		新入生ワークショップ	企業研究入門	卒業研究 卒業論文	

※上記のカリキュラムは、現在検討中のものの一部です。科目名称および科目内容については、今後変更になる可能性があります。詳細は、決定次第ホームページなどに掲載予定です。  
<http://www.apumate.net/>

※卒業までに、基礎教育科目または専門教育科目のうち、英語で開講される科目を20単位以上修得することが必要です(日本語基準の場合)。

## 1st STAGE

高度な言語教育を通じて、英語で開講される専門科目に対応できる実践的な言語運用能力を育成します。また、学修活動に不可欠な情報関連分野の基礎を修得。さらにアジア太平洋地域の特徴を、多彩な科目を通して学びます。

## 2nd STAGE

言語学修がさらに進展するとともに、会計学やマーケティング、生産管理といったコア科目を中心に専門科目を学修します。海外の大学や研究機関などへの長・短期留学がスタートするのもこの時期です。

## 3rd STAGE

「マーケティングと企業戦略」「会計とファイナンス」「国際ビジネスと比較経営」「ニュービジネスとイノベーション」の各分野に分かれて、さらに高度な内容を学修し、関連するスキルを修得します。国内外のフィールドワークや企業・自治体などでのインターンシップ(就業体験)など、実践的な学びが展開されます。

## 4th STAGE

専門分野の履修を通じてアジア太平洋地域における企業マネジメントに関する専門的な知識をさらに深め、こうした知識と4年間の学修のなかで培った実践的な経験やスキルを総合し、学生生活の集大成となる卒業研究を展開します。



## APM 主な専門科目(予定)

### マーケティングと企業戦略

#### ●経営戦略論

どうすれば企業は経営に成功し、長期的な存続がはかれるのか？アメリカで展開されたフレームワークを理論として学び、最新のテキスト"Strategic Management"を用いて日米企業の様々なケースを議論し、理論の適否を検討します。

#### ●国際マーケティング論

国際マーケットに関わる3つの批評的・発展的・建設的ケーススタディを主な教材とし、変化して止まない国際的なビジネス環境におけるマーケティングの役割を理解、評価し、自ら実行できる能力を養成します。

### 会計とファイナンス

#### ●金融論

金融システム、特に金融仲介機関としての銀行の役割に関する理論及び基本モデルの理解と、コーポレートファイナンス(企業金融)の基礎知識を習得するという2つの面から、金融に関する基礎について議論します。

#### ●国際会計

実際のAnnual reportを用いたグループワークやディスカッションなど学生参加型の授業を通して、各国の企業会計の差異とその理由、多国籍企業の会計問題の特殊性など会計学の持つ諸問題への理解を深めます。

### 国際ビジネスと比較経営

#### ●国際経営論

企業が、ヒト・モノ・カネを国境を超えて流通させる最大の媒体になりつつある現状をふまえ、企業の国際化の理由や国内・国際経営の違い、国際企業の成功要件など、国際経営の様々な現象と具体的な事柄について学習していきます。

#### ●日本の経営論

雇用制度やクライアントとの長期継続的な取引といった制度的な枠組みは日本企業の特徴。それらがどのように形成・発展してきたのか、また今後どのように変わろうとしているのかについて、グローバルな視点から考察します。

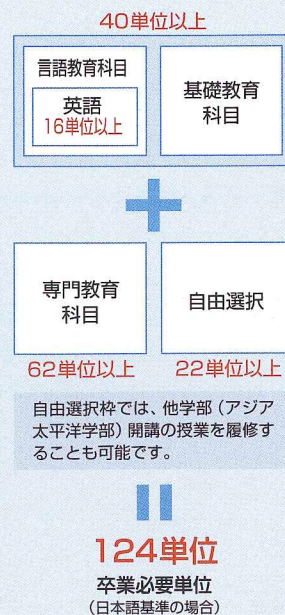
### ニュービジネスとイノベーション

#### ●技術経営

MOT(技術経営)のアウトラインと必要性を学び、日本の競争力の源である「ものづくり」において、技術を効率的に事業に結びつけるための創造的で戦略的なマネジメントを理解・修得します。

#### ●開発生産システム論

各国および各企業の競争力を高めるため、製造業の基本である研究開発から、製品開発、生産システム、そして生産管理など一連の「開発生産システム」の具体的な仕組みについて学びます。



## 私の学び方

※青色の文字は英語開講科目の受講



藤野 あかりさん

アジア太平洋マネジメント学部3回生  
大阪府・大阪薫英女学院高校出身

国際的な舞台で活躍する夢を抱いてAPUに入学しました。1年次に参加した課外活動のアカデミックキャンプでは、文献の読み方やプレゼンテーションの仕方を学習。先輩が教え、最後に教授が評価するという活動は、厳しかったけれど充実した内容でした。

1年次は基礎的な知識を習い、2年次になってマーケティング論や国際経営論、製品開発など専門的になってきました。レ

ポートやプレゼンテーションも多い参加型の授業や、英語で受講している授業など、難易度は1年次よりも高いのですが、そのぶん力がついているのがわかります。さらに、国家間の物の取引についても知りたいので国際貿易論も受講。課外活動でも模擬国連に参加し、将来も世界をめぐるさまざまなことについて好奇心を抱き続けていきたいと思っています。

### 1st STAGE

英語Ⅰ(履修免除)  
英語Ⅱ(履修免除)  
英語Ⅲ(履修免除)  
メディア英語  
中国語Ⅰ  
ウエルネス  
アジア太平洋地域理解(企業)Ⅰ  
アジア太平洋地域理解(企業)Ⅱ  
学修技法  
情報科学入門  
日本の社会システム  
国際社会と平和  
アジア太平洋の政治・経済  
アジア太平洋の産業  
社会と法  
日本の文学と文化  
情報処理Ⅰ  
アジア太平洋の言語と文化

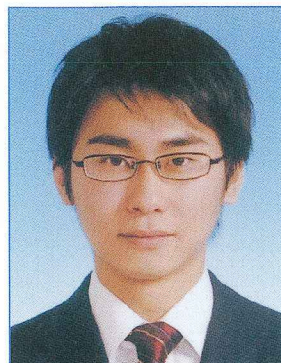
### 2nd STAGE

ビジネス英語  
中国語Ⅱ  
日本語教授法  
国際政治史  
企業研究入門  
特殊講義(専門教育科目)  
国際経営論  
ジェンダー論  
国際関係論入門  
マーケティング論  
会計学Ⅰ  
ビジネス・コミュニケーション  
特殊講義(基礎教育科目)  
製品開発戦略論  
国際貿易論

日本の経営論  
国際マーケティング論  
アジア太平洋社会学入門  
経営情報システム

### 3rd STAGE

ビジネス法  
リサーチ・プロジェクトⅠ  
ケーススタディⅠ  
財務会計論Ⅰ  
会計学Ⅱ  
アジア太平洋の人材開発  
特殊講義(専門教育科目)  
アジア太平洋における日本企業  
ホスピタリティ・マネジメント



柴山 拓也さん

アジア太平洋マネジメント学部4回生  
兵庫県立星陵高校出身

APMでマネジメントを学んだと胸をはって言えるよう「経営学」「会計学」「マーケティング論」などビジネス関連科目を積極的に履修しました。「アジア太平洋の日本企業」などケーススタディを多く用いる科目では、企業の歴史やマネジメントスタイルを客観的な視点で学ぶことができ、非常に有意義でした。

多文化社会を体験したいと思い、3年次にはカナダへ留学。現地では「バンクーバー日系ビジネス協会」でのボランティア活動に参加しました。イベントの企画スタッフとしてセミナーや講演会を企画。幅広い視野と国際的な舞台上で活躍できる素地を身につけることができた実感しています。

### 1st STAGE

英語Ⅰ  
英語Ⅱ  
現代の科学技術  
学修技法  
情報科学入門  
アジア太平洋地域理解(企業)Ⅰ  
アジア太平洋地域理解(企業)Ⅱ  
アジア太平洋の伝統と社会  
アジア太平洋の産業  
経営学  
国際社会と平和  
社会科学のための数学  
アジア太平洋の生態  
アジア太平洋の歴史と現代  
アジア太平洋の政治・経済

### 2nd STAGE

英語Ⅲ  
現代の経済社会  
アジア太平洋の言語と文化  
生産管理論  
マーケティング論  
ビジネス取引と交渉  
企業研究入門  
会計学  
企業論  
人的資源管理論  
現代経済学  
国際貿易論  
国際産業論  
アジア太平洋マネジメント入門  
東南アジアの企業

### 3rd STAGE

ケーススタディⅡ  
アジアビジネス法  
製品開発戦略論  
日本の経営論  
東南アジア経済研究  
東アジアのロジスティクス  
国際マーケティング論  
南・西アジア経済研究  
アジア太平洋における日本企業  
特殊講義(専門教育科目)  
(UBC留学時の認定科目)  
言語教育科目分野  
異文化間コミュニケーション  
専門教育科目分野

### 4th STAGE

卒業研究



## 世界中から学生が集まる多文化・多言語の教育環境と、国際的に通用する先進の教育システム。

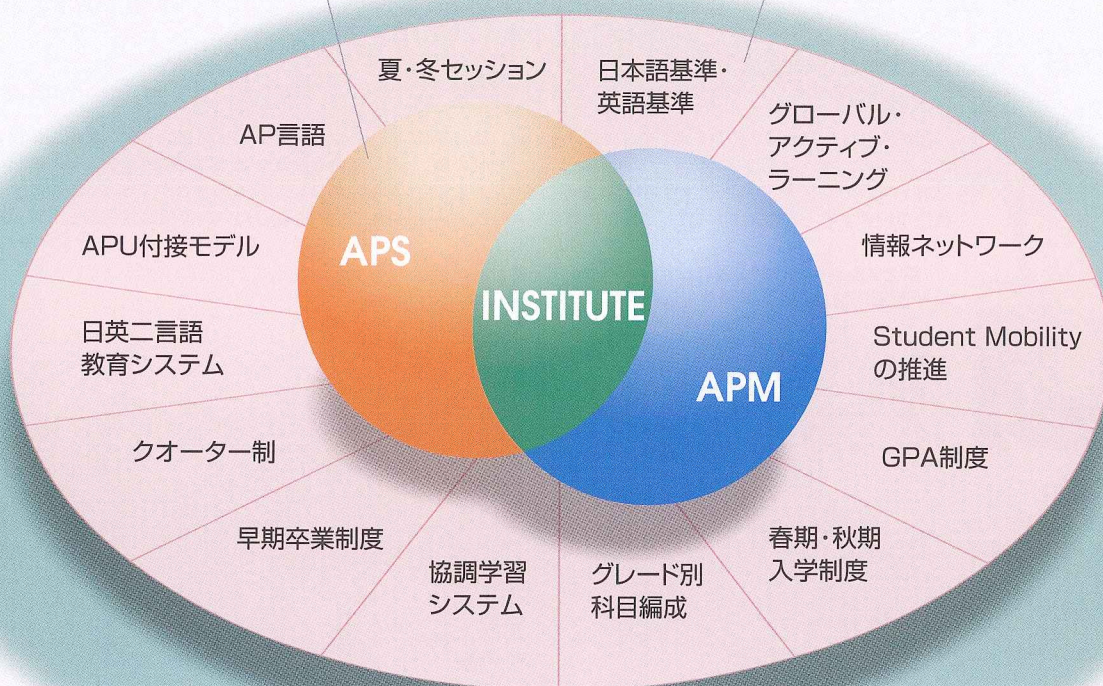
世界のさまざまな国・地域から学生が集い、  
教員も約半数が外国籍の多文化・多言語環境のなか、  
英語と日本語による二言語教育システムを実践するAPU。  
日本人学生が在学中に海外で学ぶことを推奨する「Student Mobilityの推進」など、  
国際性豊かな環境をフルに活かした、  
国際的に通用する先進的な教育システムを導入しています。

### 学部教育

「アジア太平洋学」という新しい学問分野を確立するために、地域が抱える諸課題を社会学と経営学をベースに分析・研究する多様なカリキュラムを編成。

### APUならではの教育システム

国際標準の言語教育プログラムをはじめとして、世界各地から集まる学生のさまざまなニーズに対応した、革新的かつ効率的な教育サポートシステムを構築・提供。



## 多文化・多言語環境

学生数の半数近くを世界75カ国・地域出身学生が占め、教員陣も約半数が外国籍という、民族・宗教・文化の違いを越えたマルチカルチュラル・コミュニティを創出。

### 文部科学省「グッド・プラクティス (GP)」に2年連続で採択。

大学教育の改善と活性化をめざす文部科学省の2つのプロジェクトに、APUは2年連続で採択。社会的な評価がますます高まっています。

2003年度文部科学省  
【特色ある大学教育支援プログラム (特色GP)】

「多言語環境における日英二言語教育システム」

2004年度文部科学省  
【現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代GP)】

「Student Mobilityの推進」



## 日英二言語教育

### 日本語と英語の二言語で授業を開講。

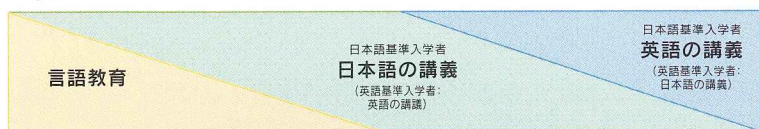
APUでは、日本語・英語の二言語教育システムを導入。1・2年生で学ぶ基礎教育科目は原則として日本語・英語それぞれのクラスを開講しています。言語教育科目と専門科目とを合理的に組み合わせた教育システムにより、3・4年生では英語で専門科目の授業を受けることができる言語運用能力を修得していきます。2003年度にはこの「多言語環境における日英二言語教育システム」が、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。

#### APU付接モデル

##### 専門科目と言語教育科目を連動。

付接モデルは、英語でおこなわれる講義と言語教育科目(英語)を連動させて学ぶ教育システムです。専門科目に準じたトピック内容で専門科目教員が英語による講義をおこない、この講義を題材に英語を学びます。講義に関する資料の読み込みやディスカッション、ライティングなどを通して英語による専門科目の履修にそなえます。専門科目とのよりスムーズな接続のために、クラスの教育内容は学部ごとに異なります。

1 年次 ----- 2 年次 ----- 3 年次 ----- 4 年次



1・2年次は入学時の基準言語で授業を受けつつ、反対言語の学習に取り組み、3年次以降では日本語及び英語の両方で授業を受講します。

■APUの2言語による教育(科目は例)のイメージ

※1・2年生はクラスを選択

基礎教育科目					専門教育科目		
	春セメスター		秋セメスター			春セメスター	秋セメスター
アジア太平洋の言語と文化	E	J	E	J	アジア太平洋環境論	E	E
新入生ワークショップ	E	J	E	J	都市政策	J	E
アジア太平洋の産業	E	J	E	J	製品開発戦略論	E	J
現代の科学技術	E	J	E	J	人的資源管理論	J	J

#### 英語教育サポートプログラム

### APUの多文化・多言語環境を最大限に活かし、英語能力をさらに引き上げる。

APUの日英二言語教育環境と多文化・多言語環境を最大限に活用し、国内学生の英語能力を向上させることを目的とし、正課・正課外のさまざまな取り組みを通じて学生の英語力の総合的な向上をはかります。「英語開講科目を20単位以上取得する」という卒業条件を全学生がクリアできるようサポートします。

特徴

#### 1 入学時の英語能力に応じた、習熟度別の英語クラス編成

入学前に取得した英検やTOEIC®、TOEFL®などのスコアをもとに、開始する英語科目のレベルを決定します。各自のレベルに合わせた効率的な英語力の引き上げを可能にし、入学時より集中的に英語を学びます。

##### 英語を得意とする学生

英語が得意であれば、英語の言語科目の履修が免除されます。その分、専門科目などの選択肢が増加します。また、1・2年生時の基礎教育科目から英語で開講される科目を受講することで、交換留学や海外インターンシップなどの海外学習を早期から計画することも可能です。

##### 英語力を伸ばしたい学生

入学直後の第1 semesterからすぐに、より多くの英語クラスを受講するなど、さまざまなサポートシステムにより、3 年生時には英語開講の専門科目が履修できるレベル(TOEFL® 500点以上)にまで英語力を伸ばしていきます。

特徴

#### 2 世界各地から集う国際学生たちとの英語コミュニケーションとクラス間交流

他にはないAPUの環境を活かし、一部の授業でクラスエクスチェンジを実施。日本語を学ぶ国際学生のクラスと英語のクラス間で交流をおこない、よりアクティブなコミュニケーション学習を促進します。またクラスの枠を超えた学びで相互にレベルアップをはかります。

POINT 1

##### 言語ラウンジの活用

高度な英語運用能力をもつ国際学生を中心とした大学院生が「英語アドバイザー」として言語ラウンジ(P48参照)で学部学生をサポート。リサーチワーク、プレゼンテーションの準備など、正課授業の課題に関する質問を英語で受け付けるほか、学生が教室で学んだ英語を実際に使う場を積極的に提供します。

POINT 2

##### 毎週木曜日はEnglish Thursday (ET)

積極的に英語を使う機会を増やすため、毎週木曜日をEnglish Thursdayに設定。English Ambassadorを中心にキャンパス内の学生同士、また学生・教職員間の英会話を推進します。ETの一環として毎週映画上映も企画します。

POINT 3

##### TOEFL講座・TOEIC講座・英文法講座を開講

正課外科目としてTOEFL講座、TOEIC講座、英文法講座を開講し、TOEFL®/TOEIC試験対策を学生が効果的におこなうことができるようサポート体制を整えています。課外講座はsemester期間中だけでなく、長期休暇中の短期集中講座も提供します。

POINT 4

##### 学内プレゼンテーション大会

正課授業の一環として、英語プレゼンテーション大会を企画。通常クラス内でおこなっているプレゼンテーションをミレニアムホールに会場を移して実施します。大勢の聴衆の前で、自分の意見を自らの言葉でわかりやすく語ることは、英語を学ぶ上で大きな経験と自信につながります。この大会は一般の方にも公開することを予定しています。

POINT 5

##### 英語教育に関する国際シンポジウム

APU開学50周年記念行事として2005年11月に「アジア国際英語教育シンポジウム」を開催。記念講演やパネル・ディスカッション、交流会などを通して、これからの英語教育のありようを見つめ、同時にAPUが実践してきた数々の英語教育の成果とめざすものを国内外の教育機関などに広く発信します。

POINT 6

##### TOEFL®/ITP受験

TOEFL®は英語を母語としない学生が、主に北米の大学に留学する際、英語での授業を受講できる総合的な英語力があるかどうかをみるためのもので、ITPはこのTOEFLの模擬試験にあたります。APUでは学生の英語力の向上をはかるため、1 回生の間に4 回の受験を義務づけています。(有料)

#### 英語以外のアジア太平洋AP言語教育

##### アジア太平洋地域の言語を学ぶ。

英語以外にも中国語や韓国語、マレー語・インドネシア語、スペイン語、タイ語、ベトナム語の6言語を、入門レベルから上級レベルまで学習できる言語教育科目を用意しています。授業は週4回おこなわれるほか、これらの言語を母語とする国際学生や教員も身近に存在することから、彼らと積極的にコミュニケーションをはかることで、短期間で高度な言語運用能力を身につけることができます。

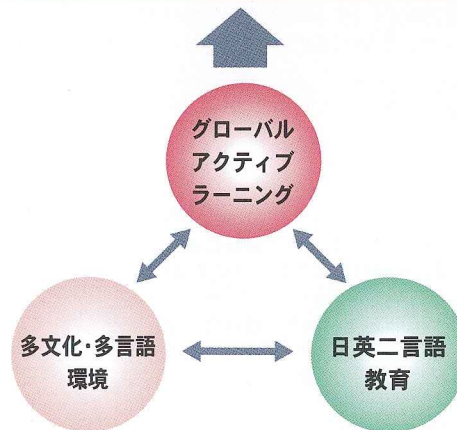




### 日本人学生の全員が在学中に海外学習を経験することを推奨。 国際社会で通用する英語運用能力を育む。

APUでは、日本人学生の全員が在学中に海外学習を経験することを推奨し、英語運用能力を備え、国際社会で活躍できる人材を育成する「Student Mobilityの推進」に取り組んでいます。これは、学生が一つのキャンパスにとどまることなく国境を越え、そこで得た経験を持ち帰ることで周りの学生にプラスの影響を与え、触発された学生がまた海外へ出ていくというような、連鎖・循環の構造を企図したものです。2004年度にはこの「Student Mobilityの推進」が、文部科学省による「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択されました。

国際社会で活躍できる人材



#### ■グローバル・アクティブ・ラーニング

##### 「経験」と「交流」を重視した 学習プログラム。

立命館学園が誇る世界的規模のネットワークを最大限に活用したグローバル・アクティブ・ラーニングのプログラムでは、長期留学・短期留学、海外言語研修、海外フィールドワーク、海外インターンシップ、国際学生会議への参加、さらには学生自らが開拓した活動も、一定の条件を満たした場合には、単位として認定することも可能です。このプログラムを利用して、日本人学生が在学中に少なくとも1回は海外で学習することを推進しています。

※プログラムの詳細は、下記ホームページからご覧ください。  
<http://www.apu.ac.jp/→key topics> 国際交流→国際交流サイト

海外言語研修

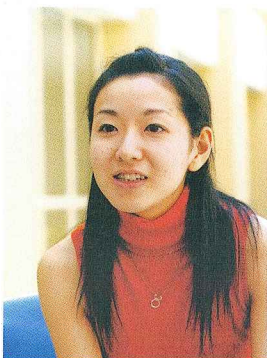
交換留学プログラム

海外インターンシップ

短期留学プログラム

海外フィールドワーク

国際学生会議



道家麻衣子さん

アジア太平洋研究科 国際協力政策専攻2年生  
2004年3月アジア太平洋学部卒業  
京都府立洛北高校出身

#### NGO参加や、国連インターンなどの経験で、 国連職員への夢が身近に。

「子供の笑顔を守る仕事に就きたい」というのが昔からの私の望みでしたが、3回生の時にAPUの友人の故郷であるフィリピンを訪ね「持続可能な開発」が成功しているというボラカイ島を訪れました。しかしそこで、自然の美しさに満ちたこの島の裏で蔓延しているストリートチルドレンや児童売春を目の当たりにし衝撃を受けたのです。首都マニラへ戻り、現地のNGOでボランティアに参加、ストリートチルドレンの子供たちと直接コミュニケーションしていくなかで、この問題を解決したいという思いがさらに強くなっていきました。

そのための道の一つとして、やはり世界の貧困問題や女性問題に取り組んでいる国連で働きたいという夢があります。そして、その夢を後押ししてくれたのが国連に30年間勤務していたAPSのゼミの教授でした。「情報は足で稼いでください。」と学生たちにフィールドに出ることを強く勧める教授について行きたいと大学院への道を選択。そして教授の勧めもあり応募した国連インターンシップに思いがけず選ばれ、ニューヨークの国連本部で2か月間、事務局のインターンとして貴重な経験を積むことができたのです。世界の要人が集まる国際会議でノートを取り、レポートを書くという仕事は心身ともにハードでしたが、憧れだった国連で研修を積んだことで強い自信が付き、雲の上だった世界が身近になった気がしました。夢の達成のため、そして子供たちの笑顔を守るため、一歩ずつ前へ進んでいきたいです。





●アジア

(韓国)  
釜山大学  
東亜大学  
東亜大学校  
梨花女子大学  
漢陽大学  
韓国生産技術院  
高麗大学  
慶熙大学  
浦項工科大学  
釜山大学  
ソウル大学  
淑明女子大学  
成均館大学  
蔚山発展研究院  
蔚山大学  
延世大学  
(中国)  
中国煤炭经济学院  
中国企業連合会  
香港中文大学  
重慶交通大学  
重慶工商大学  
重慶工学院  
重慶科技学院  
大連市  
東北财经大学  
華東師範大学  
復旦大学  
吉林大学  
天津科技大学農家菜園短期大学  
南昌市  
南京大学  
南開大学  
北京大学  
上海社会科学院  
上海交通大学  
深圳大学  
西南農薬大学  
天津大学

同済大学  
清華大学  
對外経済貿易大学  
雲南社会科学院  
浙江大學  
中山大學  
アモイ大学  
四川外語学院  
(台湾)  
中央研究院  
国立政治大学  
国立台湾師範大学  
南台科技大学  
東海大学

(マレーシア)  
マレーシア戦略国際問題研究所  
マラヤ大学

(シンガポール)  
シンガポール国立大学  
シンガポールマネジメント大学  
シンガポール理工学院  
ナショナル工科大学

(インドネシア)  
アングラサ大学  
ガジャマダ大学  
バンドン工科大学  
西スマタラ州府  
トリサムティ大学  
スラバヤ大学  
インドネシア大学

(タイ)  
タイ国立開発行政研究院  
サイアム大学  
タマサート大学

(フィリピン)  
アテネオ・デ・マニラ大学  
デ・ラ・サール大学  
SEARCA  
アジア太平洋大学  
フィリピン国立大学

(ベトナム)  
ハノイ師範大学  
ハノイ工科大学  
ホーチミン市教育大学  
ホーチミン市工科大学  
ベトナム教育訓練省  
フエ大学  
ハノイ国家大学  
ホーチミン市国家大学

(モンゴル)  
モンゴル工科大学

(インド)  
ジャワハル・ネルー大学  
デリー大学  
マドラス大学  
EMPI ビジネススクール  
ブナ大学

(バングラデシュ)  
ダッカ大学

(スリランカ)  
コロボ大学

(ラオス)  
ラオス国立大学

(ヨルダン)  
ヨルダン大学

(アラブ首長国連邦)  
HCT

●オセアニア

(オーストラリア)  
オーストラリア国立大学  
ラトロープ大学法律経営学部  
マコーリー大学  
メルボルン大学  
チャールズ・スタート大学  
ジェイムズ・クック大学

(ニュージーランド)  
アジア2000年財団  
オークランド工科大学  
ヴィクトリア大学

(フィジー)  
南太平洋大学

(サモア)  
サモア大学

●北米

(アメリカ合衆国)  
アメリカン大学  
APSA (国際関係学部(大学院)協会)  
デューク大学  
イリノイ・カレッジ  
ナショナル・フットボール・リーグ  
レンスラー工科大学  
ラトラーズ大学  
セント・エドワーズ大学  
ジョージア工科大学  
ハワイ大学  
オクラホマ大学  
ピッツバーグ大学  
南カリフォルニア大学  
バンダービルト大学工学部  
ワシントン大学  
ウィスコンシン大学オッシュコシュ校  
ワイオミング大学  
ジョージタウン大学

(カナダ)  
ヨーク大学シュリーヒスクール  
オブビジネス  
サイモン・フレイザー大学  
ブリティッシュ・コロンビア大学  
アルバータ大学  
ビクトリア大学経営学部

(エクアドル)  
太平洋大学

(コスタリカ)  
平和大学

(ペルー)  
ペルー学術外交院 ※1  
ペルー・カトリック大学 ※1  
企業経営専攻大学院 ※1  
リマ大学 ※1  
ペルー国立農業大学 ※1  
ペルー国立工科大学 ※1  
パシフィック大学 ※1  
ペルー大学カイトノ・エリディア ※1

(アルゼンチン)  
アルゼンティナ・テラ・エンブレサ大学  
ラプラタ大学  
ロサリオ大学  
トルクアト・ティ・テラ大学

(ジャマイカ)  
ノーザン・カリビアン大学

●ヨーロッパ  
(イギリス)  
CATL

(カナダ)  
ヨーク大学シュリーヒスクール  
オブビジネス  
サイモン・フレイザー大学  
ブリティッシュ・コロンビア大学  
アルバータ大学  
ビクトリア大学経営学部

●中南米  
(メキシコ)  
モンテレー工科大学  
イペロアメリカナ大学

(エクアドル)  
太平洋大学

(コスタリカ)  
平和大学

(ペルー)  
ペルー学術外交院 ※1  
ペルー・カトリック大学 ※1  
企業経営専攻大学院 ※1  
リマ大学 ※1  
ペルー国立農業大学 ※1  
ペルー国立工科大学 ※1  
パシフィック大学 ※1  
ペルー大学カイトノ・エリディア ※1

(アルゼンチン)  
アルゼンティナ・テラ・エンブレサ大学  
ラプラタ大学  
ロサリオ大学  
トルクアト・ティ・テラ大学

(ジャマイカ)  
ノーザン・カリビアン大学

●ヨーロッパ  
(イギリス)  
CATL

ロンドン大学 SOAS  
エディンバラ大学  
サセックス大学  
ウォリック大学  
ウェストミンスター大学  
ケント大学

(ドイツ)  
フライブルグ大学  
ヴォルツブルグ大学  
ベルリン・フンボルト大学  
オットフォンゲーク・マクデブルク大学  
チュービンゲン大学

(デンマーク)  
オーフススクールオブビジネス  
コペンハーゲン商科大学  
コペンハーゲン大学

(フランス)  
ESCIPI  
エセム (ESCEM)  
ルアーン・マネジメント・スクール  
ボルドー政治学院  
ボルドー第三大学  
ISC (アイエスシー)  
トゥールーズ第一社会科学大学  
トゥールーズ・ミラユ大学  
パリ第一大学

(ギリシャ)  
アテネ大学

(スペイン)  
アルカラ大学  
コンボステラ大学  
グラナダ大学

(イタリア)  
国立ナポリ東洋大学

(オランダ)  
ライデン大学  
Institute of Social Sciences (ISS)

(オーストラリア)  
スタイヤ・スクール・オブ・マネジメント  
bfiウィーン応用科学大学

(スウェーデン)  
ルンド大学  
セーデルベルグ大学

(ノルウェー)  
ベルゲン大学  
ノルヴィジャンスクールオブ  
マネジメント

(フィンランド)  
ローリア・ポリテック

(ポーランド)  
ポーランド科学アカデミー社会科学部  
ワルシャワ経済大学

(ロシア連邦)  
極東国立大学

(ブルガリア)  
国内国際経済大学

●アフリカ  
(ケニア)  
ジョモ・ケニヤッタ農工大学

(南アフリカ共和国)  
プレトリア大学

交換留学

ブリティッシュ・コロンビア大学  
(カナダ)



小泉 桃子さん

アジア太平洋学部4回生  
東京都・日本大学豊山女子高校出身

自信をなくしたときには "I can do it !"  
チャレンジ精神がかけがえのない宝物に。

UBC(The University of British Columbia)はアジアからの留学生も多く、アジア学の授業も充実しており、私自身も日本との関係を抜きには語れない東北アジアに重点を絞り、アジア学を専攻しました。日本人の私よりもカナダ人やアジア人学生のほうが日本について詳しいことに衝撃を受け、「もっと日本が知りたい、学びたい」と思うようになりました。卒業論文では「日本の国際化」について研究したいと考えています。

また長い休みを利用して、-30℃にもなる東カナダでバックパッカーをしたことも貴重な体験のひとつ。留学で得たことは言語だけでなく「他のこと」にもあり、それを見つけるのも留学の楽しさ。自信をなくした時には "I can do it ! "と奮い立たせ、チャレンジ精神で挑んだ留学体験が私のかけがえのない宝物になっています。



交換留学

シンガポールマネジメント大学  
(シンガポール)



杉山 真希さん

アジア太平洋マネジメント学部3回生  
静岡県立吉原高校出身

ただいまシンガポールに交換留学中。  
英語で「自ら発信する力」を身につける。

シンガポールの公用語が英語であること、講義の全てが少人数のセミナースタイルであることからSMU(Singapore Management University)を志望。授業には必ずプレゼンテーションがあり、英語での高い提案力と発言力が要求されます。自ら発信する力を身につけることは、将来を拓く大切な能力となると感じています。

またSMUでは、ビジネスシーンを想定した実践的な授業がおこなわれており、いかに新商品を売り込むかというようなプレゼンテーションや、さまざまなケースに対処するビジネスレターの書き方、組織行動論などを学んでいます。

「今ある環境を変えてみたい!」という思いから海外という環境に身を置いた交換留学。経験する全てが自分自身を成長させる糧となり、新たなコミュニティを築いたシンガポールで充実した学生生活を過ごしています。



海外言語研修

ホーチミン市国家大学  
(ベトナム)



河村 朝子さん

アジア太平洋学部3回生  
三重県立川越高校出身

ベトナム語を自分のものに。  
プラスαの力で可能性をひろげる。

ベトナムの日本大使館の勤務経験がある素晴らしい先生がいらっしゃることで、先輩たちの語学力の高さに刺激を受けてベトナム語の授業を選択。ホーチミン市国家大学への留学も決めました。授業ではベトナム人の先生から個人レッスンを受け、より深く言語を学ぶことができました。現地の雑貨店でアルバイトをしたのも貴重な経験に。日本人ならではの細やかな違いがいかに大切に再認識しました。そして以前から興味があったロンドンの語学留学へ。ベトナム語だけでなくプラスαの英語力を身につければいろんな可能性が広がると感じたからです。

海外学習のチャンスが多くあるAPUは、将来に向けて次のステップを見つけられることが大きな魅力。将来はベトナム語はもちろん、日本人のホスピタリティと英語力を活かした仕事に就きたいと考えています。





## 海外インターンシップ チェコ共和国



吉田 奈緒子さん  
アジア太平洋マネジメント学部3回生  
福岡県・東筑紫学園高校出身

### チェコのプラハでインターンに参加。 英語の重要性をあらためて実感。

APUの友人たちに触発され、インターンに参加しました。行き先はチェコのプラハ。インターン先は現地の税理士事務所。職務内容は約130社の日本企業にその会社を薦めることでした。会社概要の翻訳から始まり、大使館での情報収集、そしてミーティングまでさまざま。落ち込むこともありましたが、仲間たちに支えられ乗り越えることができました。

チェコのインターン後、ウクライナへ。そこでは「World without border!」ということで学校をまわり、自国のプレゼンテーションをおこないました。現地のメディアでもとりあげられ、ちょっとした有名人になりました。

また、多言語、多文化が共存するヨーロッパでの、国際公用語としての英語の重要性も実感。視野を大きく広げる貴重な5か月間でした。



## 海外インターンシップ アメリカ合衆国

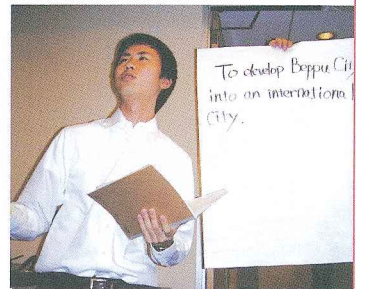


西谷 拓生さん  
アジア太平洋学部4回生  
広島県立福山誠之館高校出身

### 亀川は大きな実験室。 経験と人的ネットワークで世界と地域を結びたい。

APUに進学して、初めて別府の亀川というまちを知ったとき、ここは老人、障害、教育など、世界のあらゆる問題が同居しているまちだと気づきました。これを地域おこしにつなげようと「亀興し」と名づけ活動を開始。この活動をレポートにして海外インターンシップに応募したら、幸運にも採用されサンフランシスコのインターンシップに参加できたんです。

海の向こうのサンフランシスコもまた、あらゆるマイノリティが存在し、彼らが自ら声を上げて活動している多様性をもった地域であることを知りました。研修先であるNPOでは、組織に関する厚い本を読み、組織の年表を一人で作成。サンフランシスコの寺で行われた日系人のイベントにも参加し、資金調達のリーダーとして日系の商店に飛び入りで資金集めに奮闘しました。海外研修を通して実感したこと、それは人とのつながり、そして、そこから始まるネットワークの重要性でした。帰国後の今の目標は、相互交流を通じて世界と地域とをつなげること。亀川からサンフランシスコにインターンを送り出す夢に向かって、活動を進めたいです。



## 国際学生会議 UAE・国際学生会議 (E-ducation Without Borders)



湯井 雅志さん  
アジア太平洋学部4回生  
島根県立浜田高校出身

### アブダビでの国際学生会議を運営。 APUの環境が役立ちました。

APUに入学したときから、自分を成長させてくれるような体験をしたいと思っていました。国際学生会議(E-ducation Without Borders)に思いきって応募したら2003年に日本から僕一人が選ばれました。開催国はUAE(アラブ首長国連邦)のアブダビ。開催年は2005年2月。その間、運営委員の一人として会議を成功に導き、アジアから学生を呼び込むのが仕事でした。週に1回、時差に合わせ世界中にいる運営委員とオンラインミーティングをする傍ら、アジアからの学生を募るのです。このときほどAPUのネットワークと環境が役立ったことはありませんでした。

国際会議で活躍できたのもAPUで英語を使い、国際学生と交流していたことによって、いつの間にかグローバルスタンダードが身についたからだと思います。おかげで会議も大成功。世界90か国から1000名の学生たちが集まり、日本からも65名が参加。度胸も自信もつき、そして世界の友だちもできました。



## 国際会議などの実績

## 第20回日韓学生フォーラム(2004年8月 ソウル)

APUから4名の学生が参加。ソウル会議終了時には、1名の学生が次回第21回本会議(於東京・沖縄)実行委員に任命されました。また、新たに4名の学生が新メンバーとして選考を通過したため、引き続きAPUで実施している勉強会などで支援を続けています。

## Harvard Project for Asian and International Relations(2004年8月 上海)

APUから4名の学生が参加。会議終了時に、APU学生2名が次回の本会議(於東京大学)の実行委員に任命されました。その後、学内外広報等の支援を実施した結果、多数の学生が選抜されました。

## 国連専門家会議/UN Symposium(2004年10月 APU)

APUから17名の学生が実行委員として参加。会議開催中に実施した、公開セミナーへは400名強、APU学生自らが専門家、実務家へ対して挑戦したプレゼンテーション時には約150名の学生が参加しました。

## E-ducation Without Borders(2005年2月 アラブ首長国連邦アブダビ)

協定大学先であるHCT(Higher College of Technology)よりAPUへ対して、会議を成功に導くために学生実行委員を選出して欲しいとの要望があり、学内選考を経て1名のAPU学生を正式にHCTへ紹介。その学生は会議実行委員の1人として北東アジア(日本・中国・韓国)担当となりました。APU協定大学との連携の結果、100名以上の北東アジア学生が選考を通過しました。APUからは10名の学生が参加しました(日本代表学生14名)。



## 先進的な教学プログラム

### 春期(4月)入学・秋期(9月)入学制度

完全セメスター制で、春と秋の年二回、入学できます。

APUでは、開講する授業のすべてがセメスターで修了。だから密度の濃い内容で効率よく学習を進めることができます。また、完全セメスター制は春期(4月)と秋期(9月)入学にも有効。国際学生が多いAPUならではの制度です。

### 短期集中型の履修システム(クォーター制)

約2ヵ月で1つの講義が完結。  
学習効果を高める先進的な教育システム。

週2回授業を開講することにより、1つの講義が約2ヵ月間(8週間)で完結する、短期集中型の教育システムを導入。同時期に履修する科目数が従来よりも少なくなるため、より高い学習効果が期待できます。またこのシステムのメリットをいかし、1クォーターのみ履修登録をおこなわずに就職活動に専念するといったことも可能です。

### グレード別科目編成

グレード番号で、科目の難易度を表現。  
系統立てた履修に便利。

科目を履修する際、その科目につけられた数字により系統立てた履修ができるよう配慮。100番台は「入門」、200番台は「基礎」、300番台は「応用」、400番台は「展開」を意味します。

### 協調学習システム

“教えることから学ぶ”学生による相互サポートシステムを展開。

上回生や大学院生が講義や演習などの場において、基礎的な技術指導や学習アドバイスをこなうTA(ティーチング・アシスタント)制を導入しています。

### 夏・冬セッション

第一線で活躍する実務家による、短期集中講義。

APUにはセッション期間が夏と冬に設けられ、1週間で完結する集中講義が開講されます。国内外問わず、現場の第一線でご活躍の著名な先生方に講義を担当いただきます。学生のみなさんに提供する多様な講義形態のひとつです。

### 成績評価方法

5段階の評価に基づきGPAを算出。  
成績優秀者を表彰する制度も設置。

各科目の成績は、得点率の高い順にA+、A、B、Cとなり、不合格ならばF評価となります。期末試験の成績配分は50%以下とするとともに、中間的な課題も1回以上課されるなど、厳格な成績評価を実施。またその評価に基づきGPA(評定平均値)が算出されます。また、GPAのスコアが優秀な学生を表彰する制度も設けています。

### 日本語基準入学と英語基準入学制度

日本語主体か、英語主体か二通りの入り口を用意。

日英二言語教育システムのAPUでは、授業は日本語と英語の両方で開講されているため、日本語または英語のいずれかの言語の基準で入学することができます。APUの掲示やお知らせは、日英二言語で表記され、入学後のガイダンスも言語基準により、日本語と英語でおこなわれています。

### 早期卒業制度

最短3年間でAPUの卒業が可能。  
次のステップに、より早く到達できます。

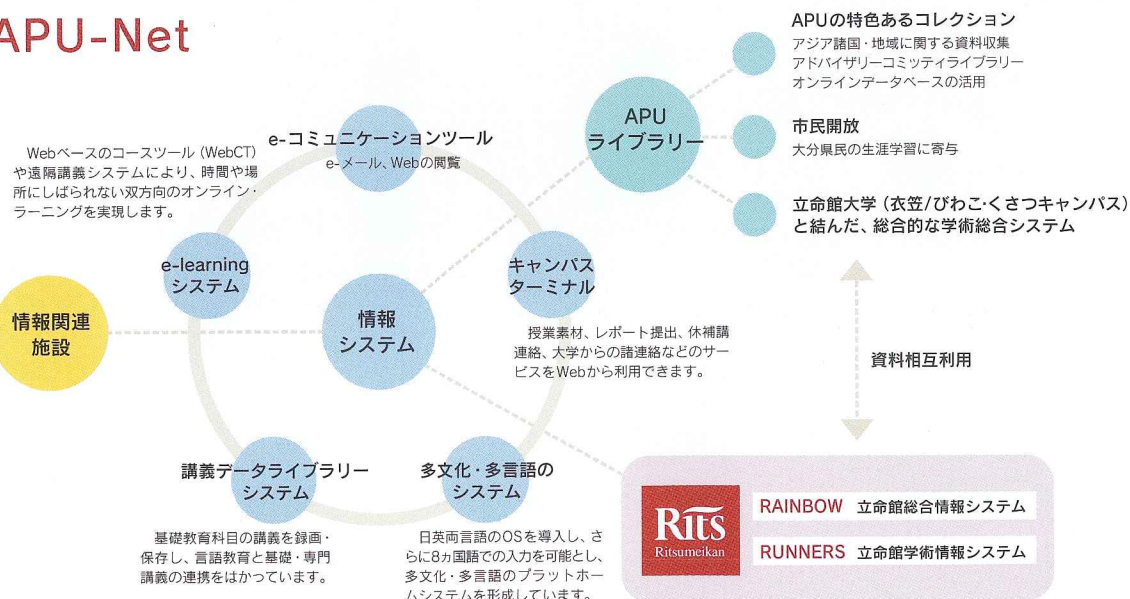
学部を最短3年間で卒業できる「早期卒業プログラム」を設置。APUにおける多様な学習ニーズに応え、早期に卒業をめざす優秀な学生の学習努力を励ます制度です。早期卒業により、就職や進学といった次のステップへ早く進めるだけでなく、4年で卒業した場合と比べ、学費と生活費で約160万円(年間生活費約100万円+授業料年間597,000円/2006年度例)の負担の軽減につながります。プログラムには人数制限があり、学力審査によって登録者を決定します。

### 情報ネットワーク

学修をサポートする充実した情報環境。  
APUは教育も研究設備も世界水準。

校内には高速ネットワークに接続された約1300台のパソコンを設置。学生はインターネットや電子メールを自由に利用できます。レポート提出もオンライン化が進んでおり、履修登録や図書館のデータ検索、休講や試験日程などの情報もパソコンで入手可能。またパソコンには日・英両言語のOSが搭載されています。

## APU-Net





# 学部での学修を高度に発展させ、 より深くアジア太平洋と向き合うために。

**A** PU大学院では、21世紀の創造と貢献にこだわった専門教育を展開しています。「アジア太平洋学」という新しい研究分野を構築し、この地域の問題点から政策を学び、より充実した国際協力の実現をめざしています。また、ビジネス分野でも多様なテーマに挑むリーダーを育成する、MBAコース(経営大学院)を運営しています。日本にしながら、国際的に通用するより深い知識とスキルが身につくのは、世界を体感できるAPUならではの学びです。

## 大学院の特色

- 1 授業はすべて英語で開講します。
- 2 短期間(博士前期課程は1年、MBA1.5年、博士後期課程は2年)での修了も可能です。
- 3 8割以上が海外から入学しており、海外の政府機関などから派遣されている学生も在籍しています。
- 4 APU学部出身者を優先する「学内進学制度」も設けています。

## ■大学院の構成と定員

研究科名	課程名	専攻名	コース名	入学定員	学位名
アジア太平洋研究科	博士前期課程	アジア太平洋学専攻	アジア太平洋学	15人	修士(アジア太平洋学)
			開発経済	15人	修士(国際協力政策)
		国際協力政策専攻	国際行政	10人	
			環境管理	10人	
	博士後期課程	アジア太平洋学専攻	観光管理	10人	博士(アジア太平洋学)
			アジア太平洋学	10人	
経営大学院(MBA)	修士課程	経営管理専攻	ファイナンス	15人	修士(経営管理)MBA
			国際ビジネスとマーケティング	15人	
			イノベーションと技術経営	10人	

## Interview

SAPOJNIC Victoria Victor さん

〈経営大学院(MBA)2回生、モルドバ出身〉

### キャリアアップの可能性を高め、国際社会へ。

APUに入学する前は世界4大会計事務所のひとつKPMGのルーマニア法人で働いていました。KPMGでのキャリアはビジネスの実務経験を積み、専門知識を身につけるまたとないチャンスでしたが、自分は国際社会で財務コンサルタントを手掛けたいと思い始めていました。そこで、ビジネス実務について理解を深め、経営の重要な場面で必要な能力を磨き、キャリアアップの範囲と可能性を高めるためにも、MBAプログラムに入学することにしたのです。

APU-MBAの教授陣は豊富なビジネス経験を持ったプロフェッショナルばかりですし、世界の先進国の一つである日本はMBAプログラムに理想的な環境だと思います。また、世界各国から集まった多くの留学生や日本人の学生と知識や文化価値、経験を共有することができました。





## アジア太平洋研究科 Asia Pacific Studies / International Cooperation Policy

知のフロンティアとして、21世紀アジア太平洋地域が直面する諸問題の解決策を創出。

アジア太平洋研究科は、高度な政策志向の研究者を養成する「アジア太平洋学専攻(APS)」と、国際協力に関わる専門的職業人を育成する「国際協力政策専攻(ICP)」で構成されています。アジア太平洋地域の実証的な研究を基礎に、この地域が抱える行政、経済、環境などに関する諸問題を高度な専門知識とグローバルな視点で追究する、次世代アジア太平洋地域の研究者を養成します。

### アジア太平洋学専攻 (APS)

#### ■ 博士前期課程

世界と地域を同時に見据え、「アジア太平洋学」の確立をはかる。

今、世界から熱い注目を集め、更なる発展が期待されているアジア太平洋地域。このエリアの最新の研究成果を検証し、各国が直面する社会や文化、政治経済などの課題を幅広く考察。産業界や社会の抱える現実の問題を分析し、同時に問題解決方法を探ります。「アジアと世界」という新しい視点から地域研究をおこない、アジア太平洋学の更なる発展と確立をはかります。

#### ■ 想定される進路

各国・地域の行政機関、高等教育機関、研究機関などにおける研究者、企業やNPOにおける専門家。

#### ■ 博士後期課程

グローバルネットワークと専門性を活かしアジア太平洋学をリードする研究者を養成。

前期課程で得た研究成果を総合するアジア太平洋地域の実態研究と、この地域が直面している課題を政策的、戦略的に研究します。立命館アジア太平洋研究センター(RCAPS)と共同でグローバルなネットワークを構築。発展途上国の開発援助など開発・協力の現場で活躍できる高度専門的職業人を社会へ送り出す拠点としての役割も担っています。

### 国際協力政策専攻 (ICP)

#### ■ 博士前期課程

課題への多角的な視点をもつ、国際協力のスペシャリストを養成

ICPでは、国際協力や開発援助の現場に必要な知識に加えて、多角的な視点からものごとを捉え、対象に適した実践的な解決策を練ることができる、クリエイティブな専門家を養成します。「人間の生存環境に関わる課題」「産業創造・産業開発の課題」「市場経済システム改革の課題」の3つを基本的な研究領域とし、国際行政、観光管理、環境管理、開発経済の4分野において、具体的な政策立案に携わることができる人材の育成をめざします。

#### ■ 想定される進路

各国・地域の行政機関、国際協力機関、組織などにおけるリーダーや政策企画立案担当者。

## 経営大学院 (MBA) Master of Business Administration

ケースメソッドを導入し、アジアの事例を研究する革新的システム。

MBAとはMaster of Business Administrationの略で、日本語では「経営(管理)修士」と訳されます。MBA取得者とは、経営学において大学院レベルの学識を備えている者という意味であり、企業の活動が国際化し、国際水準の経営管理、分析、問題解決能力を備えている人材が求められている今、MBA取得者への注目が集まっています。これまでは米国へ留学しMBAを取得するケースが多かったのですが、APU経営大学院では、北米の教育メソッドを取り入れたプログラムを英語で受講、国内で取得が可能です。

### APU・MBA 2つの特徴

#### 1. International Standards

米国ビジネススクールのメソッドと英語での教育を徹底しています。米国のビジネススクールの第一線で長年MBA教育に携わってきた教員や、AACSB(The Association to Advance Collegiate School of Business・米国マネジメント教育に関する協会)の審査委員の経歴をもつ教員により運営されています。

#### ■ 想定される進路

民間企業の幹部候補、各国・地域の行政機関、国際機関、NPOなどにおける組織運営の専門家。

#### 2. Original Content

アジア、日本に照準を絞ったケーススタディに取り組みます。アジア太平洋地域が直面する企業の経営改革や産業の創出、商品開発、技術とイノベーションといった課題を研究。欧米で形成されたマネジメントスタイルを土台とし、アジア太平洋地域の経済、社会、文化を考慮した「アジア太平洋型マネジメント」の検討を進めます。

### ■ 立命館アジア太平洋研究センター (RCAPS)

アジア太平洋地域の研究成果を蓄積し、世界に向けて発信する基地局として。

アジア太平洋地域が抱える諸課題の解決に取り組み、さらなる発展に貢献する研究者や機関・団体の交流拠点として立命館学園は、APUに立命館アジア太平洋研究センター(RCAPS)を設置。APU大学院とともに、アジア太平洋学構築の中心的な役割を担います。

#### ■ RCAPSの主な活動

アジア太平洋研究のCenter of Excellenceをめざして、様々な研究活動を展開、学術研究機関をはじめとする多様な組織とのネットワークを構築し、その成果を紀要[Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies]の刊行などで広く国内外に発信しています。

### ■ APUケース開発センター

実践的なマネジメント教育を促進する「ケース」を開発・作成するラボ。

APUケース開発センターでは、企業経営の具体的な事例をまとめた「ケース」の開発・作成に取り組んでいます。APU経営大学院ではこのケースを活用し、経営者の立場からさまざまな課題に対する解決策を導き出す実践的な教育をおこないます。

#### ■ 本学で開発されたケースの例

カナダのUniversity of Western Ontario(Richard Ivey School of Business)のケース教育第一人者であるERSKINE, James A.助教授の指導のもと、すでに「シティグループ:金融コングロマリットにおける経営者のリーダーシップ」といったケースを開発しています。



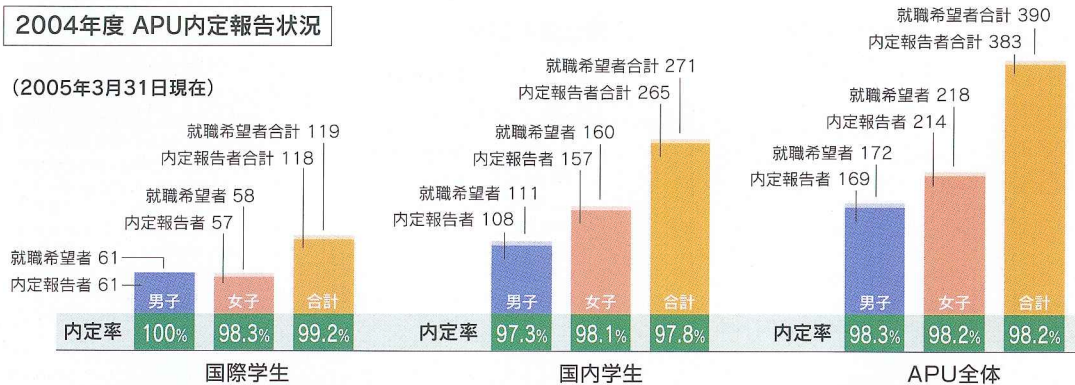
# 世界へはばたく先輩たち

## ■ 世界のあらゆるビジネスフィールドへ。 圧倒的な就職内定率98.2%。

就職内定率98.2%。新設の文系大学のこの数値は、いま社会的注目を集めています。一般的に厳しいといわれる留学生や女子学生もほぼ100%に近い内定率を記録しています。経済界で求められる人材が確実に育っています。

### 2004年度 APU内定報告状況

(2005年3月31日現在)



### その他の進路

国内外の大学院進学など

### 主な就職内定先企業・団体 (2005年3月末実績・国際学生の就職内定先を含む)

愛三工業株式会社  
株式会社ICSコンベンションデザイン  
アイシン精機株式会社  
アコム株式会社  
株式会社あさひ  
アサヒビール株式会社  
アアコ株式会社  
ANAセールス株式会社  
アビコムコンサルティング株式会社  
アメリカンファミリー生命保険会社  
イオンクレジットサービス株式会社  
イオン株式会社  
石川島播磨重工業株式会社  
株式会社伊予銀行  
株式会社エイチ・アイ・エス  
SMBCフレンド証券株式会社  
株式会社NHK文化センター  
L.G. Philips LCD Co., LTD.  
株式会社オーイーシー  
大分キャンパス株式会社  
株式会社大分銀行  
株式会社大分航空トラベル  
大分全日空ホテル オアシスタワー  
株式会社オークワ  
オムロン株式会社  
オリックス・オートリース株式会社  
オリックス信託銀行株式会社  
オリックス株式会社  
独立行政法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)  
株式会社カネカ

関西バイント株式会社  
キッコーマン株式会社  
財団法人 休暇村協会  
九州電力株式会社  
空港グランドサービス株式会社  
Kumon Australia Pty Ltd.  
クラリオン株式会社  
株式会社コトブキ  
小松フォークリフト株式会社  
株式会社コムリ  
五洋建設株式会社  
Covansys India  
株式会社サトー  
サンスター株式会社  
サンデン株式会社  
三洋電機株式会社  
サンワテクノス株式会社  
株式会社CSK  
株式会社ジェイティービー  
株式会社JTBヨーロッパ  
株式会社滋賀銀行  
シキボウ株式会社  
社会保険庁 富山社会保険事務局  
ジャパン・エア・ガシズ株式会社  
株式会社JALスカイ九州  
スター精密株式会社  
スタンレー電気株式会社  
住友工業株式会社  
住友信託銀行株式会社  
住友電装株式会社

住友電装株式会社 海外現地法人  
住友電装コンピュータシステム株式会社  
セイコーインスツル株式会社  
全日本空輸株式会社  
ソニー株式会社  
ソフトバンクBB株式会社  
大金(中国)投資有限公司 大連事務所  
タイ住友商事会社  
ダイハツ工業株式会社  
ダイヤモンドリース株式会社  
大和証券株式会社  
株式会社地域科学研究所  
株式会社テクノスマイル  
独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構  
株式会社テニースジャパン  
デル株式会社 大連  
株式会社テレビ大分  
デンソータイランド  
東急建設株式会社  
東海機器株式会社  
東邦亜鉛株式会社  
東レ株式会社  
凸版印刷株式会社  
株式会社トライアルカンパニー  
株式会社西日本新聞社  
西日本旅客鉄道株式会社  
ニチコン株式会社  
日興コーディアル証券株式会社  
日産自動車株式会社  
ニッセイ同和損害保険株式会社

株式会社ニッソーサービス  
株式会社ニトリ  
日本インター株式会社  
日本オルガン株式会社  
株式会社日本公文教育研究会  
日本生命保険相互会社  
日本電産シバウラ株式会社  
日本電産リード株式会社  
日本富士通有限公司北京分公司  
日本マクドナルド株式会社  
日本旅行株式会社  
野村證券株式会社  
パーカー加工株式会社  
バイエル薬品株式会社  
浜松ホトニクス株式会社  
株式会社PALTEK  
日立機電工業株式会社  
日立建機株式会社  
株式会社日立製作所  
日立マクセル株式会社  
広島県警察本部  
広島信用金庫  
ヒロセ電機株式会社  
株式会社ファミリマート  
株式会社ファンケル  
富士通株式会社  
フジパン株式会社  
古河オートモーティブパーツ株式会社  
別府市役所  
ベルネット株式会社

株式会社ホテルメトロポリタン  
株式会社堀場エスデック  
本田技研工業株式会社  
株式会社毎日新聞社  
マブチモーター株式会社  
三井化学株式会社  
三井住友海上火災保険株式会社タイ支店  
株式会社三井住友銀行  
三井物産ステイルトレード株式会社  
三菱化学株式会社  
三菱証券株式会社  
三菱商事石油株式会社  
三ツ星ベルト株式会社  
株式会社宮崎銀行  
株式会社村田製作所  
明治安田生命保険相互会社  
株式会社明電舎  
株式会社メタルワン建材  
矢崎総業株式会社  
八鹿酒造株式会社  
ヤンセンファーマ株式会社  
UJF銀行 上海支店  
楽天株式会社  
株式会社リクルート  
リンナイ株式会社  
ロート製薬株式会社  
YKK株式会社 ロシア  
YKK AP株式会社

ほか

※50音順

### キャンパスにしながら就職活動、「オンキャンパス・リクルーティング」

APUでは、就職活動支援の大きな柱として、オンキャンパス・リクルーティングを実施しています。これは、企業・団体の方をキャンパスに招き、APUの学生を対象として会社説明会や筆記試験・面接といった採用の一連の流れを、APUのキャンパス内でこなう独自のシステムです。

「APUは人材の宝庫」という評価をいただき、2004年度には前年度を超える約150社もの日本を代表する企業・団体の方々にAPUにお越しいただき、多くの採用へとつながりました(2004年度卒業生の内定報告者のうち32%を占めています)。このような企業が直接大学に足を運び、リクルートに来る大学は多くありません。



株式会社ジェイティービー  
九州営業本部総務課  
江藤 公彦さん

### アジア太平洋から九州へ、九州から世界へ。 ますます企業から求められる人材です。

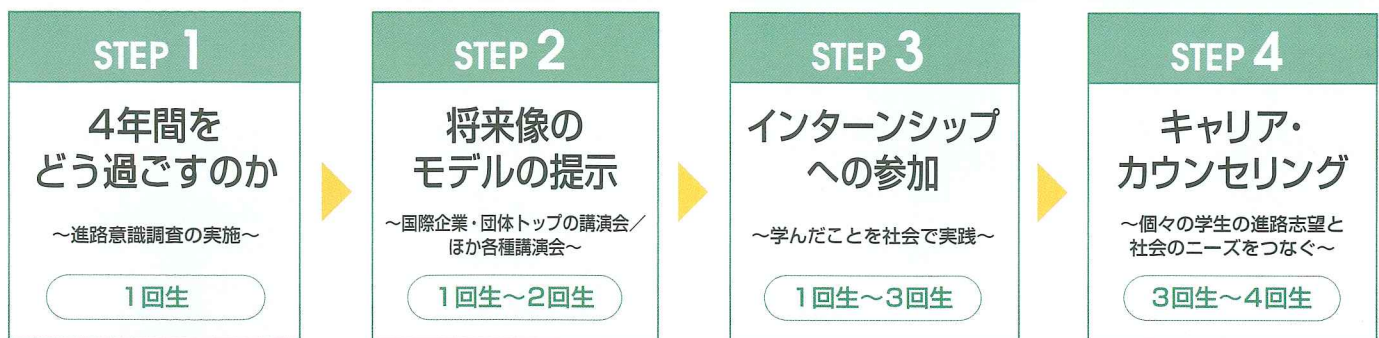
APUは近代的で国際的、新しい時代を担っている大学だと感じました。なにより学生がAPU生であることにプライドをもち、APUのコンセプトに共感をもって学んでいることを強く感じました。就職を志望する学生さんたちと質疑応答をしたのですが、国内、国際学生問わず、同じレベルで会話ができたのが驚きでした。自分の夢を語ったり、アピールすることが

不得手な大学生が多いなかで、APUの学生は自己表現が実に上手。プレゼンテーションや人前でスピーチに慣れているし、さまざまな表現方法をきちんと訓練されているようです。アジア太平洋から九州へ、九州から世界へ対応できる人材は、我が社はもちろん、企業からはますます求められると思います。



## ■ APUが誇る万全の就職サポート、「キャリア開発プログラム」。

APUでは、多文化・多言語環境で培われる「コミュニケーション能力」と、APUならではの「キャリア開発プログラム」によって、個人の潜在能力を開花させ、希望の進路を決定します。



全ての学生を対象に「**進路意識調査アンケート**」を実施。その結果から各学生の志望進路を把握し、随時進路に関する個別相談をおこなうとともに、キャリア・オフィスが開催する講演会などの企画に反映します。みなさんが入学段階から目標に向けて取り組むべき課題を明確にし、目的意識をもった学生生活が送れるようにサポートします。

国際企業や団体のトップおよび各界の第一線で活躍されている方を招いた講演会や、立命館大学の卒業生との懇談会などを多数開催。大学での学習が社会でどのように役立つのか、また社会で求められる人材像を知ることから自らの将来像を意識し、「**大学でやるべきこと**」「**身につけなければならないこと**」の理解をはかります。

国内外の企業や自治体などで実務を体験するインターンシップへの参加を支援します。社会の現場での体験を通じ、**自分には何ができるのか、また何が足りないのか**といった自らの「**強み**」と「**弱み**」を知り、学生生活の目標をより明確なものにします。また仕事の厳しさや難しさに直面し、実感することで、確かな職業観を育みます。

国内外の企業や団体に関する求人情報を提供します。また、みなさんの希望やこれまで培ってきた専門的な知識・スキルを把握したうえで、**就職活動のノウハウのレクチャーや個人面談をはじめとする具体的な進路支援・指導を実施**。さらに、みなさんが志望する企業や団体への個人紹介も、「**キャリア・チャート**」をもとにおこなっていきます。

### インターンシップ・プログラム

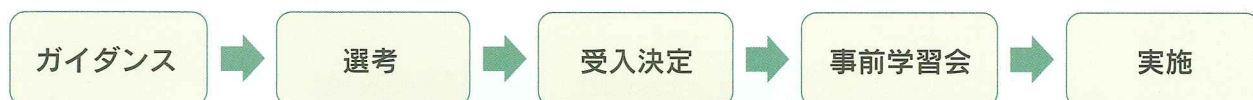
国内外のさまざまな企業で実務を体験。  
明確な職業観と現実社会への理解を深める。

APUでは、企業や公的な機関・団体などで実務を体験する「インターンシップ・プログラム」を、キャリア開発の重要なステップとして位置づけています。そのなかには単位化申請により単位認定の対象となるものや、海外を拠点に事業を展開する国際企業での実務を体験できるものなど、学生のさまざまなニーズに柔軟に対応できる多種多様なプログラムを用意しています。またイ

ンターンシップでの経験をその後の学習やキャリア開発のために役立てられるよう、さまざまなフォローもおこなっています。なかにはこれらのプログラムを有効活用し、国内外で複数回のインターンシップに参加する学生も少なくありません。これからもキャリア・オフィスでは、より多くの企業との連携を深め、インターンシップの質と量の充実をはかっていきます。

(海外インターンシップについてはP35参照)

#### 協定型インターンシップの流れ



### バックアップ体制

#### APUキャリア・オフィス

**プログラムの企画・運営から個別相談まで、キャリア開発の中核として活動を展開。**

APUにおけるキャリア開発プログラムを企画・運営し、学生のキャリア形成全般を支援・指導するのが「キャリア・オフィス」です。就職先企業・団体との交渉、情報交換、また学生への情報提供も担っています。進路・就職に関する個別の相談にも対応しています。

#### 立命館 アカデメイア@大阪

**大阪の中心地において進路・就職活動を支援。**

大阪の中心地において進路・就職活動を支援しています。就職関連資料を豊富に揃え、インターネット対応のパソコンも用意。また125名収容のセミナー室では各種セミナー・講座も開講しています。

#### 立命館 東京オフィス

**首都圏における進路・就職活動の拠点として。**

JR東京駅八重洲口近くにあり、アドバイザー・コミッティ(P57-58参照)など、各企業・団体との結びつきを強めながら首都圏における進路・就職活動のサポートをおこなっています。

#### 立命館大学キャリアセンター (衣笠/びわこ・くさつキャンパス)

**膨大な進路・就職データを有する立命館大学のセンターも利用可能。**

立命館大学の2つのセンターも利用可能です。「進路・就職ライブラリー」には企業関連の資料が配置され、自由に閲覧できる約8000社の企業ファイルと2万社を超えるデータが常時備えられています。他にもインターネットで企業検索をおこなえるパソコンや、就職関連ビデオを視聴できるブースなど、充実した設備を有しています。

#### 海外の事務所

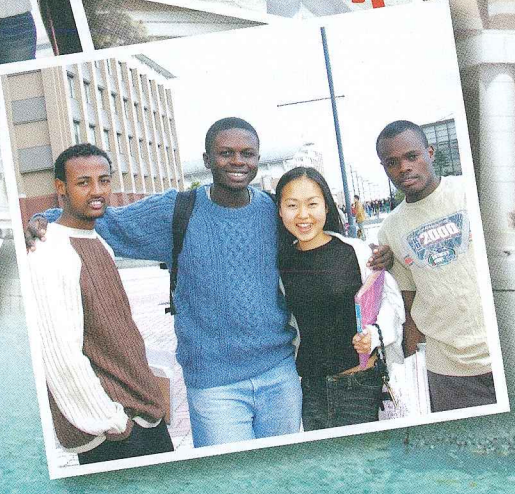
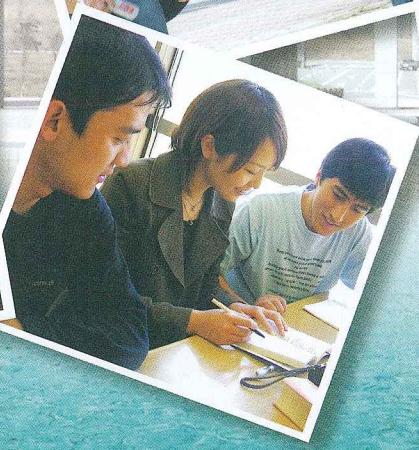
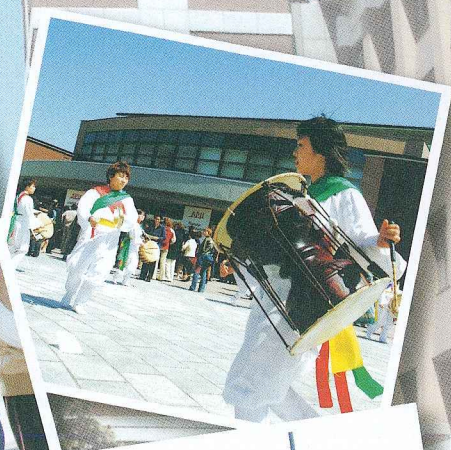
- ・The UBC-Ritsumeikan Academic Exchange Program at University of British Columbia (Canada)
- ・Ritsumeikan Liaison Office located in Shanghai Jiao Tong University (China)
- ・APU Office of Indonesia (Indonesia)
- ・APU Office of Korea (Korea)
- ・APU Office of Taiwan (Taiwan)
- ・APU Office of Thailand (Thailand)



# APU Campus Life

世界が交わるAPUキャンパス。  
ここでしか体験できない環境がある。

エスニックメニューが揃うカフェテリアや、  
国際学生と国内学生がともに暮らすAPハウスなど。  
英語と日本語を中心とした多種多様な言語が飛び交うキャンパスでは、  
世界75カ国・地域から集まった学生たちが学び、活動し、生活しています。  
日本にいながらにして異文化に触れ、世界を体感する。  
そのなかで、世界へとばたたく力が自然と備わっていく、  
APUならではのキャンパスライフです。



## イベントスケジュール

- 4 ●春セメスター、第1クォーター開始  
●入学式（春期入学）  
●オリエンテーション
- 5 ●学園創立記念日  
●言語ウィーク  
●スピーチコンテスト
- 6 ●春セメスター、第1クォーター試験期間  
●春セメスター、第2クォーター開始
- 7 ●春セメスター、第2クォーター試験期間  
●春セメスター終了
- 8 ●夏セッション開講
- 9 ●卒業式  
●入学式（秋期入学）  
●オリエンテーション
- 10 ●秋セメスター、第1クォーター開始  
●学園祭
- 11 ●秋セメスター、第1クォーター試験期間  
●スピーチコンテスト
- 12 ●秋セメスター、第2クォーター開始
- 1 ●秋セメスター、第2クォーター試験期間  
●秋セメスター終了
- 2 ●冬セッション開講
- 3 ●卒業式



ウェルカムパーティー

4月と9月にある春期・秋期入学式のあとにおこなわれるウェルカムパーティーでは、各国の民族舞踊など多彩なパフォーマンスで新入生の入学を歓迎します。



言語ウィーク

アジア太平洋地域の言語に親しむことを目的に企画されたのが「言語ウィーク」。5月から6月にかけて、海外映画の上映会など多彩なイベントがおこなわれます。



スピーチコンテスト

言語ウィークの一環として開催されるコンテスト。おもに中国語やマレー語・インドネシア語などのアジア太平洋地域で使われる6言語でスピーチを競います。



成績優秀者表彰式

APUでは、専門学習や自主活動、国際交流などに関する取り組みで優れた成績や成果を修めた学生を表彰し、奨励する制度を設けています。



学園祭

学園祭には、APUへの入学を希望する受験生や市民などが多数来場。各国料理の模擬店やパフォーマンス、市民によるフリーマーケットなどで賑わいます。



卒業式

3月の春期卒業式は、別府のビーコンプラザ、9月の秋期卒業式はAPUのミレニアムホールでおこなわれます。卒業生たちは赤いガウンや民族衣装を着て登場し、皆で卒業を祝います。



# Cafeteria

学生たちの「食」を支える、  
国際色豊かなメニューの数々。

さまざまな文化的背景をもつ  
学生の「食」を満たすため、  
APUのカフェテリアには工夫がたくさん。  
毎日約2,200食を提供し、  
メニューの数は、のべ200種類。  
国際学生の協力もあり、試行錯誤を繰り返しながら、  
現在のメニューが完成しました。  
キャンパスの外からも、別府湾を臨むカフェテリアの  
食事や雰囲気を楽しみに、多くの人が訪れます。



**チキンのレッドカレー**  
ピリ辛。香辛料たっぷりの本格派。  
ココナッツミルク入り。



**パッタイ**  
米粉の麺を使った焼そば。  
ナムプラーで味つけ。



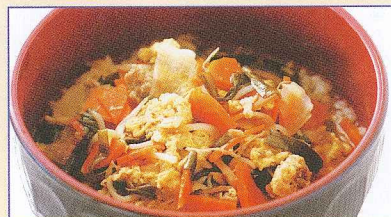
**蒸し鶏ごはん**  
鶏油を入れ炊き込んだご飯に蒸し鶏をのせる。  
好みて豆板醤を。



主となる食材に、  
何が入っているかが  
一目でわかるマーク。



副菜にも  
エスニック料理は  
欠かせません。



**カルビクッパ**  
牛肉の入ったスープご飯。

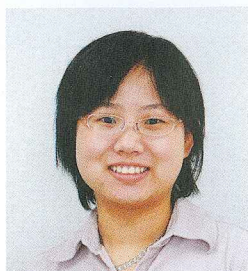
## 言語ウィークのメニュー例 (2004年度)

5～6月におこなわれる言語ウィークでは、通常のメニューに加え、  
それぞれの言語ウィークに対応した国・地域のメニューが追加されます。



タイ	ソムタム チキンレッドカレー トムヤムクン パッタイ 蒸し鶏ごはん 豚の炒め物	インドネシア	ナシゴレン ミーゴレン バナナフライ ガドガド ソトバンド ブンブバリ	中国	飲茶 (春巻、蒸し餃子) 海老シウマイ)
スペイン	ガスパチョ スペイン風オムレツ にんにくのスープ 鯨のエスカベッシュ 生ハムサラダ	中国	かに玉 チキン甘酢 ワンタンスープ 八宝菜 レタス炒飯	ベトナム	フォーガー 厚揚げのトマト 豚肉とタマゴ煮 トマトと玉子のスープ ブンボー 蒸し春巻き パンコオー 生春巻き

## 中国語ウィーク



**SUN Liliさん**

アジア太平洋マネジメント学部3回生  
中国出身

## 「中華文明の光」を感じる、大成功の5日間。

私は中国語ウィークのリーダーとして、「中華文明の光」というテーマを掲げ、  
中国だけでなく香港や台湾、マレーシア、シンガポールなどの国・地域からの中国語を話す、中国の文化を共有する国際学生と、漢字文化圏のなかの日本や韓国、  
ベトナムの人たちと一緒にこのイベントを支えました。月曜の初日から、ミニ中国語教室や「小香港、大発見」、「台湾楽市」、カフェテリアでの餃子教室、「華夏の夜～The Chinese Night」などの活動をおこない、最終日の金曜夜のパフォーマンスの最後には、聴衆と出演者が一緒になり、立ち上がってみんなで手を振り歌った場面が非常に感動的でした。



華夏の夜～  
The Chinese Nightの  
舞台風景。



# Express Yourself!

まず、自分が動くこと。  
APUマインドから始まる多彩な活動。

社会に向けて、世界に向けて、  
自分がやりたいと思ったことに挑戦する学生を  
APUは全力で応援します。  
さまざまなフィールドを開拓してきた先輩たちにつづき、  
自ら考え、そして行動を起こす。  
思いついたら、まずは、自分が動くことから始めよう。

国・地域、学生、企業の枠を超えた  
「CROSSOVERSEA2005」が  
スマトラ沖地震・津波募金のイベントを実現。  
2005年1月28日。2005個の紙風船が空を舞った日。

APUで僕が影響を受けたのは日本人学生の活動でした。ゼロから始めて、俺たちのAPUを作ってやろうという気概とパワーを強く感じましたね。特に魅かれたのは「Priceless」というサークル。これはいろんな団体やサークル同士が協力し合いながら、HP作成や、企画などの仕事も請け負うサークルを超えた団体です。

スマトラ沖地震で津波が起きたのは、その団体の中心メンバーが卒業する直前のことでした。APUにも被災国から来ている学生も400名以上いるし、身近にいる彼らの故郷に起こったこの大災害がとても他人事だとは思えませんでした。こんな時こそみんなで協力しあうべきだと立ち上がりました。そして国・地域、学生、サークル、企業という枠を超えた「CROSSOVERSEA2005」という団体をつくり、その象徴として2005年1月28日に2005個の紙風船を空に飛ばすというチャリティーイベントをおこなったんです。僕はHPやチラシなどのデザイン関係を担当しましたが、ボーダーを超えた個人個人が協力しあうと、これだけ大きなことが実現できるんだと実感しました。企業に協賛を募り、他の大学や学校にも呼びかけ、イベントは大成功。集まった募金は120万円。被災国の学生たちの嬉しそうな顔を見たときはさすがに嬉しかったですね。こんな貴重な経験をすると、どこに行っても頑張れる気がします。



山田 裕貴さん

アジア太平洋マネジメント学部3年生  
福岡県立城南高校出身





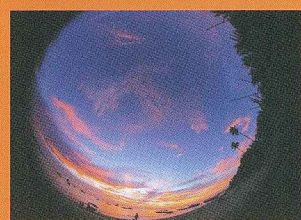
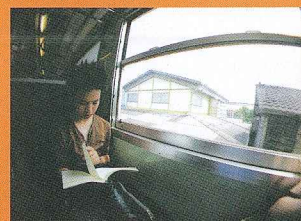
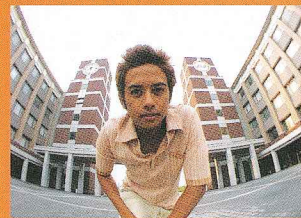
OCAMPO Fredric Andrews  
Palacioさん

アジア太平洋マネジメント学部2年生  
フィリピン出身

## 写真を撮り続けたい。自分のことをわかるために、 人の幸せな表情をみんなに見せるために。

僕の人生の目標は人生を楽しみながら、人の役に立つこと。そのためには学び、いろんな経験をしないとダメです。APUに入ったのも、考え方、センスなど、日本のソフトパワーを吸収したいから。そして、フィリピンと日本だけでなく、いろんな国のアートや文化や考え方を勉強して、その橋わたしをしたいんです。

APUは世界の国々が集まる絶好の場。僕が写真を撮るのは、いろんな国の人が幸せそうな顔をしている瞬間を止めて、みんなに見せたいから。写真展もやりました。他にもバンドをやったり、インドネシア・スマトラ沖地震のチャリティーイベント「愛の波」にも参加。いろんな活動をしながらたくさんの人と出たい。そして、卒業するまでの夢はAPUのミュージカルを作ること。APUは人材の宝庫。勉強だけではなく歌や踊りなど才能のある人がたくさんいる。これでミュージカルをやらない手はないですね。きっと素晴らしいミュージカルができると思います。



※Kaikoという名前で活動、作品を発表しています。表紙の写真も彼の作品です。

## 中学生からやりたかった国際協力。今、愛・地球博でメッセージを発信。



中学生のときからずっと国際協力に関心がありました。なかでも地雷問題には特に興味をもち、本を読んだり資料を集めたりして勉強しました。

APUに入ってすぐ、3年前に先輩たちが創設した活動、「サンビッコプロジェクト」に参加。この活動のテーマはアジア太平洋地域における児童買春撲滅。地雷問題と同じカンボジアにも関係する問題なので身近に感じました。そのなかでの私の担当は企画。2005年8月19日愛・地球博の市民パビリオンを一日貸切にさせてもらいメッセージを発信します。1部はドキュメンタリー、2部はミュージカル、そしてAPUを舞台にしたメッセージの3部構成。

国際協力というのは、一人だけでは何もできないけれど、その一人が立ち上がらなくてはいけないと思います。同じようなことを考えている学生がAPUにたくさんいることは、活動していく上で励みになりますね。



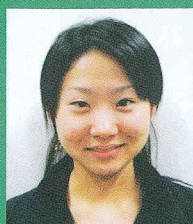
下室 宏美さん

アジア太平洋学部2年生  
大阪府・大阪市立南高校出身

## 私たちも愛・地球博へ参加します。

### ■ 世界の歴史教科書博覧会

教科書を通じて知る「違い」。  
国際学生と触れ合い理解を深める。



仁井田 直子さん

アジア太平洋学部3年生  
広島県・  
広島工業大学附属広島高校出身



米田 梢さん

アジア太平洋学部2年生  
東京都立南多摩高校出身

愛・地球博の市民パビリオンに「世界の歴史教科書博覧会」の展覧が決まり、実行委員会のスタッフとして準備を進めています。さまざまな国の歴史教科書を集めて展示するこの博覧会は、それぞれの国の「違い」に触れ、歴史を多方面から捉えてみようという試み。当たり前だと思っていたことが他の国では違うと気づく、貴重な博覧会になると確信しています。

国際学生の協力なしには教科書の収集や翻訳を進めることができなかったこの企画は、国際学生と触れ合い、私たち自身も教科書を通じて異文化理解ができたというところに参加した意義を感じています。

### ■ 通訳

語学が活かせるアテンダントに。  
緊張感のある業務に毎日が充実。



堀尾 綾さん

アジア太平洋学部4年生  
愛知県・  
名古屋市立名東高校出身

愛・地球博では国賓の方々に通訳や案内をする接遇アテンダントとして参加しています。毎日が本番の舞台である万博において、私の仕事は刻々と更新される情報を的確に理解・判断し、かつ2、3歩先を読んだ行動が求められます。失敗が許されない業務なのでとても緊張しますが、それをいかに自然体で遂行できるかがこの仕事の面白さだと感じています。

また大人数の前でプレゼンテーションをしたり、英語での業務連絡に抵抗を感じないのも、APUで学んでいるからこそだと、私は実感しています。



# Club Activities

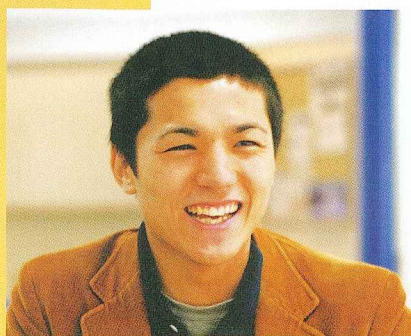
世界に輪を広げたい。より自分を磨きたい。  
そんな学生たちが集うサークル。

キャンパスライフを豊かにするサークル活動は、  
自分を磨く場のひとつ。  
APUの先輩たちが創った100近くのサークルは、  
スポーツ、民族舞踊や世界の諸問題を扱うものまでさまざま。  
国や地域を越えた交流が繰り広げられています。



いろんな国や地域の人たちと  
一緒にひとつのことに打ち込  
むって、いいですね！

和太鼓「楽」  
LO Wei Chenさん  
アジア太平洋マネジメント学部2回生  
台湾出身



「和太鼓「楽」」リーダー  
浅利 公然さん

アジア太平洋学部3回生  
大分県・大分高校出身

天空に響く「楽」の音を、  
地元で市民に聞いてもらいたい。

僕は大分県佐伯市の出身。子供の頃から明神太鼓を地元の祭りでよく見てきたこともあって、いつか和太鼓に挑戦したいと思っていました。だからAPUで「楽」の存在を知ったとき、すぐに入部を決意。APUのロケーションで叩く太鼓は最高の気分です。高い技術を持つ先輩たちに続けと練習を重ねてきました。普段は週2回、公演前は毎日。太鼓は高価なので日頃はタイヤを使っての練習です。

現在メンバーは台湾、インドネシア、モンゴルなど国際学生を含む30名。リーダーとして部員を引っ張っていくのは大変ですが、そのぶん人を見る力、精神的な強さが身についてきました。勉強との両立も大変だけど、太鼓をやっているから頑張れる気がします。第2回公演はAPUから別府のまちへ飛び出して、たくさんの市民の方々にも見てもらいたいです。



## 女子陸上競技部

全国大学女子駅伝で優勝をめざします!



部活動と勉強の両立は決して簡単なことではありませんが、私たちはこの両立をこなしています。国・地域や言葉の壁を超えてみんなで心を一つにし、優秀な成績を残しています。

2004年度

第12回 全日本大学女子駅伝競走大会九州地区予選会 優勝

第22回 全日本大学女子駅伝競走大会出場 19位(4回連続出場)

第4回 九州学生女子駅伝競走大会 優勝



## APU空手道部



たくさんの国際学生とともに、  
Let's practice karate!!

空手部にはたくさんの国際学生が所属しています。そのため会話も、日本語と英語の両方を使います。空手にも英語にも興味がある人にはぴったりのクラブです。

## LA Banda



フィールドホッケーのサークルです。  
大学生は「自分が主体!」。

世界的にポピュラーなスポーツを通して、国内学生・国際学生問わずコミュニケーションをはかり、チームの絆を深めます。自ら考え、自ら行動を起こす、そんな力が得られます。

## 太極拳サークル



中国の太極拳経験学生がレクチャー。  
中国の歴史を体感。

太極拳経験者を中心とした中国の学生による指導・研究をしています。もちろん初心者には基礎から教え、経験者にはさらに高いレベルをめざしてもらいます。

## APUサムルノリサークル「シンモン」



韓国の伝統民族楽器を演奏。  
～私たちだけの文化を作ろう!～

週に2回練習をしています。韓国の伝統民族楽器を演奏することにより、日韓の相互理解の場となっています。APU以外の各地での活動も盛んです。

## Education Network



国際交流コーディネイトと教育。  
この2本柱で、多彩な活動をしています。

幼稚園児、中・高校生、地域の方々を対象としたワークショップをおこなっています。昨年度は、インドネシア学生が中心となり、スマトラ沖地震の話の子供たちに伝えに行きました。

## Ones' 1



「持続可能な社会」をめざし活動中。  
あなたは今何をする事ができますか?

環境、貿易、地域、教育、国際相互理解の分野から、フェアトレードと環境を中心に活動しています。プロジェクトごとの活動ですが、お互い相乗効果を得ることができます。

## 天下



日中文化交流のサークル。  
中国の大学とのつながりも。

中国文化の紹介や言語学習に加え、イベントを通して日中両国の学生が触れ合う機会を多く設けています。中国語ウィーク(P41/言語ウィーク参照)は天下が担当しています。

## 上記以外のサークル一覧 (2005年度春 semester 学生登録団体)

### ▼スポーツ

APU Dolphins(Men's)  
APU Dolphins(Girls')

えあーふおーすわん

男子バレーボール部

女子バレーボール部

ストリート ホッケーAPUファルコンズ

APUTTC

APUバドミントン部

剣道部

立命館アジア太平洋大学チアリーダー部 LILIES

ダブルダッチサークル

イントラス FC

フットサルサークル DELFINO

ラグビー部

APU女子ラクロスチーム マリキータ

男子ラクロス部

硬式野球部

YOUTH FULL

APUSスポーツカイトクラブ

APUテニス部

ソフトテニス・サークル

柔道

合気道部

少林寺拳法部

キックボクシングサークル

APU TOP TEAM

弓道部

水泳部

山歩会

チムチムニー

テコンドークラブ

ミニバレーボールサークル TEAM DB

羽人

APUサッカーサークル"fire"

Hot Springs

パラグライダー部

APU ゴルフサークル

ツーリングサークル

Krews

No Reason

Play with(^.^)

APU体育連盟

APUセバタクロー

Global Tennis Federation(APU)

### ▼文化芸術

APUバトンサークル

Soul Sound Style

A. A. Dance Company

APU神楽社

舞"楽"

荒馬 緒

APUエイサー団ちゃんぶる～

DJ Workshop

Life Music

Pianokko♪

音楽屋さん

立命館アジア太平洋大学吹奏楽部

ゴスペルサークルーソウラー

邦楽部

華道部 はなすき

書道サークル

プロデューサーズ～映画研究会～

立命館アジア太平洋大学放送局

よっしゃ虎威

APU茶道部

美術部

two+five

いろは

I. G. O.

### ▼学術研究

Chispa Latina

にほんごねっと

AIR

模擬国連

国際協力研究会

こここりあ

TTE(観光学研究会)

伊友会

Sun Piccolo Project

LSB 研究会

APSAID

韓国語学堂ノリバン

APUe!-Lounge

(立命館APU)貿易サークルForte

EMA

ダブルイーネットワーク

### ▼親睦・ボランティア

PRENGO

泉人会

APU松下村塾

IGファーム

### 学生団体の支援について

学生からの申請にもとづき、合宿・大会などの交通・宿泊費、イベント開催に補助をおこないます。また、立命館大学学生交流プログラム課外活動交流奨励金により、団体交流が奨励されています。



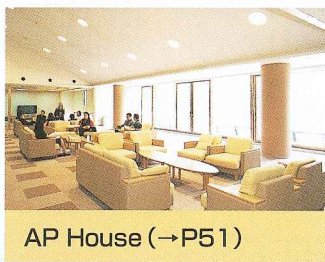
# APU Campus Map

開放感あふれる「天空のキャンパス」ですぞす、  
特別な4年間。

空が近く、海を一望できる高台に位置するAPUは、まさに「天空のキャンパス」。

世界中からの学生を迎え入れるにふさわしい最新設備と、

快適な環境を備えたキャンパスで、APUライフを充実させてください。



AP House (→P51)

世界各国・地域の学生が  
共同生活を営むレジデンス。

数多くの国際学生と国内学生が  
共同生活をおこなう学生寮。キッチン  
や和室、自由にインターネットが  
できるパソコンルームなどがあり、  
オートロックなのでセキュリティも  
万全です。



ウェーブ

眼下に広がる別府を一望。  
APU一番の人気スポット。

ウェーブからは、空、別府湾、そして別府の町並  
みが一望できます。APU一番の人気スポットです。

本格的なアリーナを完備。  
スポーツジムも館内に。

国際的な試合にも対応できる本  
格的なバスケットボールのアリー  
ナや、ミーティングルームなどを完  
備。また多彩なマシンが用意された  
トレーニングジムも館内に設けて  
います。



G棟  
体育館

G



トレーニングジム

多彩なマシンがそろう  
本格的なスポーツジム。

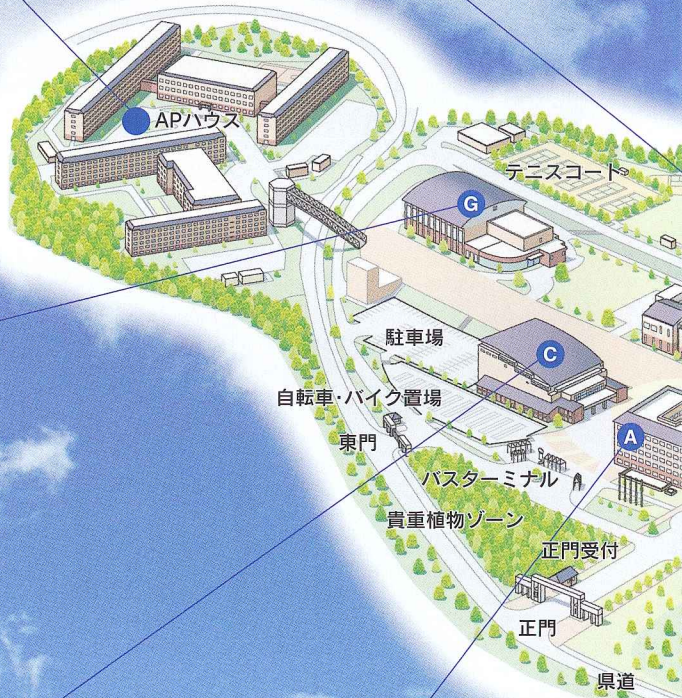
自由に傾斜が変えられるランニン  
グマシンをはじめ、目的別に10種類  
以上のマシンが揃うスポーツジム。  
誰でも自由に利用でき、先生も学生  
もいっしょに汗を流します。



バスケットコート

気軽にスポーツが楽しめる。  
ゲームを通じて国際交流。

体育館の裏にはバスケットボール  
のコートがあります。暖かい季節の  
放課後にはさまざまな国・地域の学  
生がチームを組み、ゲームを楽しむ  
声が響くまで響いています。



C棟  
ミレニアムホール

C

国際的なサミットや  
APU入学式のステージ。

約730名を収容できるイベントホール。  
国際的な会議やイベント、APUの入学式な  
どに利用され、VTRやCATVなどの映像を  
映し出せる巨大スクリーンや同時通訳ブ  
ースを備え、国際的な会議にも利用されます。



A棟  
本部長

A

APUライフを支援する  
さまざまな機能が集結。

学校生活に関するスチューデントサポート・  
センターや、就職を支援するキャリア・オフィス、  
健康相談などに応じるヘルスクリニックなどが  
集まる棟。入試関連の業務をおこなうアドミッシ  
ョンズ・オフィスもあります。





カフェテリア (→P42)

低価格で世界の料理を。  
新しいメニューも次々と。

リーズナブルでおいしい料理がそろったカフェテリア。新メニューも定期的に登場し、世界各国・地域のエスニック料理も味わえます。手作りパンも人気メニューのひとつです。



パシフィックカフェ

できたてのハンバーガーや  
フレッシュなドリンクも。

サンドイッチやポテトフライ、ドーナツなどのファーストフードメニューが充実。ドリンクメニューも豊富で、低価格で本格的なドリップコーヒーやフルーツジュースが味わえます。



生協ショップ

生活必需品の多くがそろった  
キャンパス内の便利なお店。

パンやお弁当などの食品や香辛料をはじめ、ノートやペンなどの文具、授業で使用する書籍や学術誌など、多彩な商品を取り扱うショップ。各種チケットの手配もおこないます。



E棟  
スチューデントユニオン

多くの学生が利用する  
ショップやカフェテリアが集合。

快適なAPUライフを支える多彩な機能が集結している棟。カフェテリアスタイルの食堂や生協ショップをはじめ、音楽系サークルなどが利用する練習室も設けています。



スチューデントホール

音響・照明設備を備えた  
先進のイベントホール。

学生が主体となっておこなう国際的なシンポジウムや映画の上映、また音楽サークルのライブなどに利用される、学生のためのイベントホール。最先端の音響設備が備えられています。



F棟  
教室棟

講義の多くが展開される  
教育・研究の中心拠点。

講義がおこなわれる大小の教室や、立命館大学などの授業がテレビを通して受けられる「遠隔講義対応教室」を設置。学生が各国・地域の言語で会話を楽しめる「言語ラウンジ」もあります。



言語ラウンジ

世界の言葉で会話を楽しみ  
異文化理解力を育む空間。

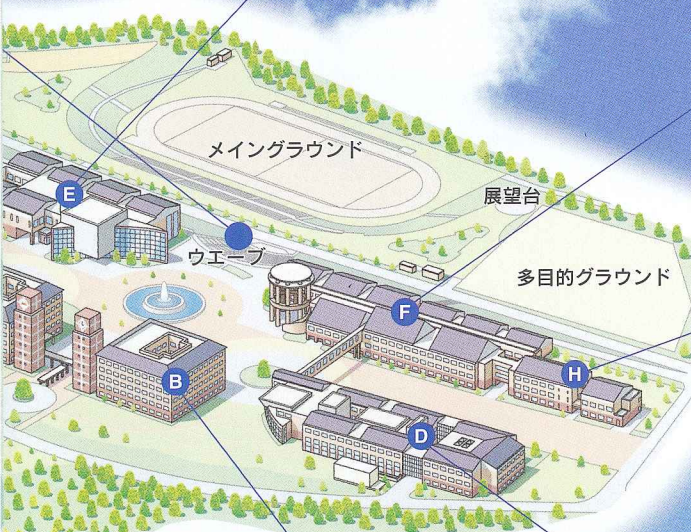
社会や文化、言語が異なる学生たちが親睦を深めるための部屋。日本語、英語、アジア太平洋言語の各ブースがあり、会話のレッスンや異文化理解の勉強会などがおこなわれています。



茶室「和心庵」

「わび」「さび」の本質を  
身をもって学べる部屋。

茶道裏千家第15代家元の千玄室氏から寄贈された茶室です。「アジア太平洋地域理解」の授業の一環として、日本の伝統文化のひとつである茶道の授業などがおこなわれます。



メイングラウンド

展望台

多目的グラウンド

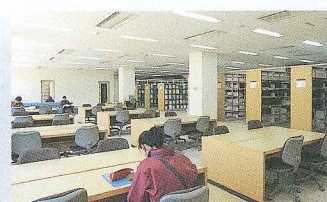
ウェーブ



H棟  
大学院棟

最先端の研究が行われる  
大学院のホームグラウンド。

2003年4月に開設した「APU大学院」の研究拠点となる建物です。棟内にはハイビジョンテレビを設置した大教室や、教員が利用する個人研究室などが設置されています。



D棟  
メディアセンター

多彩なIT機器が備わる  
先端科学のスクエア。

最先端のIT関連機器や数多くの書籍を所蔵するライブラリーなど、あらゆる情報を収集・発信できる拠点。コンピュータを活用し、言語運用能力を高くCAI教室もあります。



B棟  
研究棟

最先端の研究成果が  
次々と誕生するラボ。

教学担当のアカデミック・オフィスや研究担当のリサーチオフィス、教員の研究室、アジア太平洋研究センター、ゼミ・プロジェクト室といった教育・研究施設が集まっています。



ゼミ・プロジェクト室

最良の解決策を求めて  
アクティブな議論を展開。

研究棟内に設置された学習スペース。少人数制授業やゼミナールなどがおこなわれ、学生たちがさまざまなテーマで日々活発に議論を交わしています。



マルチメディアルーム

IT機器が自由に利用可能。  
情報SAも常に待機。

最先端の情報端末があり、パソコンでのレポート作成やWebによる情報収集が可能。情報SA（スチューデント・アシスタント）が常駐し、ITに関する相談に応じられます。



ライブラリー

世界の文献が閲覧可能。  
貴重な研究資料の宝庫。

アジア太平洋地域の書籍や新聞、雑誌を中心に数多く取り揃え、その約半数が外国書籍です。また立命館大学の図書館の230万冊以上の蔵書から、必要な書籍を取り寄せて利用することもできます。









## 瀬戸川 淳実さん

アジア太平洋学部1回生  
滋賀県立長浜北高校出身

今、APハウスで暮らしています。APUに入ったらスキルを伸ばそうと情報SA(Student Assistant)にトライ。SAは面接で選ばれます。PCの授業でわからない学生に教える仕事なのですが、私自身も学ぶことが多い仕事です。APUの生活は何もかもが新鮮。情報SAをしながら、いろんな人とも友達になれました。日常生活の中で国際感覚が身につくのもAPUの魅力ですね。

10:00

10:35 英語Iの授業。少人数なのでクラスの人々と仲良しです。また、私のクラスには韓国、モンゴル、ベトナム、台湾と、国際学生も多く、たくさんの国際学生と友達になれました。

11:00

12:00

15:30 パシフィックカフェで友達とおしゃべりタイム。このカフェのフルーツジュースはとても新鮮。本格的なコーヒーも人気です。



14:00

15:00

16:00

16:05 「アジア太平洋と人権」の授業。この授業は、ちょっと難しいですが、興味深い内容なのでやりがいがあります。



17:00

12:30 カフェテリアで食事。授業が終わった後、友達とじっくり話し込んでしまうことも。また、ここでプレゼンテーションの準備をすることもあります。APUらしく世界各国・地域の料理を楽しむことができるカフェテリアは、私の気に入り！

14:30 学内にあるマルチメディアルームでSAとしてアルバイト。時々すごく難しい質問をされることもありますが、仲間のSAの人たちに助けてもらって頑張っています。

18:00

18:00 生協ショップで買い物。APハウスに住んでいるため、買い物はもっぱらショップで。ショップは日用雑貨も売っていてとても便利。また、ここはいつもAPU学生でいっぱいなので、ちょっと立ち寄ったつもりが、じっくり友達と話し込んでしまうことも。



19:00

20:00

20:00 晩ごはんの準備。寮の同じフロアの人々とは仲が良く、フロアパーティも時々あります。寮には国際学生がたくさんいるので、いろいろな国の料理を作って食べさせてくれます。



21:00

22:00

21:00 韓国語の勉強。韓国語の授業はまだ履修できないけど、今、韓国人の友達から教えてもらっています。ネイティブから聞く韓国語はさすがにわかりやすく助かります。

23:00

24:00

23:00 英語の授業の課題に取り掛かる。英語の授業は毎週レポートの宿題がでます。この授業で英語でレポートを書く力が養えます。



## NOSSIROV Behzod Avazbekovichさん

アジア太平洋マネジメント学部2回生  
ウズベキスタン出身

別府市内に日本人の友達と二人で住んでいます。別府の温泉も食べ物も大好き。料理はAPUに来てから覚えただけ、とても楽しいですね。APハウスにいた頃から、友達と自国の料理自慢をしていたくらい。サークルはフェアトレードに、クラブはバレーボール部に入っています。父が仕事で日本に来たとき、別府に立ち寄りました。私はもう父に別府を案内できるほど、いろんなおいしいお店を覚ええました。

7:00

7:20 1限目があるときは、7時20分に起きる。2限目からの場合は9時。シャワーを浴びて、ルームメイトのリョウと一緒に日本食が洋食のきちんとした朝食をとる。僕たちが住んでいる場所はとても静かで便利だ。二人とも個室を持ち、ゲストルームと大きなキッチンがある。

8:00

9:00

10:00

10:35 ふだんは一日に3、4つの講義がある。どの授業も、いろんな文化と言語をもつ世界中からの仲間があふれていて面白い。2回生から僕は日本語と英語の両方で授業を取り始めた。このユニークな受講システムは、APUを他の大学とはまったく異なったものにしていてと思う。



13:00

14:00

15:00

8:30 出発。自転車とバスで大学へ向かう。自転車は、別府の町ではとても便利な交通手段。

14:30 講義の合間あるいは時間のあるときは、SAあるいはTAとして情報処理のクラスでアルバイトをしている。この経験はとても有意義で勉強にもなる。いろんな学生と親しく対話ができ、教授方法も学べるからだ。



16:00

17:00

18:00

19:00

20:00

21:00

22:00

23:00

17:00 放課後はアクティビティに参加。最近では「No Reason」というスポーツサークルやバレーボール部にも所属。他にも「Ones' 1」という団体の一部である「Fair Trade」に参加。これはAPUでもっとも活動が盛んな団体の一つ。



21:00 帰宅は遅い。毎日9時くらいになる。夕食はルームメイトのリョウと一緒に、別府に住む友達と一緒に。時々ディナーに友達を招待する。僕は料理が大好きなのだ。友達と一緒に料理し、多国籍の料理がテーブルに並ぶのも楽しい。



23:00 課題をする。深夜までかかって課題に取り組むこともある。授業の内容や課題について、リョウと意見交換。彼との会話はとても勉強になる。日本語について、授業について、友人関係について、彼のアドバイスは僕を助けてくれる。



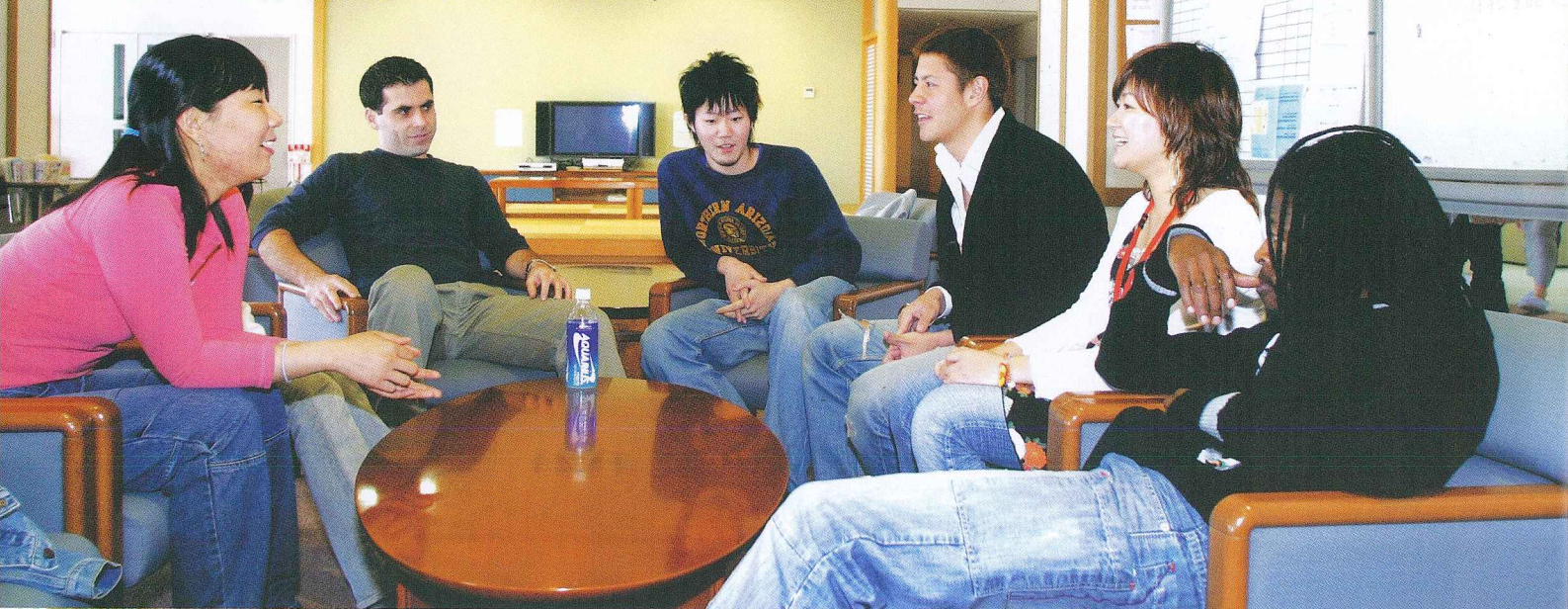
# The World is Your Neighbor!

ふだんの生活が、そのまま"世界を学ぶこと"につながる環境

## AP HOUSE

キャンパスから徒歩3分、  
世界中の仲間が暮らすAP House。

国内学生と国際学生がともに生活をする学生専用居住施設。  
2棟、約900の居室(個室)があり、充実した設備が整っています。  
学生が催すパーティーやイベントも盛りだくさん!  
毎日生きた国際交流が展開されています。



芥川 理恵子さん  
アジア太平洋学部2回生  
東京都立国際高校出身

### ●RA(レジデント・アシスタント)

RAとは、AP Houseで生活する国際学生たちの暮らしから学習面まで、日常生活全般をサポートする学生スタッフ。AP Houseで生活をともにし、奨学金として月額1万円が給付されます。

パーティーイベントの企画など、  
RAを楽しんでいます。

私は国際学生と交流する機会が多いAPハウスにRA(レジデント・アシスタント)として住んでいます。RAはハウスの使い方はもちろん、日本の生活の習慣を教えたり相談ごとにも乗る責任のある仕事。時には交流を深めるためにイベントを企画することもあります。部屋には必要最小限のものがコンパクトに整っているので使いやすく便利。共同キッチンやラウンジで国際学生とおしゃべりするのが楽しみです。私はアメリカに住んでいたこともありますが、APUの方が国際的かもしれません。



## AP HOUSE



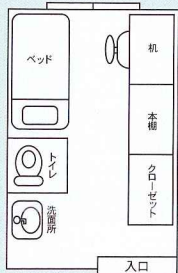
AP Houseでは、学生が暮らす約6畳の居室(個室)すべてに、机、ベッド、エアコン、冷蔵庫など、日常生活に必要な設備が整っています。また各階の共同キッチンでは学生が自由に料理をすることができ、AP Houseで暮らす国際学生の母国の料理を囲んでパーティーが開かれることも。棟内にはゼミやサークルの合宿で利用できるセミナーハウスも設置され、各階にあるシャワーユニットのほかには浴室も設けられています。

※国際学生優先のため、国内学生の入居には制限があります。  
※3月に実施する入試の合格者は応募することができません。

■家賃 月額28,000円(入居期間は原則11ヶ月)

### 居室の主な設備

- ベッド
- 靴箱
- 冷蔵庫
- 本棚
- クローゼット
- 机、椅子
- 照明設備
- 冷暖房器具
- トイレ
- 洗面台(鏡つき)
- 電話(プリペイド式)
- VDSL(高速インターネット)



### ●主な設備

各階にプライベートシャワーユニット、共同キッチン、洗濯機・乾燥機、コミュニケーションラウンジを完備。会議室や自動販売機も館内に備えています。

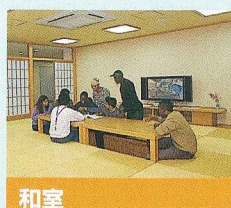
### ●セキュリティ

メインエントランス内ドアはオートロックを完備。また管理人が24時間体制で常駐するなど、セキュリティには万全を期しています。



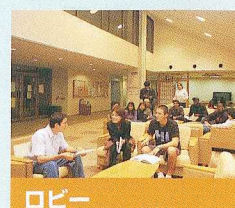
インターネットルーム

24時間無料で自由に使用できるインターネットルーム。資料を検索したり、eメールでコミュニケーションを楽しんだり、さまざまな活用ができます。



和室

ロビーの隣にテレビとビデオのある和室が設けられています。くつろぎや団らんの場としてはもちろん、グループ学習やゼミ発表の準備にも利用されています。



ロビー

1階の広々としたロビーには、ゆったりと座れるソファを配置。学生同士が交流を深めるコミュニケーションスペースとして、いつも活気に満ちています。



# Housing Options

ルームシェアでかしこくやりくり。  
アットホームな暮らしが気に入っています。

一人暮らしで自由な生活、友達と楽しくルームシェア、  
APUではそんな学生もしっかりサポートしています。  
日本のなかでも留学生の比率が圧倒的に高い別府周辺では、  
キャンパスを離れても多彩な国際交流がおこなわれています。



NDUNGI Sophia Wanjiruさん  
アジア太平洋学部3回生 ケニア出身

Lisa Rosmala Dewiさん  
アジア太平洋学部4回生 インドネシア出身

ケニア出身のソフィアさんが暮らすのは別府市の亀川駅にほど近い3DKのアパート。ルームメイトはインドネシア出身のリサさん。リサさんがAPUの掲示板でルームメイトを募集していたのを見て知り合ったのだとか。「少し不安はあったけれど、リサと会ってすぐに意気投合。いまでは何でも相談する大切な友だちです」と笑うソフィアさん。アパートの家賃は5万3千円。食費も近くのディスカウントストアで1週間分の食料をまとめて買い、ふたりでシェアしているのだそう。「たまに私の国の料理をごちそうしたりして。私はキッチンで、リサがダイニングのソファでくつろいでおしゃべりする時間が楽しいんです」。

国際学生が多く暮らす亀川では大家さんの理解も深く、快適な生活環境が充実。勉強はもちろん、アルバイトに旅行にと日本での生活を楽しんでいるふたりです。

## ■関連会社と提携し、アパート関連情報を提供。 APU学生専用のマンションも用意。

下宿を希望する学生のために、APUでは学校法人立命館の100%出資会社「(株)クレオテック」の協力を得て、学生向け優良物件の紹介をおこなっています。別府市内の学生マンションは広めのワンルームでも3~4万円台と家賃も格安。またAPUの学生専用マンションも多数用意しています。立地条件も良好で、バス・トイレセパレート物件、インターネット常時接続物件、玄関オートロックシステム物件など多彩な設備を完備。さらに24時間対応の専用ダイヤルで万が一のトラブルにも対処します。

## ■APUクレオハイツ

APUクレオハイツは、(株)クレオテックにより設立された学生寮です。国内学生・国際学生がともに生活を送っています。また、管理人も駐在し、家賃は32,000円(共益費等別途)、APUへはバスで15分という好立地。共同の天然温泉も設置されています。入居申込書による書類選考をおこないます。詳しくは下記までお問合せください。

(株)クレオテック TEL. (0977) 78-1158 FAX. (0977) 78-1163  
<http://www.creotech.co.jp/apu/index.html>



※ベッド、机、椅子、テレビ付きの部屋もあります。



## ■大分国際交流会館

国際交流を目的とした共同レジデンス。

国際学生と日本人学生の日常生活での交流をめざし、文部科学省の外郭団体「日本学生支援機構」が2001年に設立した学生居住施設です。計204の個室のほか、地域住民と学生の国際交流を目的とした会議室や多目的ホールなどの施設を設置しています。別府湾をのぞむ好立地で、APUへはバスで約30分。入居期間は原則2年間です。

※家賃(館費)は月額3万円。各個室には机、ベッド、冷蔵庫、エアコン、電話機、ユニットバス、オートロックシステムなどを完備。館内には医務室やカウンセリングルームもあります。

大分国際交流会館 TEL. (0977) 73-5050





# Life in Oita

## ■物価情報・生活費・家賃

### ■物価（平成15年 平均消費者物価地域差指数）

大分県の物価は、東京や大阪などの都市に比べて非常に安価。1ヶ月の生活費を比較したデータでも、九州は他の都市よりも低く、たいへん暮らしやすい環境となっています。

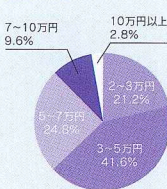


※東京の物価を100とした場合

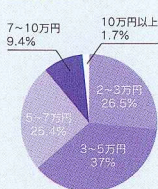
### ■1ヶ月の生活費（平成16年 APUステュデントオフィス調べ）

家賃を除く生活費は、国内学生・国際学生ともに3～5万円が最も高くなっています。

#### ■国内学生



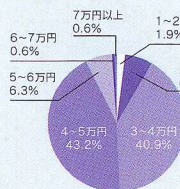
#### ■国際学生



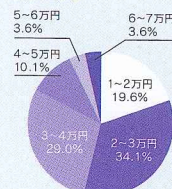
### ■1ヶ月の家賃（平成16年 APUステュデントオフィス調べ）

国内学生が4～5万円、国際学生が2～3万円の層が多くなっています。また、1～2万円の層の多くは、ルームシェアをしていると考えられます。

#### ■国内学生



#### ■国際学生



## ■アルバイトについて

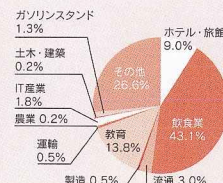
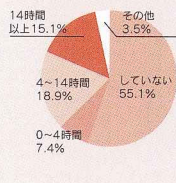
アルバイトでの社会体験も貴重な学習の糧になります。スチューデントサポート・センターの掲示板では、さまざまな業種のアルバイト情報を提供しています。



### ◆APU学生のアルバイト状況（平成16年 APUステュデントオフィス調べ）

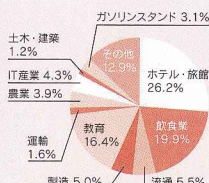
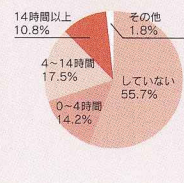
#### ■国内学生

一週間あたりのアルバイト時間



#### ■国際学生

一週間あたりのアルバイト時間



アルバイトの内容は、国内学生は接客業全般が多く、国際学生は言語能力などを活かし、ホテルや旅館でアルバイトをする学生が多くなっています。



## ■APUヘルスクリニック・カウンセリングルーム

健康面から学生生活の不安・悩みまで、専門家、カウンセラーによるアドバイスが気軽に受けられます。

みなさんが心身ともに健康な学生生活を送れるように、病気やケガの応急処置や健康相談が受けられる「ヘルスクリニック」と、カウンセラーが学生生活のさまざまな不安や悩みの相談に応じる「カウンセリングルーム」を設けています。いずれも専門のスタッフが常駐しており、いつでも気軽に利用できます。

## ■地域交流

別府のまちでは、APUの学生が率先してまちおこしや交流などをおこなっています。国内学生・国際学生ともに、地域社会の国際化と活性化に貢献しています。

### 商店街の活性化

大好きな別府には、まだまだたくさんのチャンスがある。

別府は温泉をはじめたくさんの財産をもっているのに、それを活かしていないと感じました。「それなら自分が…」と思い、はじめたのが「ベトナム薬膳料理ハノイ」というレストランと、APUで得た世界のネットワークを活かした「ワールドギフト」という雑貨店。お客さんの反応もよく、商店街を通る人も増えました。

商店街の理事長と力を合わせて、2005年の冬までにはもっとたくさんの店を出す予定です。今は観光で来るお客さんが多いので、これからは地元の人とも交流を深めていきたいですね。



ZABALIUNAS Mindaugasさん  
リトアニア出身  
2004年9月アジア太平洋マネジメント学部卒業  
「リトアニア出身なのになぜベトナム料理なのか？それは、他の国とビジネスをする方が勉強になるからです。」



ベトナム薬膳料理ハノイ



ワールドギフト

### 別府温泉まつり

「人と人とのつながり」を大事に」を基本理念として活動しているAPUの学生団体、別府まちづくり推進委員会。2005年4月の別府温泉まつりには約20名のAPU学生が神興渡御に参加し、地元の人と一緒にまつりを盛り上げました。

### 亀川の文化祭

国際学生や高齢者、障害のある人などさまざまな人が住む亀川を、より活発で魅力あふれるまちにしたいと、APUの学生たちが実行委員として主催、2004年12月18日に開催されました。地元の小学校PTAや自治会など数多くの団体のバックアップを得て、成功に導きました。



### 臼杵学

2005年度より、大分県臼杵市の地方行政の実体を職員から学ぶ講座を、専門教育科目の一つとして単位認定します。大学と地域が一体となって開講する地域学を単位認定するのは、全国でも珍しいこと。この講座では、職員を講師として招くだけでなく、現地でのフィールドワークも取り入れた「生きた授業」となっています。





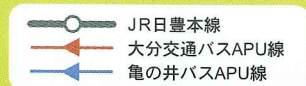
# Beppu City

## 世界中から人々が集う国際都市、別府。

世界第2位の湧出量を誇る温泉をはじめ、豊かな自然に恵まれた大分県別府市。国内外から年間約1200万人もの人が観光に訪れます。

また大分県の留学生数は、人口比では東京都に次いで2位。

世界各国・地域の国際学生（留学生）が数多く学ぶ都市として、発展を続けています。

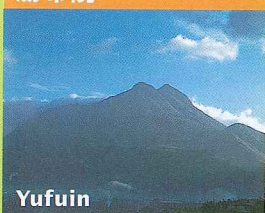


### 別府八湯



別府八湯とは、市内にある8つの代表的な温泉地の総称。それぞれが独立した温泉場として栄え、また市内全域に点在しているため、異なる泉質や風情を楽しめます。

### 湯布院



大分県のほぼ中央に位置する湯布院は、情緒ある温泉郷として日本屈指の人気を誇っています。町には3つの温泉群があり、美術館やギャラリーも点在。

### ビーコンプラザ



西日本最大級のコンベンション施設。1,200人収容のフィルハーモニアホールをはじめ、6カ国語対応同時通訳装置を備えた国際会議室など、あらゆる用途に対応する複合施設です。



### 別府豆知識

#### 地形

海と山に囲まれた扇状地。坂も多く、風光明媚な地。また別府近郊には阿蘇くじゅう国立公園が広がり、ミヤマキリシマの名所である鶴見岳や志高湖などといった自然を楽しむことができる。APUキャンパスからの景色には、海・山・広い空。この雄大な風景が一番好きだという学生も多い。また、眼下に広がる別府湾と別府のまちなみも見ごたえがあり、夜景も美しい。

#### 別府の温泉

源泉数・泉質数ともに日本1位。湧出量は1日137,410キロリットルで、アメリカ・イエローストーン国立公園に次いで世界2位。別府の温泉の歴史は古く、奈良時代までさかのぼる。現在も国内外から年間1,200万人もの観光客が訪れる国際観光都市。別府市内の案内図では、日本語・英語・韓国語をはじめ、さまざまな言語による表記を目にすることができる。路線バスのアナウンスでも、一部3カ国語が使用されている。

#### 大分県内の留学生数（2004年5月現在）

2,726人で、人口10万人当たり223人。人口比では東京都（315人）に次いで全国で2番目に多い。なかでも別府市には約2,400人の留学生がおり、別府のまちを活性化している。

#### イベント

クリスマスの時期に開催される「べっぴんクリスマスHANABIファンタジア」は、花火と音楽の盛大なイベント。APUの学生による屋台やパフォーマンスが会場を大いに盛り上げる。その他にもAPUの学生は別府市のイベントに多数参加、活躍の場を広げている。



## ■学長

職位	氏 名	学 位 (博士)	主な担当科目	研究領域／研究テーマ
教 授	Monte CASSIM			平和と発展をめざした国際協力

## ■学長補佐

職位	氏 名	学 位 (博士)	主な担当科目	研究領域／研究テーマ
教 授	甲賀 光秀			経済政策(含経済事情)

## ■アジア太平洋学部 College of Asia Pacific Studies

職位	氏 名	学 位 (博士)	主な担当科目	研究領域／研究テーマ
教 授	COOPER, Malcolm J. M.	博士 (都市地域学)、バーミンガム大学	アジア太平洋観光論/観光政策	オセアニア地域の観光政策と地域管理
教 授	EADES, Jeremy S.	博士 (社会人類学)、ケンブリッジ大学	文化人類学/カルチュラル・スタディーズ	Sociology and anthropology of the Asia Pacific region
教 授	FAULKNER, Leigh A.	教育学博士、プリティッシュ・コロンビア大学	英 語/学修技法	Language users' understanding of metaphors
教 授	FELLIZAR, Francisco P., Jr.	博士 (行政学)、フィリピン大学	都市環境論/アジア太平洋環境論	Environment and natural resources management, human ecology
教 授	福井 捷朗	農学博士、京都大学	Environmental History of the Asia Pacific	東南アジアにおける相対的乾燥地の生態史
教 授	GUNARTO, Hary	博士 (電気・コンピュータ学)、ワシントン州立大学	情報技術論/情報処理論 I・II	Computer networks, data communications, information technology, management
教 授	昌田 展行		観光開発と計画/現代の科学技術	太平洋島嶼国における持続可能な観光開発
教 授	市岡 康子		現代映像論/民族誌フィルム研究	アジア太平洋地域における映像人類学/ドキュメンタリー史
教 授	KEE Pookong	博士 (心理学)、オーストラリア国立大学	多文化社会論/マイグレーション研究	Causes, processes and consequences of international people movements
教 授	KO Yiu-Chung	博士 (社会学)、カリフォルニア大学	社会変動論/欧米社会とアジア太平洋	Ethnic relation, social stratification, work and occupation
教 授	MANI, A.	博士 (社会学)、ウィスコンシン大学	Changing Social Landscapes in the Asia Pacific	Education, ethnicity and development in Southeast Asia
教 授	MANOPIMOKE, Supachit	博士 (農業・資源経済学)、ハワイ大学	環境経済論	Economic of health, the environment, and sustainable development
教 授	三好 皓一	博士 (人間科学)、大阪大学	Japanese Experiences in International Cooperation Project Planning	開発プロジェクト評価と管理
教 授	中野 雅博		観光と地理・地誌/地域研究 VI (北米)	貧困の文化
教 授	永松 利文		社会情報論/メディア論	情報メディアとコミュニケーション
教 授	仲上 健一	工学博士、大阪大学	環境政策	アジア太平洋地域の都市と環境
教 授	小方 昌勝		アジア太平洋観光論/エコ・ツーリズム論	アジア太平洋に向けた九州観光の促進と対応
教 授	大橋 克洋		アジア太平洋の言語と文化/学修技法	応用言語学
教 授	PRAMOJANE, Palboon	博士 (自然科学)、東京大学	地球環境	タイの土地利用管理と生態計画
教 授	SALAZAR, Robert A.	博士 (人類学)、オハイオ州立大学	国際社会ネットワーク論/市民ネットワーク論	Social impact assessment, social forestry, environment, tourism, social capital, and social networks
教 授	鈴木 絳子	博士 (行政学)、ニューヨーク大学	アジア太平洋ガバナンス論	Local Environmental Governance
教 授	山神 進		アジア太平洋地域システム論	国際政治、比較政治、東アジア地域研究
教 授	山本 富美子		日本語	日本語教育学と異文化間コミュニケーション
教 授	吉松 秀孝	博士 (国際関係論)、オーストラリア国立大学	国際関係論入門/政治学入門	国際関係論、国際政治経済学、東アジア地域協力
教 授	吉本智恵子	博士 (文学)、中央民族大学	中国語	漢字文化圏の文字に関する歴史的比較研究
教 授	張 坤民		地域研究 I (東北アジア・中国の環境問題)	中国の環境管理政策と持続可能な開発
助 教 授	ASKEW, David J.		社会と法/グローバリゼーションと規範	法学、政治思想史
助 教 授	石井 由香	博士 (社会学)、筑波大学	国際社会学/アジア太平洋社会学入門	発展途上国におけるエスニック関係と人の国際移動
助 教 授	伊東 寿泰	博士 (聖書・宗教学)、オレンジ自由州立大学	英 語	語用論 (言語学) と第4福音書、語用論と英語教育
助 教 授	小竹 裕一		日本語	異文化間コミュニケーション
助 教 授	徐 昕	博士 (国際関係論)、コーネル大学	国際関係論入門/アジア太平洋の政治・経済	International relations, China's foreign policy, East Asian security
専任講師	朝水 宗彦	博士 (学術)、桜美林大学	観光社会学/観光文化論	オーストラリアにおけるエスニック・ツーリズム
専任講師	KIRBY, Peter Wynn	博士 (社会人類学)、ケンブリッジ大学	社会理論/環境社会学	Socio-cultural anthropology, environments, pollution, and protest; the media; cities and space; bio-technology, health and illness; Japan
専任講師	李 燕	博士 (工学)、京都大学	都市社会学/都市政策	地理情報システム (GIS) を用いた都市研究
専任講師	小田 久美		文化人類学/社会理論	マレーシアの都市における華人研究
専任講師	田原 洋樹		ベトナム語	ベトナム語教授法、比較教育学
常勤講師	ARISTIMUNO, Ignacio	博士 (農学)、京都大学	スペイン語	
常勤講師	BAHAU, Simon P.		英 語	
常勤講師	CHOOWONG, Supichcha	博士 (言語・文化)、マガダ大学	タイ語	
常勤講師	CRAWFORD, Leslie A.	博士 (成人教育)、トロント大学	英 語	Critical and creative thinking adult education and peace education
常勤講師	DAHLAN, Nariman		統計学/情報科学入門	マルチメディア情報システムの構築に関する研究
常勤講師	DONNERY, Eucharía		英 語	
常勤講師	GUISHARD, Linda		英 語	異文化コミュニケーション
常勤講師	許 南薫		日本語	
常勤講師	HWANG, Jung-nan		韓国語	
常勤講師	井口 由布	博士 (学術)、東京外国語大学	マレー語・インドネシア語	
常勤講師	甲斐 朋子		日本語	日本語学、認知言語学の立場から見た複合動詞研究、音声教育、感情表現におけるピッチの役割
常勤講師	片山 智子		日本語	JSL (第2言語としての日本語) の読解、授業分析
常勤講師	李 麗君		中国語	
常勤講師	増倉 洋子		日本語	
常勤講師	溝口 博幸	博士 (文学)、大東文化大学	日本語	
常勤講師	NGUYEN Van Hue	博士 (言語学)、ホーチミン市国家大学	ベトナム語	
常勤講師	酒井 彩香	博士 (文学)、名古屋大学	日本語	
常勤講師	清水 昭子		日本語	
常勤講師	SOUTH, Coleman		英 語	
常勤講師	TE PUNGA, Mark R.		英 語	Communication techniques, interviewing techniques, Asia Pacific international relations, developments on the Korean Peninsula
常勤講師	瓜生 佳代		日本語	
常勤講師	YOUNG, Shirley		英 語	

## ■客員教員一覧

### アジア太平洋学部

船橋 洋一  
濱下 武志  
韓 昇洲  
蕭 新煌  
KOH, Tommy T. B.  
小原 雅博  
駒井 洋  
公文 俊平

朝日新聞特別編集委員  
京都大学教授 (東南アジア研究センター)  
韓国在米国特命全権大使、高麗大学校教授  
中央研究院 (台湾) 研究員、東南アジア研究計画責任者、国立台湾大学教授  
シンガポール外務省無任所大使、政策研究所会長  
在口サンセルス日本総領事館首席領事  
元筑波大学教授  
国際大学教授、グローバルコミュニケーション・センター所長

李 時榮  
MCDONALD, Anne E.  
千 玄室  
佐藤 嘉恭  
VOGEL, Ezra F.  
袁 明  
張 聖坤  
張 瀟瀟

大韓民国外交通商部本部大使、全州大学学長  
清水弘文堂書房取締役 兼 清水弘文堂書房松山町編集室長  
裏千家家元 (裏千家第十五代家元)  
東京電力株式会社顧問、三井住友海上火災保険株式会社顧問、元在中国日本国特命全権大使  
ハーヴァード大学アジアセンター研究教授  
北京大学教授、国際関係研究所所長  
上海交通大学副学長  
中国社会科学院アジア太平洋研究所所長



# **■アジア太平洋マネジメント学部 College of Asia Pacific Management**

職位	氏 名	学 位 (博士)	主な担当科目	研究領域／研究テーマ
教 授	BERWICK, Richard F.	博士 (言語教育)、プリティッシュ・コロンビア大学	英 語/異文化間コミュニケーション	Discourse strategies in second language and culture learning
教 授	福谷 正信		人的資源管理論/労使関係論	人事労務問題や労使関係課題さらには戦略人事と組織論に関する調査研究
教 授	林 聖太郎	博士 (経済学)、京都大学	地域研究Ⅰ (東北アジア)	アカデミック・インフラストラクチャーに関する研究
教 授	井草 邦雄		Comparative Economic Development in the Asia Pacific	東南アジアの産業育成と人材養成の課題
教 授	伊藤 泰敬		製品開発戦略論	マーケティング、新製品開発論、ブランド・マネジメント、マーケティング・リサーチ
教 授	金 賛會	博士 (文学)、立命館大学	韓国語	日本と韓国を中心とした伝承文学の比較研究
教 授	久原 正治	博士 (経営学)、立命館大学	経営戦略論	金融サービス業の戦略と組織
教 授	MAJUMDAR, Abdullah-Al-Kafi	博士 (数理学)、大阪大学	統計学/社会科学のための数学	オペレーションズリサーチ・数学的プログラミング
教 授	守野 友造		アジア太平洋の産業/東南アジア経済研究	中国経済論、中国ビジネス論、貿易技術論
教 授	MOUSTAFA, Salah El-Din I.	博士 (会計学)、ノーステキサス大学	会計学	Accounting theory and market research (financial reporting issues), accounting education
教 授	武藤 幸治		南西アジア経済研究/アジア太平洋のCOMARS	イスラム経済論、中東経済論
教 授	永井 秀哉		コーポレート・ファイナンス	コーポレート・ファイナンスの応用実践研究、日本におけるコーポレート・ガバナンスの研究
教 授	中田 行彦	博士 (工学)、大阪大学	技術経営/開発・生産システム論	液晶、半導体等の次世代技術と産業の研究によるアジア太平洋のための技術経営
教 授	難波 正憲		ベンチャービジネス	技術経営、新事業開発、イノベーションマネジメント、ベンチャー企業経営論
教 授	呉 寅圭	博士 (社会学)、オレゴン大学	日本的経営論/現代の日本経済	組織論、韓国の財閥、日本の系列、経済社会学、政-財関係論
教 授	PATTEN, Ronald J.	博士 (会計学)、アラバマ大学	アカウンティング研究	Accounting, economics and business law
教 授	SINHA, Dipendra	博士 (経済学)、ネブラスカ・リンカーン大学	国際経済論/経済学入門	Applied econometrics, international economics and industrial organization
教 授	鈴木 康二		アジア投資戦略/アジア金融市場	アジアビジネス法、アジア投資戦略
教 授	高元 昭紘		国際マーケティング論	国際マーケティング戦略
教 授	THOMPSON, Edmund R.	博士 (経済学)、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス	国際経営論	国際競争、戦略経営論、ビジネス・ポリシー
教 授	宇根谷 孝子	博士 (言語学)、ハワイ大学	日本語	日本語の分析と日本語教育への応用 (遠隔教育など)
教 授	汪 正仁	学術博士 (国際開発)、名古屋大学	東アジアのロジスティクス/ロジスティクス論	東アジアの国際物流システム
教 授	山浦 雄三		アジア太平洋の産業/アジア太平洋における日本企業	アジア太平洋地域の経済・産業の動向分析と発展戦略
教 授	横山 研治	博士 (経営学)、立命館大学	国際取引/アジア太平洋のCOMARS	貿易システム要素の相互関連
教 授	ZHANG, Wei-Bin	博士 (経済学)、ウメア大学	ミクロ経済学/オペレーションズ・リサーチ	Growth theory, trade theory, urban and regional economics, economic dynamics, ethics, East-Asian philosophy
助 教 授	CHOWDHURY, Dhiman	博士 (会計学)、ランカスター大学	原価会計/財務会計論	Incentives and control for good governance
助 教 授	CRIPPS, Anthony C.		英 語	Learner autonomy, computer assisted language learning (CALL), pedagogical innovation
助 教 授	DRUMMOND, Damon L.	博士 (マネジメント)、慶應義塾大学	日中韓比較経営/国際経営論	グローバル経営比較と人事論
助 教 授	近藤 まり	博士 (人間・環境学)、京都大学	アジア太平洋の人材開発/経営学	国際経営論/アジア企業経営論
助 教 授	劉 容菁	博士 (経営学)、立命館大学	ビジネス・エシックスとリーダーシップ	日本的経営とグローバルマネジメント
助 教 授	牧田 正裕	博士 (経営学)、立命館大学	会計学/財務会計論Ⅰ	証券市場と会計・ディスクロージャー ―日米を中心に―
助 教 授	鈴木 泰		金融論	金融論、比較金融システム、制度経済学、レント追求行動、ミクロ・行動経済学
専任講師	藤本 武士	博士 (経営学)、立命館大学	マーケティング論	食品流通業界における効率的顧客対応
常勤講師	ALLEN, Sydney		英 語	
常勤講師	ALTAMIRANO, Juan José		スペイン語	CEC (Caminando en Clase: Walking in class)
常勤講師	BLACKWELL, James		英 語	Discourse analysis computer mediated communication
常勤講師	HANN, George		英 語	Computer assisted language learning (CALL)
常勤講師	本田 明子		日本語	
常勤講師	洪 潔清		中国語	
常勤講師	LEE, Nancy P.		英 語	International education and business English, administration of pluralistic initiatives
常勤講師	李 亜兵	博士 (工学)、立命館大学	情報科学入門/情報処理論Ⅰ・Ⅱ	
常勤講師	盧 万才		中国語	
常勤講師	MALLOY, Carrie		英 語	International education and human rights
常勤講師	丸毛 美樹		日本語	
常勤講師	渋谷 倫子		日本語	
常勤講師	副島 健治		日本語	
常勤講師	立堀 尚子		日本語	マレーシア地域研究、異文化間コミュニケーション、留学生教育
常勤講師	田中 善紀	博士 (政策科学)、立命館大学	英 語	
常勤講師	土谷 桃子		日本語	幕末、明治初期の社会と文学
常勤講師	梅田 千砂子		日本語	
常勤講師	張 文青		中国語	



# アドバイザリー・コミッティ

アドバイザリー・コミッティは、立命館アジア太平洋大学 (APU) を支援する組織として、1996年5月に設立されました。メンバーは世界各国の元首、駐日大使をはじめ、日本を代表する経済界のトップの方々などによって構成されており、講演会や奨学金、就職支援など、さまざまな形でご支援をいただいています。

## 名誉委員

ジャン クレティエン  
前カナダ首相  
ダト セリ マハティール モハマッド  
前マレーシア首相  
ナツギン バガバンディ  
モンゴル国大統領  
アンドレアス ファン アフト  
元オランダ王国首相  
フィデル V. ラモス  
元フィリピン共和国大統領  
グエン ティービン  
前ベトナム社会主義共和国国家副主席  
シェイク ハリーファビン サイド アル ナヒヤーン  
アラブ首長国連邦大統領  
平松 守彦  
前大分県知事

## インターナショナル委員

汪 道涵  
海峡兩岸關係協會會長、元上海市長  
ハッサンビン タラール  
ヨルダン・ハシミテ王国王子  
アルフォンソ T. ユーチェンコ  
ユーチェンコ・グループ会長、元駐日フィリピン共和国特命全權大使  
鄭 夢準  
国際サッカー連盟副会長、現代重工業顧問  
モーリス F. ストロング  
国連事務総長特別補佐、平和大学理事長  
金 相厚  
(社)韓日経済協会名誉会長、株式会社三養社会長  
玄 明官  
韓国全国経済人連合会常勤副会長、韓国三星物産株式会社会長  
シェイク ナヒヤーン  
アラブ首長国連邦高等教育大臣  
Higher Colleges of Technology (HCT) 総長  
鄭 謙松  
中華人民共和國国際協力協会理事長、中国信託グループ会長兼CEO  
中国信託フィナンシャル・ホールディングス取締役会長  
ブーンシット チョークワタナー  
サハ・グループ統帥、サハバタナ持株会社社長  
ブラバット ポーティウォラック  
タイ工業連盟会長

## アンバサダーメンバー

ダニエル アダン シエベソ ポルスキ  
駐日アルゼンチン共和国特命全權大使  
アリスティア マレー マクレーン (2005年1月25日就任)  
駐日オーストラリア特命全權大使  
ベクター モーザー  
駐日オーストラリア共和国特命全權大使  
モハメッド セラジュル イスラム  
駐日バングラデシュ人民共和国特命全權大使  
ヴラディミール ラスベティッチ  
駐日ボスニア・ヘルツェゴヴィナ特命全權大使  
イヴァン カナブラヴァ  
駐日ブラジル連邦共和国特命全權大使  
ハジ モハメッド ノール ビン ハジ ジャルディーン  
前駐日ブルネイ・ダルサラーム国特命全權大使  
ブラゴヴェスト センドフ  
駐日ブルガリア共和国特命全權大使  
イン キェット  
駐日カンボディア王国特命全權大使  
ンペラ ンペラ ルジュース  
駐日カメルーン共和国特命全權大使  
ロバート G. ライト  
駐日カナダ特命全權大使  
ダニエル カルバージョ (2005年2月2日就任)  
駐日チリ共和国特命全權大使  
王 毅  
中華人民共和國駐日本国特命全權大使  
ドラゴ ブヴァチュ  
駐日クロアチア共和国特命全權大使  
カレル ジェブラコフスキー  
駐日チェコ共和国特命全權大使  
ラシャド ファラ  
前駐日ジブチ共和国特命全權大使  
アドルフ アルバレス ビジャゴメス  
駐日エクアドル共和国特命全權大使  
コアン グトットウラム ドウング  
駐日エチオピア連邦民主共和国特命全權大使  
ベルンハルト セプター  
駐日欧州委員会代表部代表・大使  
ラウ テヴィタ モモエント  
駐日フィジー諸島共和国特命全權大使  
ベルナール フォーブルネド モンフェラン  
駐日フランス特命全權大使  
ヘンリック シュミエグロ  
駐日ドイツ連邦共和国特命全權大使  
パフォ アジェベウ  
駐日ガーナ共和国特命全權大使  
キリアコス ロドゥサキス  
駐日ギリシャ共和国特命全權大使  
ダブローナキ ジュラ  
駐日ハンガリー共和国特命全權大使  
マニラール トリババー  
駐日インド特命全權大使  
アブドゥル イルサン  
駐日インドネシア共和国特命全權大使  
ポール アンソニー ロボサム  
駐日ジャマイカ特命全權大使

サミール イーサ ナウーリ  
駐日ヨルダン・ハシェミット王国特命全權大使  
デニス ノエル オドゥヤ アウワリ  
駐日ケニア共和国特命全權大使  
羅 鍾一  
駐日大韓民国特命全權大使  
スックタボン ケオラ  
駐日ラオス人民民主共和国特命全權大使  
アルギルダス クジス  
駐日リトアニア共和国特命全權大使  
ミッシェル プランシェール トマシーニ  
駐日ルクセンブルグ大公国特命全權大使  
ダト マルスキ ビン ハマッド ノール  
駐日マレーシア特命全權大使  
J. ジョン チカゴ  
駐日マラウイ共和国特命全權大使  
ミゲル ルイス カバーニャス イスキエルド  
駐日メキシコ合衆国特命全權大使  
ザムバ バトジャルガル  
駐日モンゴル国特命全權大使  
ソー フラミン  
駐日ミャンマー連邦特命全權大使  
フリッパ ギブソン  
前駐日ニュージーランド特命全權大使  
アダム アリユー  
駐日ナイジェリア連邦共和国特命全權大使  
カムラン アナス  
駐日パキスタン・イスラム共和国特命全權大使  
マイケル マウエ  
駐日ババ・ニューギニア特命全權大使  
イサオ タカカ  
駐日パラグアイ共和国特命全權大使  
ルイス J. マキヤベロ  
駐日ペルー共和国特命全權大使  
ドミンゴ L. シアソソ Jr.  
駐日フィリピン共和国特命全權大使  
マルチン リビツキ  
駐日ポーランド共和国特命全權大使  
イオン バスク  
前駐日ルーマニア共和国特命全權大使  
アレクサンドル プロホロヴィチ ロシユコフ  
駐日ロシア連邦特命全權大使  
タン チンチョン  
駐日シンガポール共和国特命全權大使  
カルナティラカ アムメガ  
駐日スリランカ民主社会主義共和国特命全權大使  
ミカエル リンドストロム  
駐日スウェーデン特命全權大使  
スウィット シマクン  
駐日タイ王国特命全權大使  
サラ ハンナン  
駐日チュニジア共和国特命全權大使  
ユリー V. コステンコ  
駐日ウクライナ特命全權大使  
アハメッド アリ ハマド アルムアラ  
駐日アラブ首長国連邦特命全權大使  
グレアム ホルブルック フライ  
駐日英国特命全權大使  
ハワード H. ベーカー, Jr.  
駐日アメリカ合衆国特命全權大使  
ミルソビツ F. オチロフ  
駐日ウズベキスタン共和国特命全權大使  
チュートウアン カップ  
駐日ベトナム社会主義共和国特命全權大使  
ゴッドフリー S. シマシク  
駐日ザンビア共和国特命全權大使  
スチュアート ハロルド コンバツハ  
駐日ジンバブエ共和国特命全權大使

## 世話人

豊田 章一郎 トヨタ自動車株式会社取締役名誉会長  
(社)日本経済団体連合会名誉会長  
末松 謙一 株式会社三井住友銀行名誉顧問  
西島 安則 元京都大学総長  
佐藤 研一郎 ローム株式会社代表取締役社長  
河原 四郎 大同生命保険株式会社代表取締役会長

## 代表世話人

広瀬勝貞 大分県知事  
浜田 博 別府市長  
長田豊臣 立命館総長

## 委員

明石 康 スリランカ平和構築及び復興・復興担当日本政府代表、元国際連合事務次長  
秋沢 晃 石原産業株式会社最高顧問  
秋山 富一 住友商事株式会社名誉顧問  
堀吉 敬子 ジャズピアニスト  
明間 輝行 東北電力株式会社相談役、(社)東北経済連合会名誉会長  
安部 浩平 中部電力株式会社相談役、(社)中部経済連合会名誉会長  
荒巻 恭士 株式会社きんてん特別顧問  
安西 邦夫 東京ガス株式会社代表取締役会長  
安藤 百福 日清食品株式会社代表取締役会長  
飯塚 真玄 株式会社 T K C 代表取締役社長  
井橋 敏 三洋電機株式会社代表取締役会長  
池坊 専永 華道家元四十五世  
磯邊 律男 株式会社博報堂相談役  
井手 正敬 西日本旅客鉄道株式会社取締役相談役  
伊藤 助成 日本生命保険相互会社代表取締役会長  
伊奈 輝三 株式会社 INAX 名誉会長  
稲葉 興作 石川島播磨重工業株式会社相談役  
稲村 一弘 三井住友建設株式会社特別顧問

井上 信幸 前別府市長  
井上 礼之 ダイキン工業株式会社取締役会長兼CEO  
井口 武雄 三井住友海上火災保険株式会社会長・CEO  
(社)経済同友会代表幹事  
今井 敬 新日本製鐵株式会社相談役名誉会長  
(社)日本経済団体連合会名誉会長  
岩谷 徹郎 岩谷産業株式会社相談役  
牛尾 治朗 ウシオ電機株式会社代表取締役会長  
氏家 純一 野村ホールディングス株式会社取締役会長  
(社)経済同友会代表幹事  
梅田 貞夫 鹿島建設株式会社代表取締役社長  
枝村 純郎 住友商事株式会社顧問  
大賀 典雄 元駐インドネシア共和国特命全權大使  
大河原 良雄 元駐ロシア連邦特命全權大使  
ソニー株式会社名誉会長  
元駐米大使  
(財)世界平和研究所理事長  
(財)国際協力推進協会理事長  
(財)ワイ・エフ・ユウ日本国際交流財団理事長  
(社)日米協会会長  
大木 和雄 日鉱金属株式会社代表取締役社長  
大國 昌彦 王子製紙株式会社代表取締役会長  
大澤 弘一 (財)リポートセンシング技術センター理事長  
前科学技術会議議長、元科学技術事務次官  
大竹 美喜 アメリカンファミリー生命保険会社創業者・最高顧問  
大塚 信一 株式会社岩波書店代表取締役社長  
大西 正文 大阪ガス株式会社特別顧問  
大西 實 富士写真フイルム株式会社代表取締役相談役  
大橋 信夫 三井物産株式会社代表取締役会長  
大橋 光夫 昭和電工株式会社代表取締役会長  
岡崎 真雄 ニッセイ同和損害保険株式会社代表取締役会長  
岡部 敬一郎 コスモ石油株式会社代表取締役会長  
岡村 泰孝 (財)国際商事法セクター理事長、弁護士、元検事総長  
小川 進 東邦ガス株式会社特別顧問  
奥井 功 積水ハウス株式会社相談役、関西経営者協会会長  
奥田 碩 (社)日本経済団体連合会会長  
小澤 三敏 住友重機械工業株式会社相談役  
小野田 隆 三井住友海上火災保険株式会社相談役  
加藤 久郎 戸田建設株式会社代表取締役社長  
勝俣 恒久 東京電力株式会社代表取締役社長  
金井 務 株式会社日立製作所取締役会長  
河合 良一 株式会社小松製作所相談役  
川上 哲郎 住友電気工業株式会社相談役  
河村 喜典 三共株式会社相談役  
岸本 泰延 昭和電工株式会社顧問  
北岡 隆 三菱電機株式会社相談役  
北城 悟太郎 日本アイ・ビー・エム株式会社代表取締役会長  
北島 義俊 大日本印刷株式会社代表取締役社長  
木田 宏 (財)新国立劇場運営財団顧問、元文部事務次官  
金馬 昭昭 京阪電気鉄道株式会社代表取締役相談役  
國廣 道彦 元駐中華人民共和国特命全權大使  
元駐インドネシア共和国特命全權大使  
株式会東京三愛銀行頭取  
東京海上日動火災保険株式会社相談役  
株式会鴻池組取締役会長  
AOCホールディングス株式会社相談役、元通商産業事務次官  
アラビヤ石油株式会社代表取締役社長  
阪急電鉄株式会社相談役  
関西電力株式会社顧問  
富士ゼロックス株式会社代表取締役会長  
日本ガイシ株式会社相談役  
エスベック株式会社社長  
株式会社日本航空常任顧問  
第一生命保険相互会社相談役  
(社)日本経済団体連合会評議員副議長  
日本電気株式会社代表取締役会長  
株式会社東芝相談役  
塩野義製薬株式会社代表取締役社長  
住友金属鉱山株式会社名誉顧問  
株式会社山下設計特別顧問  
東洋紡績株式会社相談役  
日本ビクター株式会社特別役員  
特定非営利活動法人青少年育成支援フォーラム理事長  
住友金属工業株式会社名誉会長  
株式会社みずほ銀行取締役頭取  
株式会社イトーヨーカ堂代表取締役会長兼CEO  
株式会社セブン・イレブン・ジャパン代表取締役会長兼CEO  
(社)日本経済団体連合会評議員副議長  
株式会社国際社会経済研究所理事長  
アサヒビール株式会社相談役  
柔道裏千家第15代家元、中国南開大学哲学博士  
ハワイ大学歴史学部教授  
中国電力株式会社代表取締役会長、中国経済連合会会長  
日精工業株式会社代表取締役会長  
名港海運株式会社代表取締役会長  
ユニ・チャーム株式会社代表取締役相談役  
(社)日本経済団体連合会評議員副議長  
コニカ・ミノルタホールディングス株式会社名誉顧問  
近畿日本鉄道株式会社相談役  
宇宙航空研究開発機構理事長  
株式会社三井住友銀行名誉顧問  
住友大阪セメント株式会社相談役  
田辺製薬株式会社相談役  
関西ペイント株式会社名誉顧問  
株式会社ジェーシービー相談役  
(財)日本フォスター・プラン協会会長・理事長  
元アジア開発銀行総裁  
シャープ株式会社相談役  
日本ヒューレット・パッカード株式会社代表取締役会長  
北海道電力株式会社特別顧問、北海道経済連合会名誉会長  
株式会社クボタ相談役  
(社)世界貿易センター(東京)会長  
前(財)国際経済交流財団会長  
元日本貿易振興機構理事長  
株式会社熊谷組取締役社長



メンバーは、名誉委員8名、インターナショナル委員11名、アンバサダーメンバー62名、世話人5名、代表世話人3名、委員198名の合計287名の方々に構成されています。

(2005年1月1日現在 敬称略)

## ADVISORY COMMITTEE

内藤 明人 中里 良彦 中村 寛之助 中村 泰三 那須 翔 成田 豊 野村 吉三郎 嶋山 襄	リンナイ株式会社取締役会長 富士電機株式会社元相談役 協和発酵工業株式会社相談役 KDDI株式会社元相談役 東京電力株式会社顧問 株式会社電通最高顧問 電通グループ会長 全日本空輸株式会社取締役会長 (財)国際経済交流財団会長 前日本貿易振興機構理事長	三宅 明 宮村 興平 村上 春雄 村田 誠四郎 茂木 友三郎 森岡 茂夫 森下 俊三 森 金次郎	三井生命保険株式会社名誉顧問 三井金属鉱業株式会社代表取締役会長兼CEO 日本テレコム株式会社執行役員社長 丸善株式会社代表取締役社長 キッコーマン株式会社代表取締役会長兼CEO 山之内製菓株式会社元会長 西日本電信電話株式会社代表取締役社長 日本税理士会連合会長 アジア・オセアニア・タックスコンサルタント協会会長 第一製菓株式会社取締役社長 太平洋セメント株式会社相談役 財団法人日商岩井国際交流財団理事長 旭化成株式会社代表取締役会長、日本商工会議所会頭 東急建設株式会社取締役社長(2005年1月31日就任) 南海電気鉄道株式会社代表取締役社長 富士通株式会社名誉会長 株式会社ユアサコーポレーション取締役名誉会長 株式会社栗本鐵工所代表取締役社長 (2005年1月14日就任) 伊藤忠商事株式会社名誉理事 日本貿易振興機構理事長 株式会社UFJ銀行名誉顧問	道端 進 村田 純一 村田 泰隆	京都中央信用金庫会長 村田機械株式会社代表取締役会長、京都商工会議所会頭 株式会社村田製作所代表取締役社長
畑中 浩一 堀 義一 清中 一郎 早崎 博 樋口 廣太郎 平島 治	松下電工株式会社代表取締役社長経営執行役 日産自動車株式会社相談役名誉会長 日本通運株式会社相談役 住友信託銀行株式会社特別顧問 アサヒビール株式会社相談役 大成建設株式会社代表取締役会長 (社)日本経済団体連合会評議員会副議長 作家	森田 清 諸井 慶 安武 史郎 山口 信夫 山田 豊彦 山中 諄 山本 卓眞 湯淺 暉久 横内 誠三	第一製菓株式会社取締役社長 太平洋セメント株式会社相談役 財団法人日商岩井国際交流財団理事長 旭化成株式会社代表取締役会長、日本商工会議所会頭 東急建設株式会社取締役社長(2005年1月31日就任) 南海電気鉄道株式会社代表取締役社長 富士通株式会社名誉会長 株式会社ユアサコーポレーション取締役名誉会長 株式会社栗本鐵工所代表取締役社長 (2005年1月14日就任) 伊藤忠商事株式会社名誉理事 日本貿易振興機構理事長 株式会社UFJ銀行名誉顧問	明石 博義 安藤 昭三	西日本鉄道株式会社取締役会長 株式会社大分銀行代表取締役会長 大分商工会議所会頭 宮崎交通株式会社取締役社長 九州電力株式会社相談役 (社)九州・山口経済連合会顧問 大分交通株式会社代表取締役会長 株式会社エコ研究所特別顧問 株式会社九電工業代表取締役社長 株式会社西日本シティ銀行名誉顧問 パナソニックコミュニケーションズ株式会社代表取締役社長 株式会社さとうベネック取締役会長 東陶機器株式会社代表取締役会長 財団法人福岡文化財団理事長 財団法人九州・山口地域経済貢献財団理事長 九州・アジア経営塾塾長 西部瓦斯株式会社取締役相談役 株式会社西日本新聞代表取締役社長 株式会社豊和銀行取締役頭取 九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長 株式会社山口銀行相談役 株式会社福岡銀行取締役会長 株式会社安川電機取締役社長 大分瓦斯株式会社代表取締役社長 株式会社トキハ代表取締役会長 那覇空港ビルディング株式会社取締役会長 元内閣総理大臣 株式会社アステム代表取締役社長
深田 祐介 福原 義春 藤井 義弘 藤澤 友吉郎 藤田 弘道 藤村 宏幸 藤村 正哉 古河 潤之助 古川 昌彦 古田 武 マイケルローテイング	株式会社資生堂名誉会長 日立造船株式会社顧問 藤沢薬品工業株式会社取締役相談役 凸版印刷株式会社代表取締役会長 株式会社在原製作所名誉会長 三菱マテリアル株式会社相談役 古河電気工業株式会社取締役相談役 三菱化学株式会社特別顧問 株式会社カネカ代表取締役会長 マイクロソフト株式会社代表執行役社長 (2005年2月10日就任)	米倉 功 渡辺 修 渡辺 潤	株式会社川島織物取締役社長 大日本スクリーン製造株式会社代表取締役会長兼社長 日新電機株式会社代表取締役社長 京セラ株式会社取締役名誉会長 京都商工会議所名誉会長 株式会社京都銀行取締役頭取 日本電池株式会社相談役 日本写真印刷株式会社代表取締役会長 株式会社滋賀銀行取締役会長 滋賀経済団体連合会長 (財)滋賀県産業支援プラザ理事長 (社)びわこビジネスマンビューロー会長 ニチコン株式会社代表取締役社長 オムロン株式会社代表取締役会長 株式会社平和堂代表取締役社長 株式会社島津製作所相談役 株式会社島津製作所取締役会長	岩切 通郎 大野 茂	
マークデュレ 前田 勝之助 前田 靖治 牧 冬彦 松下 正治 松田 昌士 松橋 功 三重野 康 御手洗 富士夫	アデコ株式会社代表取締役会長 東レ株式会社名誉会長 前田建設工業株式会社代表取締役社長 神戸商工会議所名誉会長 松下電器産業株式会社取締役相談役名誉会長 東日本旅客鉄道株式会社取締役会長 株式会社ジェイティビー相談役 日本銀行元総裁 キャノン株式会社代表取締役社長 (社)日本経済団体連合会副会長 中小企業金融公庫総裁 オリックス株式会社取締役兼代表執行役会長・グループCEO	青戸 純 石田 明 位高 光司 稲盛 和夫	株式会社川島織物取締役社長 大日本スクリーン製造株式会社代表取締役会長兼社長 日新電機株式会社代表取締役社長 京セラ株式会社取締役名誉会長 京都商工会議所名誉会長 株式会社京都銀行取締役頭取 日本電池株式会社相談役 日本写真印刷株式会社代表取締役会長 株式会社滋賀銀行取締役会長 滋賀経済団体連合会長 (財)滋賀県産業支援プラザ理事長 (社)びわこビジネスマンビューロー会長 ニチコン株式会社代表取締役社長 オムロン株式会社代表取締役会長 株式会社平和堂代表取締役社長 株式会社島津製作所相談役 株式会社島津製作所取締役会長	小野 浩 神近 義邦 河部 浩幸 後藤 達太 坂井 龍	
水口 弘一 宮内 義彦		武田 一平 立石 義雄 夏原 平和 西八條 實 堀場 雅夫		佐藤 諄之助 重淵 雅敏 四島 司	

※50音順

## アカデミック・アドバイザー

アカデミック・アドバイザーは、APUの教育研究面でのご支援をいただく組織で、国内外の著名な研究者・教育関係者である57名の方に委員にご就任いただいています。特別講義や講演会などにお招きし、教育研究の活性化にご協力いただいています。(2005年1月1日現在 敬称略)

## ACADEMIC ADVISORS

ケント・E・カルダー  
ジョンズホプキンス大学高等国際問題  
研究大学院日本学部長  
ライシャワーセンター東アジア研究所所長  
チャム・タオ・スーン  
前ナンヤン工科大学学長  
ジェラルド・L・カーティス  
コロムビア大学教授  
政策研究大学院大学客員教授  
ロナルド・P・ド  
ロンドン大学名誉教授  
ピーター・ドライステール  
オーストラリア国立大学教授  
船橋 洋一  
朝日新聞社特別編集委員  
濱下 武志  
京都大学教授(東南アジア研究センター)  
韓 昇洲  
高麗大学校教授  
蕭 新煌  
中央研究院研究員・東南アジア研究計画責任者  
国立台湾大学教授  
黄 福慶  
中央研究院近代史研究所研究員  
国立政治大学教授  
今井 賢一  
スタンフォード大学教授  
スタンフォード日本センター顧問  
石井 米雄  
人間文化研究機構機構長  
金出 武雄  
カーネギー・メロン大学U.A.アンド・ヘレン・  
ホイッティカー・ユニバーシティ教授  
産業技術総合研究所デジタルヒューマン  
研究センター長  
加藤 周一  
評論家  
元立命館大学客員教授(国際関係学)  
木田 宏  
(財)新国立劇場運営財団顧問  
元文部事務次官

金 東基  
高麗大学校名誉教授・元国際大学院院長  
韓国科学アカデミー会員  
韓国ロジスティクス協会会長  
ローレンス・R・クライン  
ペンシルヴァニア大学ベンジャミン・  
フランクリン名誉教授  
ノーベル経済学賞受賞者(1980年)  
コウ・トミー・T・B  
シンガポール外務省大使  
政策研究所所長  
公文 俊平  
国際大学教授  
グローバルコミュニケーション・センター代表  
李 元昌  
国際大学長協議会北アジア委員会委員長  
元韓南大学校総長  
李 遠哲  
中央研究院院長  
ノーベル化学賞受賞者(1986年)  
マーチン・R・リーズ  
平和大学学長  
ウィスパー・ルイス  
前ASEAN財団事務局長  
前駐日インドネシア共和国特命全權大使  
デイヴィッド・マックレーン  
ハワイ大学副学長(教学担当)  
テリー・G・マギー  
ブリティッシュ・コロムビア大学名誉教授・  
前アジア研究所所長  
ウィリアム・F・ミラー  
スタンフォード大学ヘルバード・フーバー  
名誉教授  
宮崎 勇  
株式会社大和総研名誉顧問  
元国務大臣(経済企画庁長官)  
水野 博之  
高知工科大学大学院教授  
スタンフォード大学顧問教授  
モハン・ムナシグ  
コロムビア大学客員教授  
環境と持続可能な発展に関するランカ  
国際フォーラム(LIFE)会長  
気候変動政府間パネル副議長

中根 千枝  
東京大学名誉教授  
日本学士院会員  
南部 陽一郎  
シカゴ大学名誉教授  
(エンリコ・フェルミ研究所)  
グエン・ミン・ヒエン  
グエン・トナム社会主義共和国教育・  
訓練省大臣  
元ハノイ工科大学学長  
西島 安則  
(社)日本WHO協会会長  
前京都市立芸術大学学長  
元京都大学総長  
野中 郁次郎  
一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授  
大場 智満  
(財)国際金融情報センター理事  
オリヴァー・オールドマン  
ハーヴァード大学ランド・ハンド名誉教授  
(ハーヴァード・ロー・スクール)  
李 聖根  
大邱芸術大学校総長  
前漢城大学校総長  
ジョン・G・ラギー  
ハーヴァード大学エイボン・アンド・  
ジョン・カークバトリック教授  
(ケネディ・スクール)  
佐藤 嘉恭  
東京電力株式会社顧問  
三井住友海上火災保険株式会社顧問  
元在中国日本国特命全權大使  
ロバート・A・スカラビーノ  
カリフォルニア大学(バークレイ校)  
ロブソン・リサーチ政府名誉教授  
アマーティア・セン  
ハーヴァード大学経済学部教授  
ノーベル経済学賞受賞者(1998年)  
史 敏  
中国商務発展研究センター・  
アジア・アフリカ発展研究所所長

ジョージ・A・シオリス  
ギリシア財団日本アジア研究センター所長  
日本アジア協会名誉会長  
元駐日ギリシア共和国特命全權大使  
ノルティン・ソビエ  
マレーシア戦略問題国際研究所理事長  
デーヴィッド・W・ストラングウェイ  
カナダ・イノベーション財団理事長  
前ブリティッシュ・コロムビア大学学長  
寺島 実郎  
株式会社三井物産戦略研究所所長  
(財)日本総合研究所理事長  
梅棹 忠夫  
国民民族学博物館顧問  
アンドレアス・ファン・アフト  
元オランダ王国首相  
元駐日欧州委員会代表大使  
ウィルフリッド・V・ヴィリアコルタ  
デラ・サル大学教授  
ASEAN副事務局長  
セザール・E・A・ヴィラタ  
リサール商業銀行会長  
元フィリピン首相兼大蔵大臣  
エズラ・F・ウォーゲル  
ハーヴァード大学アジアセンター研究教授  
渡辺 利夫  
拓殖大学教授(国際開発学部学部長)  
山下 義通  
イノベーション戦略研究所所長  
元アーサー・D・リトル(ジャパン)  
株式会社会長  
山澤 逸平  
国際大学学長  
一橋大学名誉教授  
吉野 洋太郎  
ハーヴァード大学ハーヴァード・  
ビジネス・スクール名誉教授  
袁 明  
北京大学教授  
国際関係研究所所長  
張 瀟瀟  
中国社会科学院アジア太平洋研究所所長



# APUの授業料・奨学金制度

## 単位制授業料

### 合理的な学費システムを実現。

APUでは、「単位制授業料」を採用。1年間の授業料は、授業に参加するために必要な「固定授業料」と、登録した単位数に応じて必要な「単位制授業料」の2つで構成されます。これにより、受講する単位数と授業料との関係がより明確になります。

一つひとつの授業と学費の結びつきがはっきりと理解できることは、学習意欲の向上にも役立ちます。また、1年間に支払う授業料の総額をみなさんがある程度コントロールできるので、課外講座(エクステンション講座など)の履修なども含め、経済面でも4年間の計画的な履修が可能になります。

充実した奨学金で意欲的な大学生活を支援します。

## 奨学金制度

### 入学時奨学金制度

入学時点で、入試成績優秀者に対し、採用を決定する奨学金です。

#### APU特別奨学金

給付

国内学生のうち、一般入学試験(APU-A方式、AP方式、F方式、E方式、センター試験併用方式、後期分割方式)において優秀な成績を修めた受験生を対象に、年額50万円を給付します。期間は1年間ですが、前年度の学業成績が優秀な学生は継続して採用し、最短修業年限まで給付します。特別奨学生に選ばれたみなさんには、合格通知とともにお知らせします。

### 在学時奨励奨学金制度

APU在学中に優秀な成績や自主活動で成果をあげた学生、あるいは下記の内容に該当する学生を対象としています。

#### 安藤百福名誉博士奨学金

給付

全学生のうち、第1セメスターおよび第2セメスター、あるいは第3セメスターおよび第4セメスターに優秀な成績を修め、かつ顕著な自主活動をおこなった学生に25万円を給付します。

#### 安藤百福名誉博士栄誉賞

給付

全学生のうち、成績優秀かつ意欲的な進路の目標を掲げている学生1人に対し、卒業時に100万円を上限に給付します。

#### 優秀学生奨励金

給付

全学生のうち、所定の修得単位を充たし、かつ各学部・各入学年度、入学セメスター期別に当該セメスター期の学業成績の上位1位の者に10万円を給付します。

#### 自主活動奨励金

給付

全学生のうち、対外的に高い評価を得た自主活動をおこなった10団体(または個人)以内を対象に、10万円を上限に給付します。

#### レジデント・アシスタント奨学金

給付

APハウス(学生寮)においてレジデント・アシスタント(RA)に選ばれた学生を対象に、月額1万円を給付します。

### 生活援助を目的とした奨学金制度

不測の事態により経済的なトラブルなどが発生した学生に対する援助を目的とした奨学金制度を用意しています。

#### 緊急授業料支援金

減免

全学生のうち、非常災害被災による経済的理由によって修学が著しく困難になった学生を対象に、年額25万円を上限として、該当する授業料を減免します。

### 1年間の授業料(2006年度)

\*授業料は入学後も毎年見直しがおこなわれます。

$$\text{授業料総額} = \text{固定授業料 } ¥597,000 + \text{単位制授業料 } ¥20,000 \times \text{登録単位数}$$

初年度は授業料に加えて入学金が必要です。+ 入学金 ¥100,000

例) 32単位分を受講登録した場合の1年間の授業料は…

$$\text{固定授業料 } ¥597,000 + \left[ \text{単位制授業料 } ¥20,000 \times 32 (\text{単位}) \right] = \text{授業料総額 } ¥1,237,000$$

\*大学を卒業するには4年間で124単位必要です

### 学費の納入時期 学費は以下のように4回に分けて納入します。

入学前 … 入学金(¥100,000)+春セメスター授業料(固定授業料¥298,500)  
春セメスター受講登録後 … 単位制授業料(春セメスター受講分¥320,000(16単位受講の場合))  
秋セメスター開始前 … 秋セメスター授業料(固定授業料¥298,500)  
秋セメスター受講登録後 … 単位制授業料(秋セメスター受講分¥320,000(16単位受講の場合))

※クロスオーバー・アドバンス・プログラム(CAP)については、別途一定の費用を徴収する予定です。詳しくは10月下旬発行予定の「一般入試要項」または入学試験の合格者に送付する「入学手続要項」を参照してください。

### 生活援助金

貸与

不測の事態によって一時的に生活が困難になった場合に、現金で2万円を3カ月間無利子で貸与します。

### 国際学生を対象とした奨学金制度

国際学生を対象とした奨学金です。入学試験と同時に選考します。

#### APU国際学生奨学金

給付

減免

APUの趣旨に賛同いただいた数多くの方々の寄付により、国際学生の人材育成を通じて、民間レベルでの国際貢献をおこなうことを目的に設置しています。

#### 学習奨励費

給付

文部科学省による奨学金で、学業成績が優秀な私費留学の国際学生を対象に、月額5万2000円が給付されます。

### 日本学生支援機構(旧日本育英会)奨学金

国が実施する日本学生支援機構奨学金は、大学在学中の春に大学経由で出願し、採用されると最短修業年限まで貸与が受けられる奨学金制度です。

#### 第1種奨学金

貸与

自宅生には54,000円、自宅外生には64,000円を、無利子で貸与。(2005年度入学者)

#### 第2種奨学金(きぼう21プラン)

貸与

3%上限の有利子で、3万円・5万円・8万円・10万円の4通りの金額から選択できます。

### 地方公共団体による奨学金

都道府県および市町村の多くが、それぞれの地域に居住する者の子女や出身の学生に対し、独自の奨学金制度を設けています。当該する都道府県市町村の教育委員会などにお問合せください。

### 民間財団による奨学金

優秀な人材の育成をはかり、社会の発展と福祉に寄与することを目的とした民間財団による奨学金制度も多種あります。(採用実績のある奨学金: 壽崎奨学金、ホームワイド奨学金、他)

詳細はHP (<http://www.apu.ac.jp> → 在学生 → 奨学金) をご覧ください。



## APU-Club・国内学生父母の会

APU-Club・国内学生父母の会では、「立命館アジア太平洋大学(APU)の教育活動に対する援助および文化的諸事業を通して、大学の充実・発展および会員相互の親睦をはかる」ことを目的として、懇談会事業、奨学金をはじめとする学生生活支援、就職活動支援の事業をおこなっています。会費は年額20,000円(春セメスター・秋セメスター各10,000円)です。徴収時期は、毎年6月(春セメスター分)と12月(秋セメスター分)となっております。

本会の詳しい事業内容については、入学後に会則および会報を郵送いたしますのでご参照ください。

父母の会では、会員(およびそのご子女のAPU学生)を対象に、主に以下のような事業を行っています。(2004年度実績)

懇談会	全国7カ所で懇談会を開催。大学・学生生活の様子を報告し、父母の皆様の関心や質問に答えます。
修学援助奨学金	奨学金A: 学費負担者死去の場合、50万円を援助 奨学金B: 学費負担者の収入が急変した場合、選考の上50万円を援助。
就職支援	インターンシップ・就職活動にかかった交通費・宿泊費の一部を補助。
学修等支援	TOEFL®・TOEIC®・ハングル語検定の受験料を補助。
国際交流支援	海外の協定大学へ派遣される交換留学生に対し、選考の上45万円を補助。
成績表送付	各セメスター修了後、会員ご子女の学業成績をご自宅へ郵送。

## 父母の声

### こんなに父母がファンになっている大学って、珍しいんじゃないかしら。

大学受験を控えた娘に、私がAPUへの入学を勧めたんです。日本に、しかも九州にいながら、こんな素晴らしい国際的環境の大学があるんです。若かったら私が入りたかったくらいです。「APU-Club・国内学生父母の会」副会長として地域懇談会に出席して驚いたのは、父母の皆さんがAPUのファンであり、熱心なこと。こんな大学って珍しいのではないのでしょうか？ 私は、別府温泉も楽しみで出席しています。APUの教授の先生方もとても気さくで、素朴な質問にも熱心に丁寧に答えてくださいます。韓国父母の会にも参加。教えてもらった韓国語で韓国の父母の前でスピーチしたんです。向こうのお母さんたちがすごく喜んでくださり、とても身近に感じました。

いつの間にか娘はたくましくなりました。娘は2005年4月から留学していますが、私も娘もAPUの生活をとおして、視野が広がり、外国への垣根がとても低くなっているように感じます。



中村早岐子さん

アジア太平洋学部在学学生中村あゆみさんのお母様。  
福岡県在住。  
仕事を持つ多忙な毎日を送る傍ら、  
「APU-Club・国内学生父母の会」副会長も務めている。

## よくある質問

- Q1** 留学生(国際学生)は、どのようにAPUに入学できますか？ **A** 欧米の大学同様、言語運用能力や各国・地域でおこなわれる学力試験、成績、活動実績などにより総合的に選抜されます。APUのスタッフは、直接世界各国・地域で学生募集活動をおこなっています。(→P12参照)
- Q2** 国際学生との交流は可能ですか？ **A** キャンパスでの学修空間のみならず、学生生活・地域環境すべてがインターナショナルです。どこにいても交流が可能です。(→P41参照)
- Q3** APUに入学するには高い英語力が必要なのですか？ **A** もちろん入学時点で高い英語力を有しているに越したことはありません。1・2回生の科目のほとんどは日本語と英語の両言語で開講されています。また、英語力は入学後にも、個人のレベルに合わせて伸ばしていくことが可能です。(→P32参照)
- Q4** 在学中に留学することは可能ですか？ **A** 交換留学のみならず、日本人学生の全てが在学中に海外で学習体験することを推奨しています。(→P33参照)
- Q5** 別府市内で適当なアパート・マンションはどのように探せばよいでしょうか？ **A** 学内に、別府市内のアパート情報を提供する(株)クレオテックがありますのでご利用ください。(→P52参照)  
電話: (0977) 78-1158 FAX: (0977) 78-1163  
ホームページ: <http://www.creotech.co.jp/apu/index.html>
- Q6** 東京からAPUキャンパスまでのアクセスを知りたいのですが。 **A** 空路で大分空港へ、空港からバスで約1時間。便数の多い福岡空港からもAPUキャンパスへの直行バスが出ており便利です(約90分)。(→裏表紙参照)



# 入試ガイド2006

## APU入試が生まれかわります。

世界の優秀学生から選ばれているAPU。

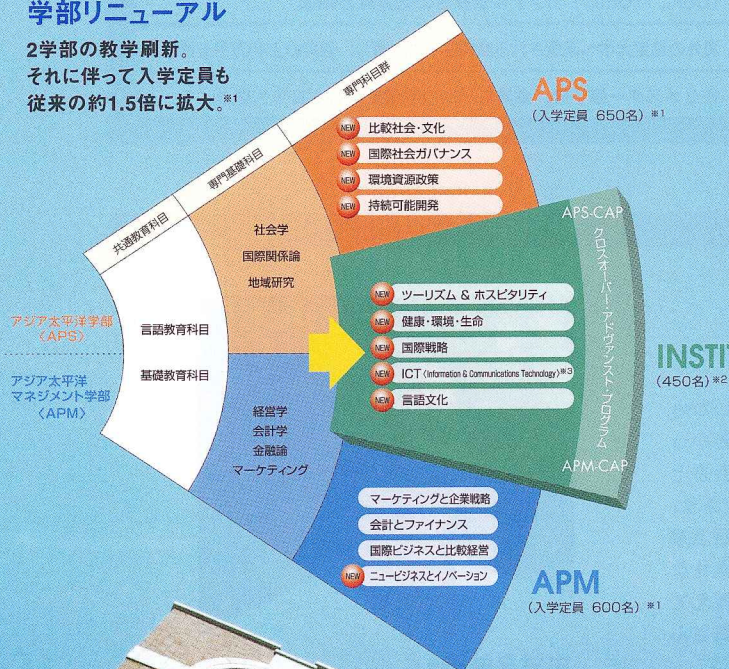
将来の夢の実現はすでに大学選択から始まっています。

APUは世界にひろがるキミの夢の実現をバックアップします。

### POINT1

#### クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラムの開設と学部リニューアル

2学部の教学刷新。  
それに伴って入学定員も従来の約1.5倍に拡大。<sup>※1</sup>



※1 本学の2006年度学則定員はAPS 650名、APM 600名、合計1,250名の予定です。(2005年5月末現在、収容定員の増加に係る学則変更を文部科学大臣に認可申請中)。

※2 所属はAPS、APMのいずれかの学部となります。なお、募集人数は各学部の内数です。

※3 「ICT」プログラムについては、2006年度は秋期(9月)入学においてのみ募集します。なお、「ICT」プログラムは「英語基準」で募集する予定です。

### POINT2

#### 一般入試の新展開

英語をはじめとする得意科目や大学入試センター試験結果も活かします。

●スタンダード3教科型がAPU-A方式としてリニューアル。

1. 国語は従来の古文を廃止し、現代文2問に。
2. TOEFL・英検などの成績を積極的に評価する「英語検定試験等評価枠(20名)」。
3. APMの英語配点が120点から100点に。

●APU英語1教科総合型(AP方式)を新規導入。

総合的な英語力とアジア太平洋地域をはじめ国際社会の諸問題への興味関心を評価。

●英語重視の英国2教科型(F方式)を計6日間で実施。

●センター試験+面接による総合評価方式を新規導入。

センター試験得点による「基礎学力」に加え、面接によって「APUで学ぶ意欲」を総合的に評価。

### POINT3

#### AO入試のリニューアル

国際標準のAO入試。「意欲・興味・関心」をはじめ、「多様な個性」を高く評価。

●「日本語基準」と「英語基準」、2つの言語基準で募集。

●「学びの適性と成長の可能性」・「高校時代の活動実績・成果」の、2つの評価基準。

●AO入試の新設とリニューアル

APUセミナー入試は、学部・CAPの「学びのテーマ」に即した入試にリニューアル。また、小論文入試、フィールドワーク入試、大分・九州未来創造入試、ビジネス創造入試などの新しい入試を提案しています。

### POINT4

#### オープンキャンパス・イベントがさらに充実

趣向を凝らしたイベントがたくさん。パワーアップしたAPUを体感しよう!

●オープンキャンパスを年5回実施。企画も一層パワーアップ。

福岡のみならず、教育界からゲストスピーカーを招き、「大学での学び」、「英語」、「国際化」などといったこれからの大学選択に役立つテーマでお話いただく予定です。また学部での学修はもちろん、学生生活紹介、国際学生との交流などの、楽しめてためになる企画が盛りだくさんです。

●福岡で毎月相談会を実施。

福岡のみならず、APUをより深く知っていただくため、天神にて毎月1回、大学紹介および相談会を実施します。APUの学生も参加し、出身国の言葉や文化も紹介、誰でも予約なしに参加が可能です。

●立命館大学オープンキャンパスにてAPUカフェ開店!

立命館大学オープンキャンパスにAPUカフェを開店し、APUならではのエスニック料理の並ぶカフェテリアを立命館大学で再現します。もちろんAPUの国際学生も参加します。

### POINT5

#### APハウスRA(レジデント・アシスタント)選抜の実施

世界中からの学生が共同生活を送る学生寮「APハウス」の学生間交流を促進し、寮生活を充実させるためのさまざまな活動をおこなうRA(レジデント・アシスタント)の選抜を入学試験得点(APU-A方式・AP方式・F方式・E方式)と書類審査・面接で実施。

#### 一般入試成績上位者には 年額50万円の奨学金を給付

APU-A方式・AP方式・F方式・E方式・センター試験併用方式・後期分割方式の入学試験において、優秀な成績を修めた合格者を対象に入学後、年額50万円のAPU特別奨学金を給付。

#### センター試験方式(5教科型・4教科型・3教科型・ベスト2科目型)の入学検定料の減額

センター試験方式(5教科型・4教科型・3教科型・ベスト2科目型)の入学検定料は、上記の入試方式間・学部間の併願・立命館大学各学部のセンター試験方式(後期型を除く)との併願において、2出願目以降すべて1出願につき10,000円へ減額。

詳細は、「入試ガイド」を参照してください。



## AO入試

### 7つのタイプのAO入試

知的好奇心にあふれ、成長可能性に満ちたみなさんを高く評価するAO入試。

#### APUセミナー入試

NEW

学部やクロスオーバー・アドヴァンスト・プログラムの専門領域への興味・関心と成長可能性を評価。

- ◆第1次選考: APUセミナー(教員による講義)を受講後に作成する講義レポート+書類審査
- ◆第2次選考: 個人面接 (APUセミナーの内容に関する質疑応答を含む)

#### 活動実績・成果アピール入試

NEW

高校時代を通じて取り組んだ文化・芸術、スポーツ、国際経験(海外留学等)、生徒会活動、ボランティア、学術活動など、さまざまな分野での活動実績・成果および入学後の展望を評価。

- ◆第1次選考: 書類審査(エントリーシート、活動実績をアピールする書類等)
- ◆第2次選考: 個人面接(活動実績を発表する時間を含む)

#### 小論文入試

NEW

アジア太平洋地域についての問題意識と、優れた文章表現力・論理展開力を評価。

- ◆第1次選考: アジア太平洋地域の諸問題をテーマとする小論文(120分・1,600字程度)+書類審査
- ◆第2次選考: 個人面接(作成した小論文に基づく口頭での発表を含む)

#### フィールドワーク入試

NEW

テーマへのアプローチから問題解決までのプロセスを評価。本学教員の講義を受講後に2日間にわたるフィールドワーク(グループワーク)を実施。

- ◆第1次選考: 書類審査(エントリーシート、リサーチプラン等)
- ◆第2次選考: フィールドワーク、個人面接(レポートに基づく口頭での発表を含む)

#### 大分・九州未来創造入試

NEW

大分・九州の未来創造への貢献意欲、地域活性化・まちづくりへの創造的ビジョンを評価。

- ◆第1次選考: 書類審査(課題レポート、エントリーシート等)
- ◆第2次選考: 個人面接(大分・九州の未来創造に関するプレゼンテーションを含む)

#### ビジネス創造入試

NEW

新しいビジネスモデルを創造する旺盛な意欲とその実現可能性を評価。

- ◆第1次選考: 書類審査(エントリーシート、課題レポート等)
- ◆第2次選考: 個人面接(ビジネス創造に関するプレゼンテーションを含む)

#### 英語基準学生AO入試

NEW

出願基準はTOEFL® 500点以上。入学後は英語「で」学習。

- ◆第1次選考: 書類審査(エントリーシート、エッセイ等)
- ◆第2次選考: 個人面接

## 一般入試は 全国19都市で実施

入試方式によって一部異なりますが、全国19都市に試験会場を設置します。試験会場による有利・不利は一切生じません。みなさんの受験スケジュールに最適な会場・日程・方式を選択し、実力を十分に発揮してください。



## 一般入試

### 全9種類の中から最適な入試方式で受験可能

一般入試は、全国19都市で全9種類の入試方式で実施。入試方式の組み合わせや同一学部・入試方式の複数回の受験が可能。

#### スタンダードAPU3教科型 (APU-A方式)

NEW

英語・国語(現代文のみ)・選択科目(政治経済・現代社会、日本史、世界史、地理、数学)の3教科型。試験日を複数設けており、最大5回の受験が可能。

#### APU英語1教科総合型 (AP方式)

NEW

英語とアジア太平洋地域の諸問題をテーマとする英語記述問題で実施。本学のアドミッションポリシーを体现する入試。

#### 英語重視の英国2教科型 (F方式)

英語・国語(現代文のみ)の2教科型。試験日を複数設けており、最大6回の受験が可能。

#### リスニング重視型 (E方式)

英語・英語リスニング・国語(現代文のみ)の2教科型。

#### 後期分割方式

3月入試

英語・国語(現代文のみ)の2教科型(全問マークシート)。2月実施のすべての入試結果を確認後(3月)に出願可能。

#### センター試験併用方式

英語・国語(現代文のみ)の本学独自試験の得点にセンター試験の受験科目の得点を加えた合計点で判定。センター試験後に出願可能で、センター試験の高得点科目を採用。

#### センター試験方式 (5教科型、4教科型、3教科型、ベスト2科目型)

センター試験の得点のみで合否を判定。各教科型の併願はもちろん、学部間の併願も可能(入学検定料の減額制度あり)。センター試験受験科目のうち高得点科目を自動的に採用。

#### センター試験+面接による総合評価方式 3月入試

NEW

センター試験の得点(300点)と面接(300点)により、基礎的な教科学力に加えて志望学部での学修への意欲や興味・関心を総合的に評価。

#### センター試験方式 後期型

3月入試

センター試験の得点のみで合否を判定。国公立大学の前期試験や2月入試の結果を確認後に出願が可能。

本学独自入試

センター試験利用入試

## その他の入試

- 帰国生徒入学試験
- 2回生・3回生編入学試験
- 日本国内在住留学生入学試験
- 秋期入学試験

### 一般入試はインターネットでも出願できます。

- インターネット出願なら、2学部の併願や複数方式で受験しても振込手数料は1回のみ。
- 検定料の支払いは指定コンビニエンスストアで。24時間いつでも支払い可能。

※詳しくは12月下旬以降にAPUのホームページにてご確認ください。

[http://www.apu.ac.jp/index\\_j.html](http://www.apu.ac.jp/index_j.html)



きみが来なくちゃ  
はじまらない!

# 2006 入試 イベント情報

## OPEN CAMPUS オープンキャンパス

年5回実施!  
さらにパワーアップ!

6月12日(日)、7月18日(祝)、8月6日(土)、9月19日(祝)、10月29日(土)  
会場/立命館アジア太平洋大学 時間/11:00~17:00

APUを1日で体験できる受験生向け最大のイベント。今年は、年5回実施し、ゲストスピーカーを招いて、「大学選択」「英語」「国際化」など受験生のみなさんに役立つ講演などを予定しています。当日は、これらの他にもたくさんのイベントを用意しています。また、希望者に主要都市からのバス・フェリーによるツアーを提供します(要予約、定員有)。  
友人やご家族もお誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。



APUでの学び・学生生活を紹介する <b>ビデオ上映、大学紹介</b>	大学選びのヒント <b>基調講演</b>	APUの学びの扉をあける <b>授業体験</b>	
APU・立命館の英語を分析 <b>入試英語対策講座</b>	気になる入試の方法がわかる <b>入試説明会</b>	APU学生が案内する <b>キャンパスツアー</b>	在学生のホンネが聞ける <b>キャンパスライフ相談会</b>

※その他サークル紹介、個別相談、父母対象説明会など

## APUサマーキャンプ2005

## 夏の3日間 APU学生になろう!

毎年、全国から高校3年生が集まり、APUの学生と最終日のプレゼンテーションに向けて調べ、教えあい、激論をかわす熱い3日間を過ごします。APハウスセミナールームに宿泊し、夏の3日間APU学生体験をしてみませんか? APUの学生と一緒に過ごす数日間、きっとあなたの未来と可能性が見えてくるはず!

- APU教員による ●学修技法セミナー
- アジア太平洋地域理解セミナー

- APU在学生と一緒に ●グループワーク
- プレゼンテーション

対象:高校3年生 募集人数:70人

※応募者多数の場合は応募書類にもとづく選考をおこないます。

申込受付期間:6月1日(水)~7月1日(金)

開催日/7月30日(土)~8月1日(月)  
会場/APUキャンパス



## キャンパス見学日

週末や祝日にも右記の日程でキャンパスツアーと個別相談を実施していますので、是非キャンパスへお越しください。

時間:①11:00~②14:00~

場所:APUカフェテリア内特設ブース(スチューデントユニオン1階)

※平日のキャンパス見学も可能です。APUアドミッションズ・オフィス(Tel.0977-78-1120)までお問い合わせください。

開催日			
6月18日(土)	8月20日(土)	10月8日(土)	11月12日(土)
6月25日(土)	9月10日(土)	10月10日(祝)	11月26日(土)
7月9日(土)	9月24日(土)	10月22日(土)	12月10日(土)
7月23日(土)		10月30日(日)	12月23日(祝)



ここでも  
会える!

## 立命館大学 衣笠／びわこ・くさつキャンパス

立命館大学のオープンキャンパスにて、「APUカフェ」を開店します。APUの説明会・相談会はもちろん、APUならではのエスニック料理が並ぶカフェテリアの雰囲気再現します。

	開催日	開催地	会場	開催時間
第1回	6月26日(日)	京都 滋賀	京都／衣笠キャンパス 滋賀／びわこ・くさつキャンパス	12:00～17:00
第2回	7月31日(日)			12:00～17:00
第3回	8月1日(月)			10:00～17:00
第4回	8月2日(火)			12:00～17:00
第5回	9月19日(祝)			12:00～17:00
第6回	11月5日(土)			12:00～17:00



## デリバリーキャンパス APU・立命館大学共催

11月から全国各地で「デリバリーキャンパス」を開催します。目前に迫った一般入試説明、個別受験相談、科目別入試問題解説などを実施予定です。また、願書を無料で配布します。

開催日	開催地	会場	開催時間
11月3日(祝)	福岡	IMSホール・GAYA	13:00～15:00/16:00～18:00
11月6日(日)	名古屋	愛知県中小企業センター	13:00～17:00
11月12日(土)	東京	新宿センタービル51階サンスカイルーム	15:00～18:00
11月19日(土)	大阪	Namba Place	15:00～18:00



## 福岡相談会

みなさんにAPUをよりよく知っていただくため、天神にて毎月出張相談会を実施します。APU学生も毎回参加し、出身国・地域の言葉や文化を紹介するので、国際交流に興味ある方もぜひお立ち寄りください。

会場／「こくさいひろば」会議室 アクロス福岡3階  
開催時間／17:00～18:30

日程／原則第3水曜日(6月～1月)

(詳細はAPUメイト.netのHPでご確認ください。)

※「こくさいひろば」会議室 アクロス福岡3階  
地下鉄天神駅16番出口 徒歩2分

APUの  
AO入試について  
知りたい!

## AO入試説明会

2006年度にほぼ全面的に改定されるAPUのAO入試について、各方式別に選考方法や評価基準など全体的な説明をおこないます。

開催日	開催地	会場	開催時間
7月1日(金)	福岡	福岡ガーデンパレス	17:00～18:00
7月8日(金)	大阪	立命館アカデミア@大阪	17:00～18:00
7月11日(月)	東京	アルカディア市ヶ谷	17:00～18:00
7月12日(火)	名古屋	名古屋ガーデンパレス	17:00～18:00

## AOプレセミナー APU・立命館大学共催

「AO入試」における試験の進め方や評価ポイントなどについて、実際に学部教員が解説をします。

開催日	開催地	会場	開催時間
7月22日(金)	東京	代々木ゼミナール池袋校	15:00～16:00
7月25日(月)	名古屋	代々木ゼミナール名古屋校(JECビル)	15:00～16:00
8月25日(木)	福岡	代々木ゼミナール福岡校	15:00～16:00
8月26日(金)	大阪	立命館アカデミア@大阪	15:00～16:00

※各地の相談会ブースでも、APUのAO入試について、個別相談が受けられます。お近くの会場をチェックしてください! (詳しい日程は、相談会ページ(P65)をご覧ください)



# 立命館アジア太平洋大学・立命館大学 入試相談会

立命館アジア太平洋大学・立命館大学の入試に関する情報・アドバイスをおこなう入試相談会を全国で開催。  
入学アドバイザーが受験生のみなさんの質問にお答えします。お近くの会場を選んで参加してください。

## 立命館アジア太平洋大学入試相談会

①:帰国生のための学校説明会・相談会 ②:「英語に力を入れた大学」相談会 ③:AO推薦入試対策ガイダンス

地域	開催日	開催地	会場	開催時間	地域	開催日	開催地	会場	開催時間	地域	開催日	開催地	会場	開催時間
関東	6月21日(火)	千葉	ペリエ(千葉駅ビル)	14:30~18:00	関東	9月1日(木)	千葉	ペリエ(千葉駅ビル)	13:00~18:00	九州	6月17日(金)	大分	大分全日空ホテルオアシスタワー	14:00~18:00
① 関東	7月28日(木)	東京	国立オリンピック記念青少年総合センター	13:30~16:30	① 近畿	7月30日(土)	大阪	大阪YMCAホール	13:30~16:30	③ 九州	7月21日(木)	福岡	エルガーラ	15:00~18:00
関東	8月19日(金)	大宮	大宮ソニックシティ	13:00~16:00	九州	6月13日(月)	福岡	ホテルニューオータニ博多	14:30~18:30	③ 九州	7月22日(金)	熊本	熊本テルサ	15:00~18:00
関東	8月25日(木)	横浜	横浜新都市ビル(そごう)	13:00~16:00	九州	6月15日(水)	鹿児島	いわさきホテル・ザビエル450	15:00~18:30					
② 関東	9月10日(土)	渋谷	渋谷エクセルホテル東急	15:00~18:00	九州	6月16日(木)	宮崎	ウェルシティ宮崎	15:00~18:30					

## 立命館アジア太平洋大学 立命館大学合同ガイダンス ★マークの会場は資料のみの参加となります。

### 北海道・東北

開催日	開催地	会場	開催時間
6月22日(水)	秋田	秋田キャッスルホテル	14:30~18:00
6月23日(木)	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡	14:30~18:00
6月24日(金)	青森	青森国際ホテル	14:30~18:00
7月16日(土)	仙台	仙台国際センター	10:00~16:00
8月20日(土)	仙台	仙台サンプラザホール	11:00~16:00
8月25日(木)	函館	ベルクラシック函館	15:00~18:00
8月26日(金)	札幌	札幌パークホテル	15:00~18:00
9月 5日(月)	福島	ホテル福島グリーンパレス	14:30~18:00
9月 6日(火)	郡山	郡山ビューホテルアネックス	14:30~18:00
9月 7日(水)	会津若松	会津若松ワシントンホテル	14:30~18:00

### 関東

開催日	開催地	会場	開催時間
6月 7日(火)★	宇都宮	マロニエプラザ	13:30~18:30
6月 8日(水)★	水戸	水戸プラザホテル	14:30~18:30
6月10日(金)★	高崎	高崎サンパレス	14:30~18:00
6月12日(日)	東京	立川グランドホテル	11:00~17:00
6月20日(日)	大宮	大宮ソニックシティ	14:30~18:00
7月 9日(土)	東京	新宿NSビル	10:00~16:00
7月10日(日)	東京	野洲サンプラザインコンベンションセンター	10:00~17:00
7月16日(土)	東京	日本武道館	10:00~16:00
8月 6日(土)	横浜	パシフィコ横浜	10:00~16:00

### 北陸

開催日	開催地	会場	開催時間
6月 2日(木)	金沢	ラブリック町	15:00~19:00
6月 3日(金)	富山	いきいきKAN多目的ホール	15:00~19:00
6月 4日(土)	福井	福井県国際交流会館	13:00~16:30
8月 8日(月)	富山	いきいきKAN多目的ホール	13:00~17:00
8月 9日(火)	金沢	金沢エクセルホテル東急	13:00~17:00
8月10日(水)	福井	福井ワシントンホテル	13:00~17:00

### 中部・東海

開催日	開催地	会場	開催時間
6月 2日(木)★	松本	ホテルエナピスタ	14:30~18:30
6月 3日(金)★	長野	ホテルメトロポリタン長野	14:30~18:30
6月14日(火)	静岡	ツインメッセ静岡	14:30~18:30
6月15日(水)	浜松	アクティシティ浜松	14:30~18:30
6月18日(土)	岐阜	岐阜市文化センター	13:00~17:00
6月18日(土)	名古屋	吹上ホール	10:00~17:00
6月19日(日)	名古屋	愛知県中小企業センター	13:00~17:00
7月18日(水)	名古屋	吹上ホール	11:00~16:00
7月31日(日)	名古屋	名古屋国際会議場	10:00~16:00
8月21日(日)	名古屋	愛知県中小企業センター	13:00~17:00
8月28日(日)	津	ホテルグリーンパーク津	13:00~17:00
9月 2日(金)	甲府	ベルクラシック甲府	15:00~18:00
9月 3日(土)	静岡	ツインメッセ静岡	13:00~18:00
9月 6日(火)	松本	ホテルエナピスタ	15:00~18:30

### 近畿

開催日	開催地	会場	開催時間
9月 7日(水)	長野	ホテルメトロポリタン長野	15:00~18:30
9月 8日(木)	長岡	ホテルニューオータニ長岡	15:00~18:00
9月 9日(金)	新潟	ホテル新潟	15:00~18:30
9月13日(火)	静岡	ツインメッセ静岡	15:00~18:00
9月14日(水)	浜松	アクティシティ浜松	15:00~18:00
12月10日(土)	名古屋	愛知県中小企業センター	13:00~16:00

### 近畿

開催日	開催地	会場	開催時間
5月28日(土)	神戸	神戸サンボーホール	13:00~17:00
5月28日(土)	大阪	天王寺MIO	13:00~17:00
5月29日(日)	京都	烏丸ホール	13:00~17:00
6月 5日(日)	大阪	梅田ステラホール	13:00~17:00
6月11日(土)	大阪	大阪府立体育会館	13:00~17:00
6月11日(土)	奈良	なら100年会館	13:00~17:00
6月18日(土)	京都	京都市勧業館(みやこめっせ)	12:00~16:00
6月18日(土)	神戸	神戸サンボーホール	13:00~17:00
6月18日(土)	紀伊田辺	紀伊田辺シティプラザホテル	13:00~17:00
6月19日(日)	和歌山	和歌山JA会館	13:00~17:00
6月19日(日)	大阪	梅田スカイビル タワーウエスト	12:00~16:00
6月26日(日)	奈良	なら100年会館	13:00~17:00
7月16日(土)	神戸	神戸市立科学技術高等学校	9:00~17:00
7月17日(日)	大阪	大阪城ホール	10:00~16:00
7月20日(水)	和歌山	サンプラザ方助	13:00~17:00
7月23日(土)	大阪	大阪府教育センター	9:00~17:00
7月24日(日)	大阪	大阪ドーム	10:00~16:00
8月24日(水)	大阪	天王寺MIO	13:00~17:00
8月27日(土)	京都	ばるるプラザ京都	13:00~17:00
8月27日(土)	和歌山	和歌山JA会館	13:00~17:00
8月28日(日)	奈良	なら100年会館	13:00~17:00
8月31日(水)	姫路	ホテル日経姫路(旧ホテルサンガア姫路)	13:00~17:00
9月24日(土)	大阪	梅田スカイビル タワーウエスト	11:00~17:00
9月24日(土)	奈良	ホテル日経奈良(旧三井アインホテル奈良)	13:00~17:00
9月25日(日)	京都	ばるるプラザ京都	13:00~17:00
10月 1日(土)	大阪	大阪府立体育会館	13:00~17:00
10月 2日(日)	神戸	神戸サンボーホール	13:00~17:00
10月 2日(日)	福知山	京都創成大学	10:00~17:00
10月29日(土)	京都	大谷大学	9:00~17:00
12月11日(日)	大阪	大阪府立体育会館	13:00~17:00
12月18日(日)	京都	ばるるプラザ京都	13:00~16:00

### 中国

開催日	開催地	会場	開催時間
5月 28日(土)	広島	基町クレド	10:00~17:00
5月 28日(土)	岡山	岡山コンベンションセンター	13:00~17:00
5月 30日(月)	福山	福山ニューキャッスルホテル	15:00~18:30
5月 31日(火)	岡山	岡山コンベンションセンター	15:00~18:30
6月16日(木)	鳥取	ホテルモナーク鳥取	15:00~18:30
6月17日(金)	米子	米子全日空ホテル	15:30~18:30
6月18日(土)	松江	くにびきメッセ	13:00~16:30
8月11日(木)	広島	広島グリーンアリーナ	11:00~17:00

開催日	開催地	会場	開催時間
8月20日(土)	岡山	ホテルグランヴィア岡山	13:00~17:00
8月29日(月)	広島	基町クレド	14:30~18:30
8月30日(火)	福山	福山ニューキャッスルホテル	14:30~18:30
9月13日(火)	鳥取	ホテルニューオータニ鳥取	15:00~18:30
9月14日(水)	米子	米子ワシントンホテルプラザ	15:00~18:30
9月15日(木)	松江	松江東急イン	15:00~18:30
10月 3日(月)	広島	基町クレド	15:00~18:00
10月 4日(火)	福山	福山ニューキャッスルホテル	15:00~18:00
10月 5日(水)	岡山	ラヴィール岡山	15:00~18:00
12月 7日(水)★	広島	基町クレド	15:00~18:00
12月 8日(木)★	福山	福山商工会議所	15:00~18:00
12月 9日(金)★	岡山	ラヴィール岡山	15:00~18:00

### 四国

開催日	開催地	会場	開催時間
6月 6日(月)	徳島	ホテルクレメント徳島	15:00~18:00
6月 7日(火)	高知	高知新飯急ホテル	15:00~18:00
6月 8日(水)	松山	松山市総合コミュニティセンター	15:00~18:00
6月 9日(木)	高松	全日空ホテルクレメント高松	15:00~18:00
6月10日(金)★	新居浜	リーガロイヤルホテル新居浜	15:00~18:00
8月 6日(土)	高松	ホテルニューフロンティア	13:00~17:00
8月 7日(日)	徳島	ホテルクレメント徳島	13:00~17:00
9月 5日(月)	高知	高知新飯急ホテル	15:00~18:30
9月 6日(火)	徳島	ホテルクレメント徳島	14:30~18:30
9月13日(火)	高松	全日空ホテルクレメント高松	15:00~18:30
9月14日(水)	松山	愛媛県県民文化会館	15:00~18:30

### 九州・沖縄

開催日	開催地	会場	開催時間
6月 6日(月)★	福岡	ホテルニューオータニ博多	15:00~18:30
6月 7日(火)★	熊本	ホテル日航熊本	15:00~18:30
6月 8日(水)★	長崎	長崎プリンスホテル	15:00~18:30
6月 9日(木)★	佐賀	ロイヤルチェスター 佐賀	15:00~18:30
6月10日(金)★	大分	トキハ会館	15:00~18:30
6月13日(月)	北九州	ステーションホテル小倉	15:00~18:30
7月14日(木)	沖縄	おきでん那覇ビル(おきでんふれあいホール)	15:00~19:00
7月15日(金)	沖縄	おきでん那覇ビル(おきでんふれあいホール)	15:00~19:00
7月24日(日)	福岡	福岡国際センター	11:00~16:00
9月12日(月)	長崎	長崎プリンスホテル	15:00~18:30
9月13日(火)	佐賀	マリトピア	15:00~18:30
9月14日(水)	熊本	ホテル日航熊本	15:00~18:30
9月15日(木)	大分	トキハ会館	15:00~18:30
9月29日(木)	福岡	ソラリア西鉄ホテル	15:00~18:30
9月30日(金)	北九州	リーガロイヤルホテル小倉	15:00~18:30
10月 3日(月)	宮崎	MRT micc	15:00~18:30
10月 4日(火)	鹿児島	鹿児島アリーナ	15:00~18:30
12月 7日(水)★	大分	トキハ会館	15:00~18:00
12月 8日(木)★	熊本	鶴屋百貨店	15:00~18:00
12月 9日(金)★	福岡	西鉄ホール	15:00~18:00





APUメイトは、  
受験生の強い味方。

<http://www.apumate.net/>  
に今すぐアクセス!

深く多彩なAPUを  
知りたいなら、  
今すぐアクセス!

入会費・会費  
**無料**

APUメイトは、APUへの入学をめざす受験生のための会員組織。そしてその公式ホームページが「APUメイト.net」です。ここでは入試やイベント情報などに関する多彩な情報を掲載しています。またAPUメイトに登録すれば、現役APU学生に質問を送ったり、APUをめざす受験生どうしてコミュニケーションをはかったり、APUの過去の入試問題にチャレンジできるほか、キャンパスライフやイベント情報など、APUの最新情報を随時お届けします。これからさらに更新、パワーアップする予定です。お楽しみに!

まずは上記のアドレスにアクセスし、「APUメイト.net」を開いてください(APUのオフィシャルホームページ[<http://www.apu.ac.jp/>]からもリンクしています)。

TOP画面の右側にある「入会はこちら」のバーをクリックし、「APUメイト入会登録フォーム」の各項目に必要な事項を記入して送信ボタンをクリック。

専用のユーザー名とパスワードが発行されれば登録完了です。

## Let's try



今の実力をオンラインでチェック!

APUの過去の入試問題にオンライン上でチャレンジできます。制限時間を設けたり、学習履歴や個人成績表をもとに解答見直しも可能。リアルタイムのランキングにも参加でき、自分の実力がチェックできます。

## Communication



APUの先輩たちと交流できます。

APUメイト会員専用コンテンツには、APUで学ぶ国内学生や国際学生、APUをめざす受験生と電子掲示板上で交流できるコーナーがあります。受験や学生生活などに関する質問を書き込み、APUの魅力を再発見してください。

## Study Abroad & Club Activities



APUの充実したキャンパスライフ。

APUでは、全ての学生がキャンパスライフを満喫できるように、留学制度やサークル活動といった、正課外の活動も積極的に支援しています。このページでは、サークル一覧や留学制度の詳細を知ることができます。

## Q & A



APUに関する疑問を解決します。

APUの学生はどんな大学生活を送っているの? 国際学生との交流は? APUハウスって? 「APU FAQよくある質問大特集」では、みなさんのさまざまな質問に答えます。APUに関する不安や疑問はここで解決しましょう。

資料のご請求は...

APUメイトから

●<http://www.apumate.net/>

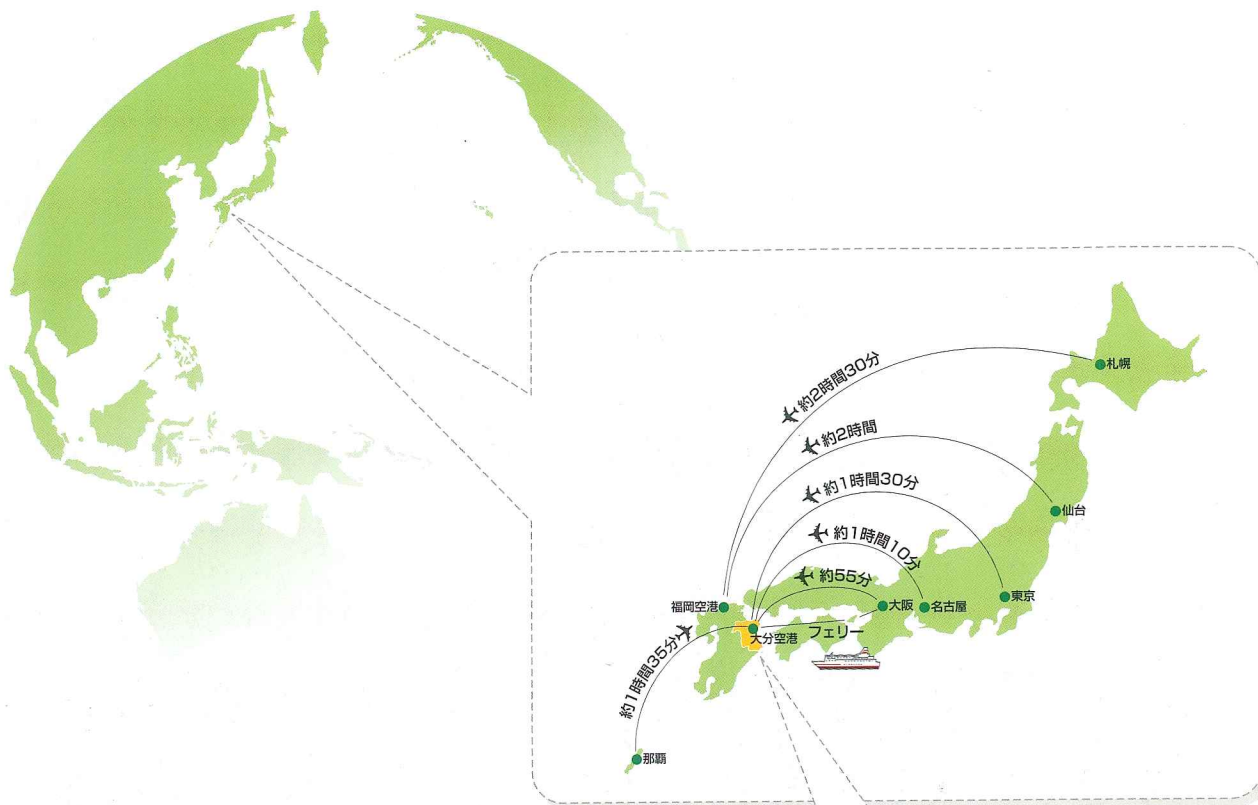
●APUアドミッションズ・オフィス TEL:0977-78-1120

MAIL: [ml-apuinfo@ml.apu.ac.jp](mailto:ml-apuinfo@ml.apu.ac.jp)

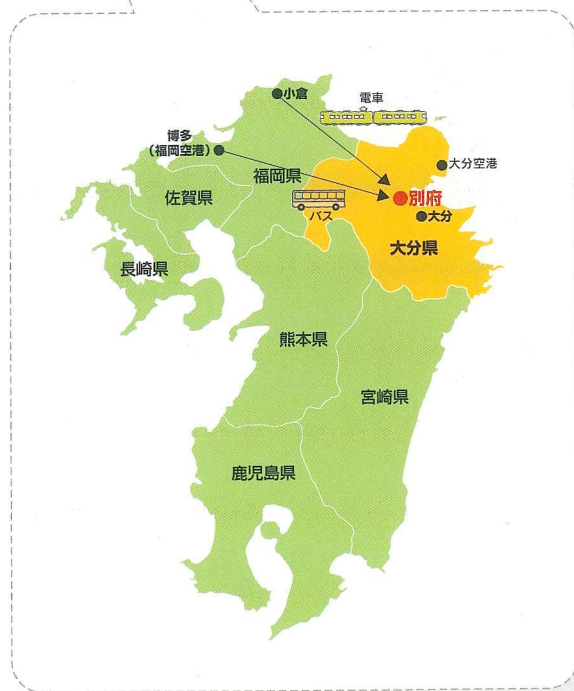
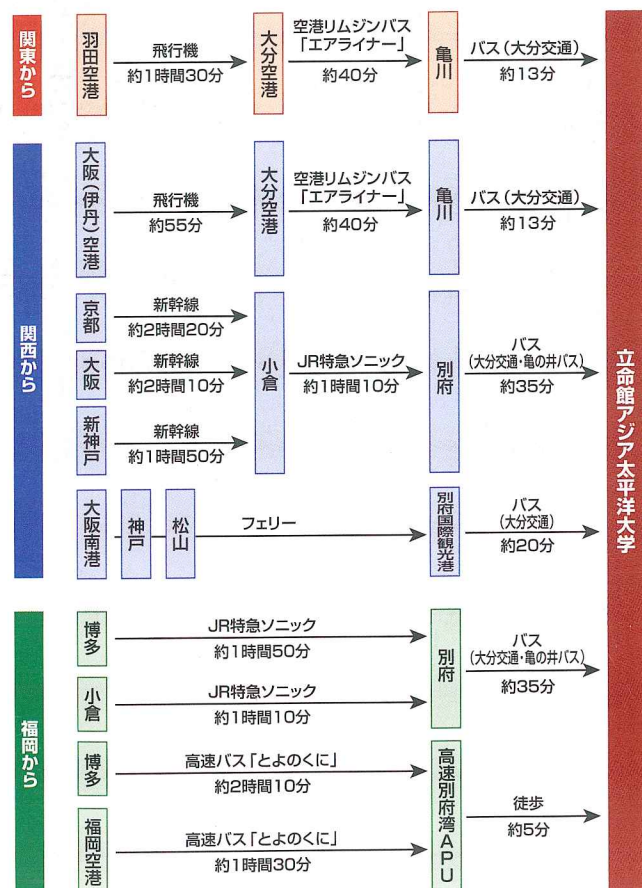
入試やAPUに関する質問・相談を受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

受付時間/9:00~17:30(土・日・祝日を除く)





## ACCESS



APU 立命館大学 <http://www.apumate.net/>  
<http://www.ritsumei.ac.jp/ritsnet/>

## 立命館アジア太平洋大学

〈キャンパス所在地〉  
 〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1

〈お問い合わせ〉  
 APUアドミッションズ・オフィス  
 TEL.0977-78-1120 FAX.0977-78-1121  
 E-mail: ml-apuinfo@ml.apu.ac.jp  
 立命館大学 入学センター  
 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
 TEL.075-465-1111(代) FAX.075-465-8210